

KEIO

あなたと あたらしい あしたへ — 京王グループ

安全・社会・環境報告書

2017
CSRレポート



京王グループ 理念

私たち京王グループは、
つながりあうすべての人に誠実であり、環境にやさしく、
「信頼のトップブランド」になることを目指します。
そして、幸せな暮らしの実現に向かって
生活に溶け込むサービスの充実に日々チャレンジします。

(2003年1月1日制定)

京王グループでは、生活関連サービス事業者として運輸業、流通業、不動産業、レジャー・サービス業などの事業を展開しています。グループ経営を強化していくにあたり、京王グループの存在意義を明文化し、価値観を共有するため、2003年1月に

「京王グループ理念」を制定しました。

この「京王グループ理念」のもと、グループ一丸となって総合力を高め、グループとしての企業価値向上に努めています。

京王グループ スローガン

あなたと あたらしい あしたへ —— 京王グループ

グループ理念をさらに浸透させていくため、京王グループではスローガンを定め、信頼される京王ブランドの確立に努めています。

沿線の方々をはじめとするお客様・株主・取引先と

いった、つながりあうすべての人とともに、さらに快適で幸せな暮らしの実現に向けて前進していきたい。その思いを胸に掲げて、「あたらしい あした」を力強く目指しています。

(2003年1月1日制定)

京王グループ 行動規範

「信頼のトップブランド」になるため、私たちは以下のとおり行動します。

企業活動を通じて社会に貢献します

- お客様の幸せな生活に資する商品・サービスを提供します
- 常に商品・サービスの品質、安全性の向上を追求します
- 適時適切な情報開示に努めるとともに、お客様の声を事業活動に活かします

法令・社内規程を遵守し、健全・公正な企業活動を行って、企業価値の向上に努めます

- 全てのステークホルダー（お客様・株主・取引先・社員などの関係者）に対して、相互に適正な利益を確保できるよう互いを尊重します
- 法令を正しく理解し、法令に則った手続きを行うことで、公的機関等と適切な関係を維持します

- 反社会的な組織、人物に対しては断固とした姿勢で臨みます
- 知的財産や情報の取扱いに細心の注意を払います
- 社員個人の権利を尊重し、社員同士が信頼しあえる風通しの良い職場づくりをします

社会の一員としての責任を果たします

- すべての人にやさしい環境づくりを進めます
- リサイクル、省エネなど環境保護に積極的に取り組みます
- 社会に貢献し、社会と共に発展するための活動に取り組みます
- 社会の変化に対応し、よき企業市民であるためのチャレンジをしつづけます

(2003年1月1日制定、2012年4月1日改定)

トップメッセージ	2	■ 社会性報告	
中期経営計画	4	メッセージ	42
財務・非財務情報	6	社会性報告:	
特集 座席指定列車の導入	8	住んでもらえる、選んでもらえる沿線づくり	44
コーポレート・ガバナンス	10	お客様の利便性・快適性の向上	46
■ 安全報告		お客様との対話	50
メッセージ	12	多世代が生活しやすい沿線づくり	52
安全方針・安全管理体制	13	地域社会への貢献	54
安全報告:		地域社会・行政との連携	57
全社員一丸での安全優先の鉄道づくり	14	人材の活用と働きやすい職場づくり	59
安全管理方法	16	株主・投資家・取引先等への取り組み	63
2016年度 安全目標・安全重点施策	17	■ 環境報告	
人材の育成	18	メッセージ	64
安全文化の構築	20	環境方針	65
危機に備えた訓練	22	環境報告: 環境保全の推進	66
施設・設備の取り組み	24	環境マネジメント	68
日々の保守管理	30	低炭素社会を目指して	70
災害などへの備え	32	循環型社会を目指して	74
その他の取り組み	35	自然共生社会を目指して	76
2016年度 輸送安全実績	36	環境関連データ	78
2017年度 安全目標・安全重点施策	37	CSRアクションプラン	80
お客様との連携	38	ガイドライン対照表／会社概要	82
グループ会社の安全対策	40	第三者意見	85

編集方針

本報告書は、多角的な事業を展開する京王グループの活動を安全・社会・環境面から捉え、どのような考えを持って取り組んでいるかを、分かりやすくお伝えするものです。

当社の最大の使命である安全への取り組みをはじめとして、ステークホルダーに対する取り組みが伝わるよう留意しました。

なお、より詳しく、視覚的、タイムリーにお伝えするため、京王ホームページ、京王ニュース、環境・CSRポスター、インバスターズガイドなどでも適切な情報発信に努めています。あわせてご覧ください。

本報告書は、鉄道事業法第19条の4により公表が義務付けられた「安全報告書」を兼ねているほか、皆様とのコミュニケーションを深めるための重要なツールと位置付けています。

【報告範囲・報告期間】

- 本報告書は、京王電鉄単体(鉄道事業部門、開発事業部門、一般管理部門)の2016年度(2016年4月1日～2017年3月31日)の報告です。当該年度以外の事例や京王グループの事例も一部掲載しています。
- 環境負荷データおよび環境会計データは、京王電鉄単体の2014年度～2016年度のデータです。

【参考にした報告ガイドライン】

- 鉄軌道事業者による安全報告書の作成手引き(国土交通省)
- 環境報告ガイドライン(2012年版、環境省)
- ISO26000(国際標準化機構)
- サステナビリティ・レポート・ガイドライン第4版(G4)(Global Reporting Initiative)

京王グループとつながりあう すべての皆さまに「安心」をお届けし、 信頼のトップブランドの確立を図ってまいります



京王電鉄株式会社 代表取締役社長

紅村 康

京王グループは京王グループ理念として、「つながりあうすべての人に誠実であり」、「環境にやさしく」、「信頼のトップブランド」となることを掲げています。

そして、「信頼のトップブランド」となるため、京王グループ行動規範を制定し、企業活動の指針としています。

特に、当社をはじめとする京王グループのすべての運輸事業者は、「輸送の安全性」の確保という、極めて重要な使命を担っており、この使命を果たすことによって、京王グループの信頼性は構築される、との考えのもと、事業を展開しています。

そうした考えをもとに、当社とつながりあうさまざまなステークホルダーに対するひとつのコミュニケーションツールとして、本CSRレポートは安全、社会、環境という整理をまとめています。

安全の確保を最優先に

鉄道事業では、2016年度も安全性向上への取り組みとして、京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業について、踏切25カ所の解消に向けて事業主体である東京都とともに用地取得や設計業務などを推進しました。また、高架橋柱や

トンネル、盛土区間を対象とした耐震補強工事を引き続き進めたほか、1日の利用者数が10万人以上の駅へのホームドア整備計画を策定しました。

また、当社・他社の事故の経緯・原因等を学ぶ「事故展示室」を、デジタルサイネージを新たに導入した「安全啓発室」としてリニューアルし、安全意識のさらなる向上と、安全行動の継続的改善を促す取り組みを推進しています。

こうした施策もあり、鉄道等運転無事故事業者表彰を3年連続で受賞いたしました。



鉄道教習所「安全啓発室」視察会



環境にやさしい電車を目指した取り組み —安全・環境に配慮した新型車両の導入

本冊子の表紙のとおり、このたび、2001年以来となる新型車両5000系を導入しました。車いす・ベビーカースペース、無料公衆無線LAN、空気清浄機の全車両設置といった利便性向上はもちろんのこと、安全性向上として、全車両に防犯カメラを設置しているほか、ドアの挟まれを検知すると自動で扉が途中で開き、その後閉まる電気式側引戸システムを導入しています。また、既存車両において切り替えを進めている新型VVVFインバータ制御装置やLED照明の導入に加えて、当社では初となる車上蓄電池システムを導入し、さらなる省エネルギー化の推進を図ります。

今後も、電力の使用量削減をはじめ、さまざまな環境に配慮した施策を進めていきます。

住んでもらえる、選んでもらえる 沿線づくりの推進

京王グループでは、沿線が将来にわたり活力を維持し、多世代にとって暮らしやすく魅力的な街となるよう、「住んでもらえる、選んでもらえる沿線」づくりを進めています。

2015年度の鉄道ダイヤ改正により、都心方面へのアクセス強化や高尾山からの帰路の利便性向上を図りましたが、さらに、勤務先や外出先からのお帰りに際して長距離区間をご利用になられるお客様の着席ニーズにお応えするため、先にご紹介した新型車両による有料座席指定列車の運行を、2018年春から開始します。

また、調布エリアの新たなランドマークとして、商業施設「トリエ京王調布」の建設を進め、この9月に開業を迎えたほか、多摩動物公園駅前におけるお客様向け遊戯施設の着工、サービス付き高齢者向け住宅「スマイラス聖蹟桜ヶ丘」の竣工・開業を行うなど多世代にとって魅力ある街の創出に、引き続き取り組んでいきます。

さらに、地域連携・共生として、京王線・井の頭線沿線にて大学・団体とともに「京王アカデミープログラム」と題した

「文化」「教育」「子育て」に関する学びの機会を提供しているほか、「京王駅伝フェスティバル」をはじめとしたスポーツ文化の振興やチャリティイベントを継続して実施しています。また、高速バスを運行する中部地方の事業者や関係自治体と、新たな広域観光ルートづくりや高速バスフリーきっぷの販売、新宿の観光案内所での情報提供等を行い、地域の観光産業の活性化を進めています。

信頼のトップブランドの確立に向けて

京王グループは、2020年度をあるべき姿の目標年度として2015年度から始まった「中期3カ年経営計画」も最終年度となり、成長に向けた土台作りの完遂と、次のステージである成長の実現シナリオを見据える時期を迎えています。さらに、その先の2030年代の事業環境でも存在し続けられる企業であるために、今後より一層「経営の安定性」を高め、企業としての「社会的責任」を果たし、京王グループとつながりあうすべての皆さまに「安心」を提供することで、「信頼のトップブランド」を確立するため、努力してまいります。今後も、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



京王駅伝フェスティバル2016表彰式

企業価値の向上を目指して

京王グループでは、2020年度を目標年度として、企業グループの収益基盤構築に取り組みます。その土台作りの期間として、前半の2015年度～2017年度について「京王グループ中期3カ

年経営計画」を策定し、グループ全体で各事業を推進しています。今後も、企業としての社会的責任を果たし「信頼のトップブランド」の確立を目指していきます。

2020年代のありたい姿

グループの総合力を活用し、さらなる企業価値の向上を実現

第1期（2015年度～2017年度）

<成長に向けた土台作り>

- 成長分野への積極投資
- 既存事業の選択と集中

第2期（2018年度～2020年度）

<成長の実現>

- 第1期で進めた土台作りからの成長の実現
- さらなる投資拡大による好循環の実現

● 中期3カ年経営計画（2015年度～2017年度）の成長ストーリーと2017年度の実施策

機会を捉えた事業拡大

宿泊需要増大

インバウンド・アウトバウンド市場拡大

シェアコミュニティ市場拡大

実施施策

ホテル事業の拡大

インバウンドビジネスの拡大

リノベーション事業の拡大

アッパーミドルホテル開業準備推進
京王プレzzoインの出店拡大

中央道を中心とした
広域観光ルートの準備

民泊運営体制の確立およびエリア展開の
推進・シェア型複合ホテルの展開

施策 新たなホテルブランドの展開

新しいカテゴリーの宿泊特化型アッパーミドルホテル「京王プレミアホテル」を展開します。1号店は京都に2018年秋の開業、2号店は札幌に2019年夏の開業を目指します。また、2017年5月に、京都でのホテル運営を行う新会社「株式会社京王プレミアホテル京都」を設立しました。



京王プレミアホテル
京都烏丸五条 (仮称)



京王
プレミア
ホテル
札幌 (仮称)



沿線既存事業の収益力強化

競争激化
(特に流通業)

沿線人口減

実施
施策

駅周辺スペースの活用

複合店舗の開業準備推進

沿線価値の向上

多摩動物公園駅隣接遊戯施設の開業
老人ホーム、保育所などの検討推進

沿線拠点の活性化

調布での商業施設開業
新宿エリア活性化に向けた協議の推進

施策 「トリエ京王調布」の開業

2017年9月、調布駅周辺に商業施設「トリエ京王調布」が開業しました。「調布らしいちょっとステキな生活」をコンセプトに、「京王百貨店」のサテライト店舗や調布ゆかりの店舗などが出店しました。これにより、調布への来街機会拡大・街の賑わい創出を目指します。



調布駅周辺の鳥瞰イメージ

良好な財務体質

現行水準を維持

実施
施策

財務優位性を維持

2016年度実績値
D/Eレシオ:1.0倍

● 中期3カ年経営計画最終年度である2017年度経営計画

1 鉄道事業の安全性・収益力の向上

- ・安全性の向上
- ・収益力の向上

2 沿線の活性化

- ・拠点開発の着実な推進
- ・沿線における事業機会の獲得

3 成長に向けた取り組み

- ・インバウンド需要の獲得
- ・ホテル事業の拡大
- ・駅ビジネス事業の収益力向上

4 企業の社会的責任に対する取り組み

- ・**環境面**…運転用電力削減によるCO₂排出量削減・環境プログラムの継続実施
- ・**社会面**…ダイバーシティ経営の推進・地域社会への貢献・多世代が生活しやすい沿線づくりの推進

2017年度数値目標

	2015年度 実績	2016年度 実績	2017年度 中計目標	2017年度 業績予想
連結営業収益	4,162億円	4,189億円	4,300億円	4,342億円
連結営業利益	377億円	379億円	370億円	389億円
連結当期純利益	194億円	211億円	200億円	230億円
連結EBITDA	737億円	730億円	720億円	748億円
総投資額	463億円	617億円	771億円	845億円
うち戦略投資*	199億円	254億円	150億円	230億円

*事業拡大に向けた戦略的な投資枠

財務・非財務ハイライト

財務(連結)

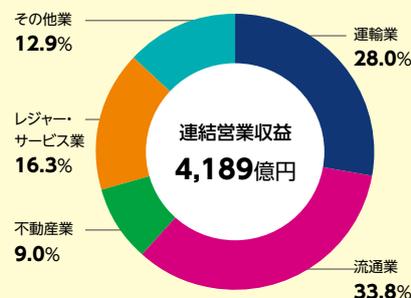
(会計年度)	2012	2013	2014	2015	2016
連結営業収益(億円)	3,968	4,079	4,080	4,162	4,189
連結営業利益(億円)	280	330	338	377	379
連結経常利益(億円)	245	302	313	350	352
親会社株主に帰属する当期純利益(億円)	147	161	172	194	211
総資産(億円)	7,932	7,878	7,824	8,201	8,346
純資産(億円)	2,788	2,926	3,077	3,118	3,320
自己資本比率(%)	35.1	37.1	39.3	38.0	39.7
営業活動CF(億円)	487	587	518	542	494
投資活動CF(億円)	△470	△379	△323	△553	△ 659
財務活動CF(億円)	114	△331	△262	255	△ 166
有利子負債(億円)	3,563	3,289	3,081	3,393	3,285
連結EBITDA(億円)	630	674	691	737	730

※EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額

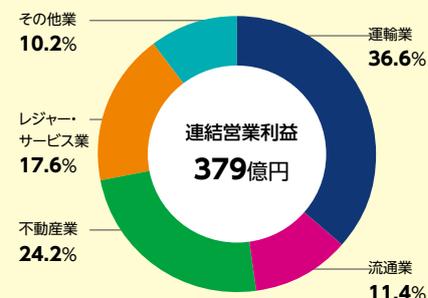
連結業績の推移



連結営業収益の構成比率



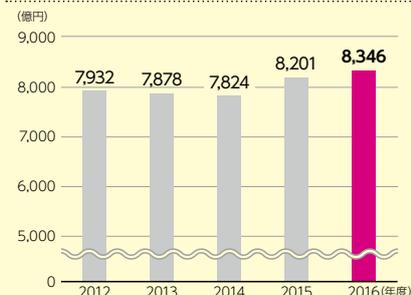
連結営業利益の構成比率



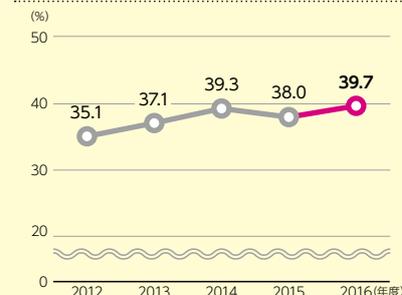
純資産 3,320億円



総資産 8,346億円



自己資本比率 39.7%



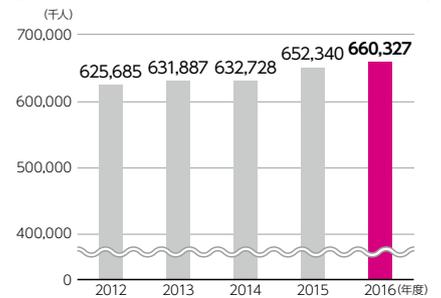


非財務(単体)

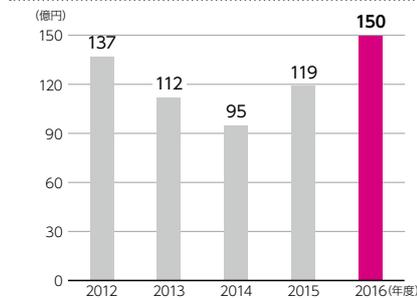
当社では、お客様により快適に鉄道をご利用いただけるよう、安全確保に向けた取り組みや、ダイヤ改正等のサービス向上施策を推進していますが、それに伴い増加するエネルギー消費やCO₂排出等の環境負荷を可能な限り抑えるために、省エネルギー化をはじめとする環境対策を積極的に行っています。

今後も、ステークホルダーのニーズや期待に応え、社会に貢献しながら持続的に成長していき、「信頼のトップブランド」になることを目指します。

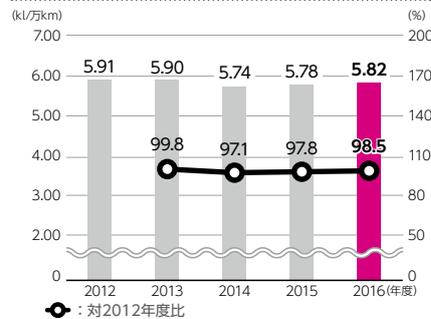
輸送人員 6億6千万人



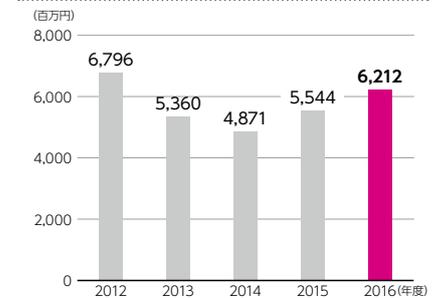
安全に対する投資額 150億円



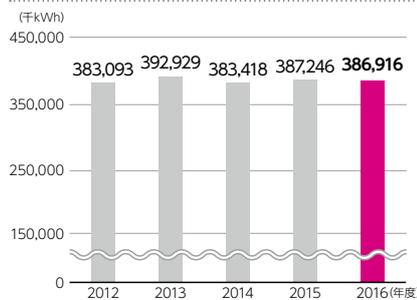
鉄道のエネルギー使用量原単位 5.82kl/万km



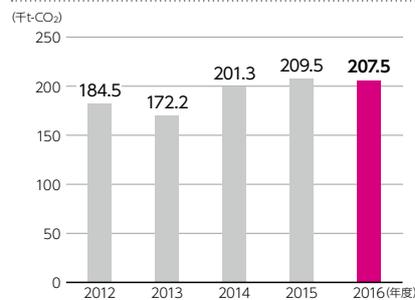
環境保全コスト 62億円



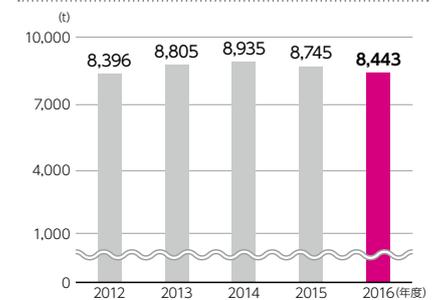
電力使用量 386.9百万kWh



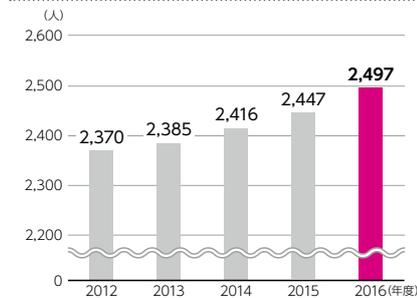
CO₂排出量 207.5千t-CO₂



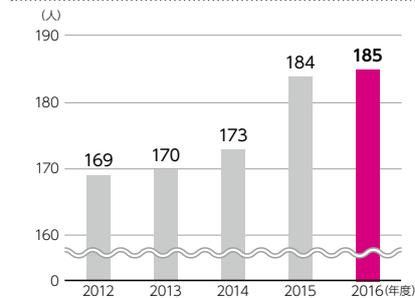
廃棄物排出量 8,443t



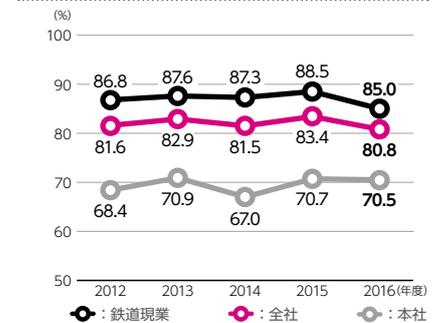
従業員数 2,497人



女性社員数 185人



有休取得率 80.8%



新型車両「5000系」デビュー

勤務先や外出先からのお帰りに際して、長距離区間をご利用になられるお客様の着席ニーズにお応えするため、2018年春に有料の座席指定列車の運行を開始します。

座席指定列車は平日・土休日の夜間帰宅時間帯に、新宿発・京王八王子行き、新宿発・橋本行きで運行します。

また、座席指定列車の運行開始に向けて、新型車両5000系を導入し、2017年9月から通常列車として京王線内で営業運転を開始しました。

この車両はクロスシートとロングシートとの両方に転換できる座席を採用し、座席指定列車の時はクロスシート、その他の時はロングシートにして運行します。そのほか、快適性の向上とさらなる省エネルギー化の推進を図るため、無料公衆無線LANや空気清浄機、車上蓄電池システムなど、当社初となる装備を多数搭載しています。

外観

外観はこれまで当社になかったシャープな正面形状を採用し、既存車両との違いを明確にするとともに、正面のカラーリングに黒を用いてスマートな列車を表現しています。また、フルカラーLEDの行先表示器を採用し、視認性を向上させるとともに、前照灯もLED化しています。

内装

既存車両より座席を広くすることにより、ゆったりとくつろぐことができる空間になっています。また、調光機能付きのLED間接照明により、「通常列車として運行する時は昼白色」、「座席指定列車として運行する時は落ち着いた暖色」とシーンに合わせた演出をします。



ロングシート時

クロスシート時



安全性

痴漢やテロなどの犯罪への防止策として、防犯カメラを全車両に設置しています(4台/両)。また、ドアの挟まれによる怪我や事故を防止するため、ドアの挟まれを検知すると自動で再開する電気式側引戸システムを導入しています。

社会性

全ての車両に車いすスペース・ベビーカースペースを設置しています。また、訪日外国人のお客様が手軽にインターネットに接続できるよう、無料公衆無線LANを設置しています。そのほか、「nanoe(ナノイー)※」搭載の空気清浄機を全ての車両に設置する等、車内環境の向上を図っています。

※水に含まれた微粒子イオンで、脱臭・菌の抑制等の多様な効果が評価されています。「nanoe(ナノイー)」はパナソニック株式会社の登録商標です。

環境

新型VVVFインバータ制御装置やLED照明のほか、さらなる省エネルギー化を図るため、車上蓄電池システムを導入しています。車上蓄電池システムは、電車がブレーキをかけた際に発生する回生電力を蓄電池に充電し、電車が走行する際の電力として供給する仕組みです。また、停電で駅間に停車した時は、蓄電池に充電した電気を使用して、自力で走行することが可能です。



車上蓄電池システムの仕組み(ブレーキ時)



車上蓄電池システムの仕組み(走行時)

M : モーター



車上蓄電池システムの外観

INTERVIEW



車両電気部 車両計画改良担当課長

若松 茂則

通勤利用者やご高齢のお客様からの「座って帰宅したい」というご要望にお応えするため、新型車両開発・座席指定列車導入を進めてまいりました。

鉄道部門が一体となってプロジェクトチームを結成し、各部門の技術・知識を結集させることで、当社初となる装備を多数搭載する車両を開発することができました。また、デザインについては、ホームに入る時にぶつからない範囲で先頭車両のノーズ(先端形状)を伸ばし、今までの京王電鉄車両には無かった形状を実現しました。

5000系をご利用いただいたお客様に「京王電鉄へのイメージが変わった」と思っただけだと嬉しいです。来春の座席指定列車運行に向けて、ここからが本当のスタートだと考えています。

【コーポレート・ガバナンスと内部統制】

■ 基本的な考え方

京王グループでは、「京王グループ理念」に基づき、透明性・公正性を確保しつつ、迅速・果断な意思決定を行うことにより、株主の皆様をはじめつながりあうすべての人からの信頼を確保し、京王グループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図るため、当社の取締役会で定めた「コーポレート・ガバナンス基本方針」のもと、コーポレート・ガバナンスの充実・強化を推進しています。

■ コーポレート・ガバナンス体制

取締役会は社外取締役2名および主要なグループ会社の社長5名を含む18名で構成しており、経営上の重要な事項等についての決議や業務執行の監督を行うほか、時機を捉えた迅速な意思決定が必要な事案については、会社法に基づく特別取締役で構成される特別取締役会にて決議を行っています。

また、取締役会の諮問機関としてガバナンス委員会および指名・報酬委員会を設置し、グループ・ガバナンスの向上や経営の透明性確保に努めています。

監査役会は、社外監査役3名を含む4名で構成し、監査役は、監査役会で定めた基本方針に基づき、取締役の職務執行の監査を行うほか、取締役会その他重要な会議に出席し、必要な意見陳述を行っています。また、会計監査人、内部監査部門および内部統制部門の連携体制を構築しています。

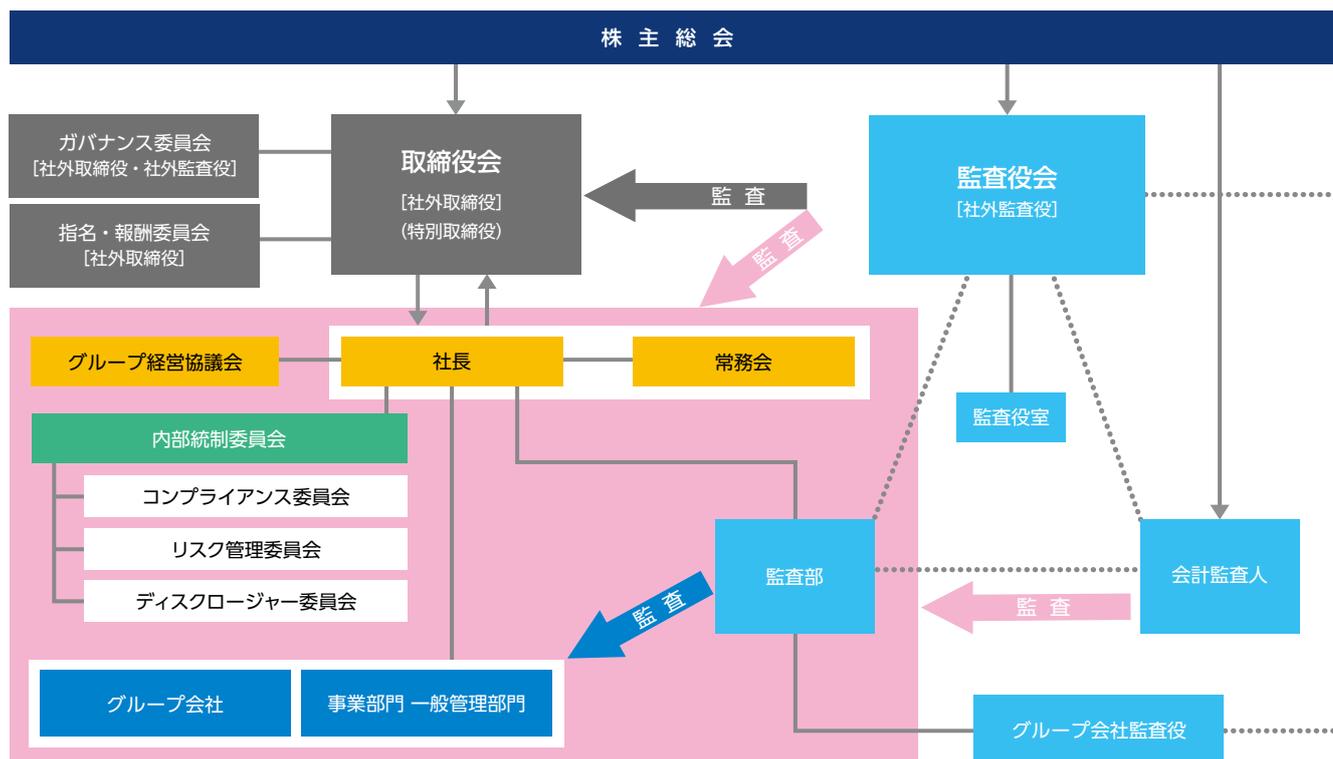
さらに、グループ会社の社長等をメンバーとするグループ経営協議会において、グループ全体の経営課題について協議しているほか、京王グループ社長会、グループ監査役会等を開催することで、グループ・ガバナンス体制の充実を図っています。

■ 内部統制システムの強化

京王グループは「信頼のトップブランド」を確立するため、内部統制システムの強化に努めています。

京王グループ一体となり内部統制の整備を推進するため、「京王グループ内部統制システムに関する基本方針」を定めており、当社およびグループ各社では、その整備状況を確認・検証し、必要に応じた見直しを行っています。また、内部統制に関する体制を統括するため、内部統制委員会を設置しているほか、財務報告に関わる内部統制についても専任部署を設けて京王グループ全社で取り組んでいます。

● コーポレート・ガバナンス体制（2017年3月31日現在）





[コンプライアンス]

■ 基本的な考え方

京王グループにとっての「コンプライアンス」とは、「法令遵守にとどまらず、社会の規範やルールまで含めて遵守することで、社会の期待に応える」ことであると考えています。

コンプライアンスに取り組むことにより、不祥事の起きにくい風土をつくり、誠実な企業としてお客様や社会から一層の信頼を獲得したいと考えています。

■ コンプライアンス体制

京王グループでは、「京王グループ行動規範」を定め、グループ全体に浸透させ、継続的に取り組んでいくため「コンプライアンス委員会」と「京王ヘルプライン」からなる「コンプライアンス体制」を構築しています。

「コンプライアンス委員会」は、委員長、外部の有識者、事務局で構成され、委員長には当社総務法務部分担役員が就き、その諮問機関としての外部有識者（弁護士・会計士など）を置いています。事務局は、当社の総務法務部と広報部が務めています。

● コンプライアンス体制



■ ヘルプラインの運営

業務に関するコンプライアンス上の疑問を抱いている社員が上司に相談できない場合、身近に相談できる窓口として「京王ヘルプライン」（社内窓口:当社総務法務部、社外窓口:弁護士事務所）を設けています。このヘルプラインは、グループ全社員はもとより、京王グループのお取引先企業で働く方も利用できます。このヘルプラインの運用により、京王グループのコンプライアンス上の問題の早期発見と解決につなげています。

[リスクマネジメント]

■ 基本的な考え方

鉄道事業を中心に企業活動を展開している京王グループでは、「お客様の安全」をリスク対策における最重要課題と認識してい

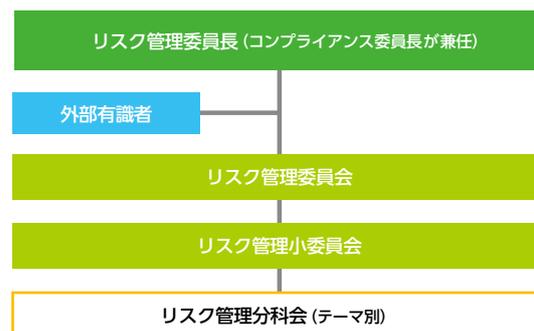
ます。そのため各種リスクの低減および発生防止を目的とした体制を整備し、京王グループの理念である「信頼のトップブランド」にふさわしいリスクマネジメントを実践することが必要です。

■ リスクマネジメント体制

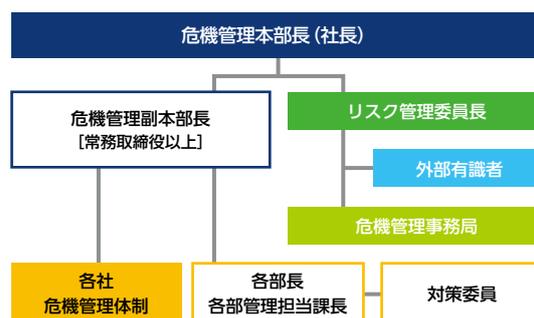
京王グループのリスクマネジメント体制は、平常時の体制と危機発生時の体制の2つからなっています。平常時の体制は、リスク管理委員長のもとリスク管理委員会を定期的に開催し、リスク対策重点項目の設定や、リスク対策の実施状況の確認、リスクマネジメントに関する活動報告などを行っています。

リスク管理委員長は、コンプライアンス委員長が兼任し、コンプライアンスと表裏一体のものとして運営するとともに、リスクマネジメント活動について、コンプライアンスの視点からもチェックしながら推進する仕組みをとっています。このほか、「リスク管理小委員会」、「リスク管理分科会」などの組織を持ち、平常時のリスク対策を実効的に行えるようにしています。危機発生時の体制は、速やかな対応を第一とし、当社の社長を本部長とする臨時組織「危機管理本部」を設置するとともに、常務取締役以上の役員1名を危機管理副本部長とし、リスク管理委員長と危機管理事務局が活動をサポートします。また、京王グループ各社で発生した危機のうち、重大なものについてはグループ各社の危機管理体制と当社内に設置する危機管理本部が一体となって対応します。

● リスクマネジメント体制（平常時）



● リスクマネジメント体制（危険発生時）



メッセージ



専務取締役
鉄道事業本部長(安全統括管理者)

高橋 泰三

さらなる安全性の向上を目指して 日々努力してまいります

日頃から、京王線、井の頭線をご利用いただきまして、誠にありがとうございます。
当社では、皆様から信頼され、愛される鉄道になるため、「『安全』は最大の使命であり、最高のサービスである」ことを常に意識し、「全社員が一丸となり継続的改善に取り組み、安全最優先の鉄道を創る」ことを最大の命題として日々の業務に取り組んでおります。

ハード面では、笹塚駅～仙川駅間の連続立体交差事業について、引き続き事業主体である東京都とともに推進してまいります。また、新線新宿駅および渋谷駅へのホームドアの設置準備や、千歳烏山駅などへのホーム固定柵の整備を進めてまいります。

災害対策としては、鉄道施設のさらなる耐震化を目指し、高架橋柱や盛土などの補強工事を推進するほか、風水害や雷害、火山の噴火による降灰などの減災対策についても、着実に進めてまいります。

ソフト面では、事故の防止に向け、「安全に関する基本方針」の徹底を図るとともに、「有責事故ゼロと運転事故・輸送障害発生件数の前年比削減」を安全目標と定め、現場と本社が一体となった取り組みを通じて、安全意識のさらなる高揚を目指してまいります。

また、鉄道施設を標的とするテロ行為への対策準備を進めてまいります。

これからも、京王線、井の頭線が皆様の生活になくてはならないものであり続けるため、安全性の向上に日々努力してまいります。



鉄道事業本部長による現業係員との意見交換



鉄道事業本部長による線路施設の視察



安全方針・安全管理体制

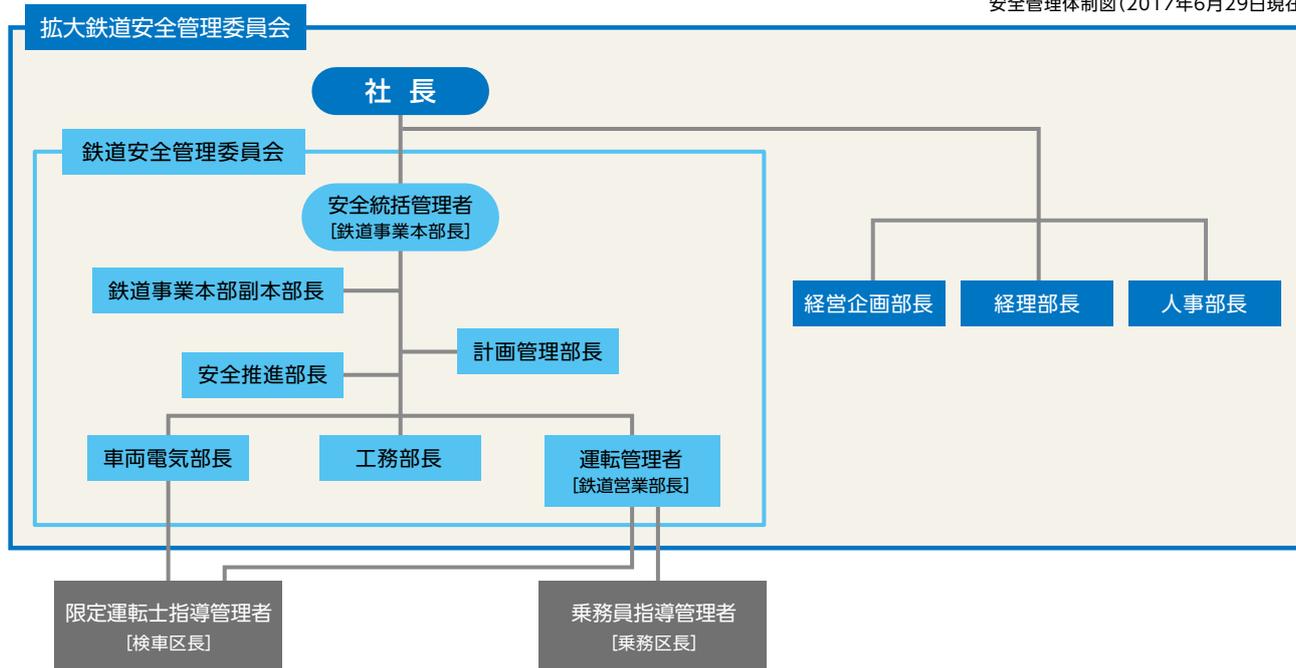
[安全方針]

安全に関する基本方針	安全に係る社員の行動規範
<ul style="list-style-type: none"> ■ 「安全」は最大の使命であり、最高のサービスである。 ■ 全社員が一丸となり継続的改善に取り組み、安全最優先の鉄道を創る。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全てにおいてお客さまの視点に立ち、安全確保を第一に行動する。 ■ 社員一人ひとりガールールを遵守し、判断に迷ったときは、自ら考え、最も安全と認められる行動をとる。 ■ 情報伝達は迅速かつ正確に行い、共有化を図る。 ■ 組織・職位を越えたコミュニケーションを構築し、全社員が連携して問題解決にあたる。

[安全管理体制]

当社では、安全管理体制を下の図のとおり構築しています。

安全管理体制図(2017年6月29日現在)



[責任者名と役割]

責任者名	役割
社長	輸送の安全の確保に関する業務全般を総理する。
安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
運転管理者	安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括する。
乗務員指導管理者	運転管理者の指揮の下、運転士の資質の保持に関する事項を管理する。
限定運転士指導管理者	車両電気部長および運転管理者の指揮の下、限定運転士の資質の保持に関する事項を管理する。

全社員一丸での 安全最優先の鉄道づくり



① 安全文化の構築 P.20

全社員が安全を守る意識を大切にしています。



③ 危機に備えた訓練 P.22

さまざまな訓練を通じて、事故・災害への対応能力を高めています。



② 人材の育成 P.18

安全・安心・快適な鉄道であるため、技術・技能の維持・向上に励み、あらゆる場面での対応力を向上させています。



④ 日々の保守管理 P.30

安全・安心な運行には、日々の保守管理が欠かせません。細心の注意を払って、保守管理に努めています。

8 災害などへの備え P.32

もしもの場合に備え、被害を最小限にとどめ、お客様の安全確保と早期運行再開を実現するために対策を実施しています。

7 鉄道総合指令センター P.28

高度なシステム、さまざまな設備が安全運行を支えています。

6 ホームの安全対策 P.26

お客様に安心してご利用いただけるように、さまざまな安全対策を実施しています。

5 踏切の安全対策 P.25

新たな技術や設備を導入するなど、踏切の安全性を一層高めています。



安全管理方法

〔 鉄道安全管理委員会 〕

安全統括管理者を中心に、運転管理者を含む鉄道事業本部の各部長がメンバーとなり、原則として毎月1回定期的に、また必要により臨時に開催し、事故などの原因の究明・対策の検討・検証などを行っています。また、他社で発生した重要な事故・トラブルについて、当社の対応状況を確認しています。

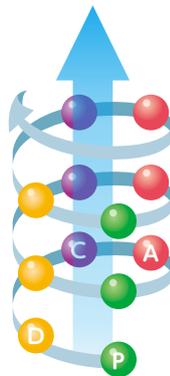
さらに、拡大鉄道安全管理委員会を社長出席の下、年2回開催し、安全重点施策をはじめとした安全管理体制全般の実施状況の評価(マネジメントレビュー)などを行っています。

〔 運輸安全マネジメント PDCAサイクル 〕

鉄道安全管理委員会を中心として、計画(Plan)→実施(Do)→評価(Check)→改善(Act)サイクルに沿って、継続して安全性の向上を図っています。

■ 継続的な見直しと改善

安全性の向上



P = Plan : (計画)取組計画の策定

D = Do : (実施)施策の実施

C = Check : (評価)点検

A = Act : (改善)継続的な見直し

〔 現業部署での目標管理制度 〕

安全確保などに関する定量的目標を、各現業職場が自ら立てて実践する目標管理制度を導入しています。

〔 事故の芽・トラブル情報・ヒヤリハットの報告 〕

鉄道係員による取り扱い上の支障、機器の故障、自然災害などに起因する異常やそれらに対する措置の報告、また、事故が発生する恐れがあった事態、事故などが労働災害に関係するヒヤリハットを幅広く収集・分析し、対策を講じることで、安全性の向上に役立てています。

〔 緊急時対応体制の整備 〕

鉄道事故や自然災害の発生に備え、社内規程類を整備し、緊急時対応体制を構築しています。重大な事故や自然災害が発生した際は、対策本部を設置して、応急・復旧対策にあたります。

また、大規模な鉄道事故が発生した場合、被害に遭われた方々およびそのご家族などに対して、事故発生直後から中長期にわたって行う支援のために「被害者等支援計画」を策定しています。

〔 内部監査の実施 〕

運輸安全マネジメントに基づく内部監査を毎年行い、安全管理体制が適正に機能していることを確認しています。社長、安全統括管理者ならびに安全管理体制の責任者を務める部長、課長および現業長に対してインタビューや書類検査などを行い、監査で見出された事項については、鉄道安全管理委員会に報告され、共有しています。

〔 経営トップによる職場巡視 〕

年4回の安全推進運動や、毎月の「安全再確認の日」を中心に、社長をはじめとする役員が現業職場を巡視して安全管理の状況を確認するとともに、現業係員との意見交換会を実施してコミュニケーションを図っています。



社長と現業係員との意見交換



社長による夜間作業(架線補修)の視察



2016年度 安全目標・安全重点施策

2015年度から新たにスタートした中期3カ年経営計画に、安全性を向上していく施策を掲げています。

2020年度に向けた中期3カ年経営計画(2015～2017年度)

- 京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業
- 「安全に関する基本方針」の徹底
- 鉄道施設のさらなる耐震化
- 現場の声や他社の先進的な取り組みを幅広く収集
- 異常気象への対応

(鉄道の安全性向上への取り組みを抜粋)

[2016年度 安全目標]

社員一丸となり安全重点施策に取り組むことで達成していくことを目指します。

有責事故ゼロ と 輸送障害発生件数の前年比削減

[2016年度 安全重点施策]

ソフト面	ハード面
<p>1. 事故・トラブル・輸送障害の未然防止</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) ホーム・踏切でのトラブル発生の原因分析と対策の検討 (2) 事故の芽・ヒヤリハットの調査分析と再発防止策の実施 (3) 他社における先進事例の研究と当社への導入の検討 <p>2. 危機管理のさらなる充実</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 自然災害による輸送障害の発生防止とお客様への情報提供の強化 <p>3. 安全情報の共有化推進による安全意識の高揚</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 鉄道教習所にある事故展示室のリニューアル <p>4. 人材育成・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 委託業務の見直しによる技術伝承の強化 (2) 管理職層への研修の充実 	<p>5. 中長期施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 京王線(笹塚駅～仙川駅間)の連続立体交差事業の推進 (2) 下北沢駅改良工事の推進 <p>6. 減災対策</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 高架橋や盛土区間、トンネルなどの耐震補強の実施 (2) 駅の天井やエスカレーターなどの落下防止対策の推進 (3) 大雨対策、雷害対策の推進 <p>7. 安全対策・老朽化対策</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 新線新宿駅や渋谷駅へのホームドア設置に向けた準備 (2) 防風壁の設置など強風時の安全対策の強化 (3) 高架橋老朽化対策の実施 (4) 京王線8000系車両、井の頭線1000系車両のリニューアル

[2016年度 安全スローガン]

安全意識の一層の高揚を図るため、社内公募により安全スローガンを定めています。

守る決意と続ける努力 みんなで作る 無事故の鉄道

工務部 施設管理所 建築担当 主任技術員 (応募当時)

長山 哲也



人材の育成

〔 鉄道従事員への教育方針 〕

「鉄道従事員として自ら知識・技能の習得に努め、安全・安心・快適な鉄道であるための使命を果たせる人材を育成する」という教育方針に基づいて、部署・職位別の教育訓練を行っています。

実務に即した訓練など専門分野に関するものや、鉄道事業部門共通の研修などを通じて、鉄道従事員としての資質の向上に努めています。

〔 鉄道教習所における教育 〕

鉄道教習所は、国土交通大臣指定の動力車操縦者の養成所として運転士に必要な知識・技能の教育を行っています。

主な設備

■ 運転シミュレーター

コンピュータ・グラフィックス映像を活用した運転士訓練機能および車掌訓練機能があります。昼夜、降雨・降雪などさまざまな条件が設定でき、乗務員の教育や異常時対応訓練などを行っています。



シミュレーターによる運転士訓練

■ 駅業務訓練室

実際の駅で使用している自動券売機や自動改札機などを再現し、業務知識の習得や接客向上訓練を行っています。



自動改札機取り扱い教育

■ ホーム訓練室

実際のホームを再現し、列車非常停止ボタンや転落検知装置の機器などを設置しています。これらの機器を実際に動作させて、異常時における迅速かつ確な対応ができるよう訓練を行っています。



■ 信号扱い訓練室

列車運行管理システムが故障した時などに備え、信号操作の取り扱い（てこ操作）訓練を行っています。

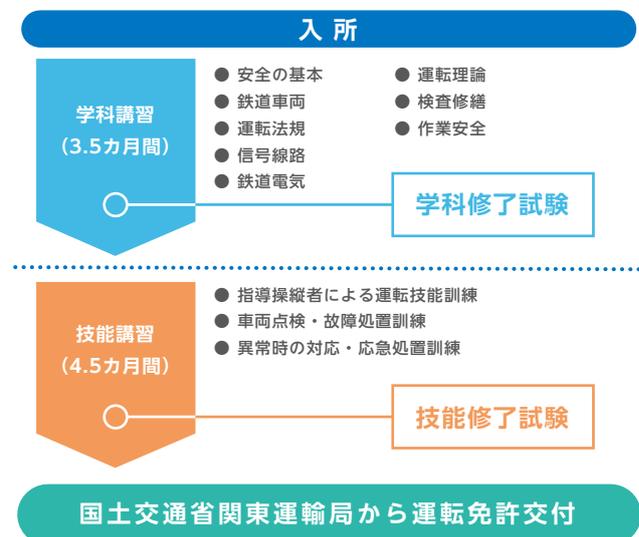


〔 乗務員の養成と技能の維持・向上 〕

■ 運転士の養成

運転士になるためには、駅係員、車掌を経験した後、鉄道教習所で学科講習と技能講習をあわせて約8カ月間受けて、試験に合格する必要があります。

入所から運転免許交付までの流れ





■ 車掌の養成

車掌になるためには、駅係員を経験した後、鉄道教習所で学科講習と技能講習をあわせて約2カ月半受けて、試験に合格する必要があります。



シミュレーターによる車掌訓練

■ 乗務員の技能の維持・向上

運転士・車掌になった後もフォロー教育や監督者による定期的な添乗指導などのほか、各職場での勉強会や、個別の面談による指導を通じて、知識・技能の維持・向上を図っています。

■ 車掌技能コンテスト

車掌の誇りと職責を高揚させる目的で、車掌業務に関する知識や技能を競うコンテストを、2017年1月に開催しました。



【 現業管理職の研修 】

部下への指導を行う際、相手を尊重しながら自分の考えや意見、気持ちを率直に伝え、コミュニケーションを図るため、「ほめ方・叱り方」研修を行っています。



講師と受講者によるロールプレイング

【 協力会社との勉強会 】

軌道・土木・建築・電気・車両などの保守管理を委託する協力会社の社員とともに勉強会を実施しています。安全な作業手順を再確認するとともに、管理職による安全パトロールの実施により、事故防止に取り組んでいます。



VOICE



安全推進部 鉄道教習所 教師

小森 一幾

乗務員養成では、運転業務に必要な学科・乗務講習だけでなく、運転シミュレーターを活用した教育や異常時対応訓練などを行っています。お客様の安全確保のため、鉄道従事員としての心構えを再認識させることが重要であると考えており、

成教育では「安全啓発室」を活用し、過去の事故やトラブル事例を伝承するほか、教育プログラムの改善にも注力しています。今後も、運転技術と安全意識の高い乗務員の養成に取り組み、安全・安心な鉄道運行の一翼を担ってまいります。

安全文化の構築

〔安全ポスター〕

毎年、安全ポスターにより安全意識を社員へ浸透させています。2016年度は、「現場で生まれた、安全ストーリー」をテーマに6回シリーズで展開しました。



〔安全講演会〕

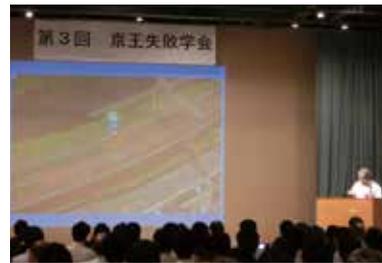
安全意識の高揚を目的として、毎年開催しています。

2017年2月には、全日本空輸株式会社 田中 龍郎氏を招き、「ANAにおける安全への取り組み」をテーマにご講演いただきました。



〔京王失敗学会〕

当社のベテラン社員やOBが、過去に体験した事故やヒヤリハット、またそこから学んだ教訓を自ら語ることで、後輩社員に安全文化を伝承するとともに、失敗情報についてオープンに話し合う講演会「京王失敗学会」を開催しています。



topics

■安全啓発室

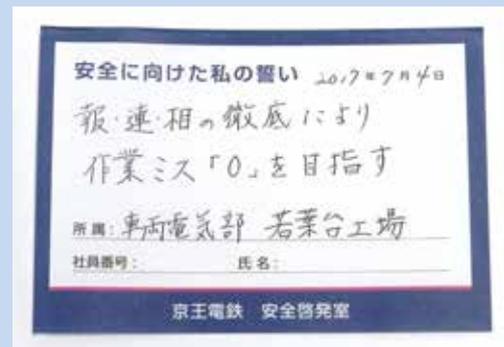
当社および他社における過去の事故やインシデントについて、デジタルサイネージを活用し、当時の資料や映像を通して事故の経緯や原因などを学ぶことができます。鉄道事故の悲惨さを実感することで、鉄道のさらなる安全性向上に向けて、自分には何が出来るかを社員一人ひとりが考え、行動につなげることを目指しています。社員はいつでも自由に見学できるほか、乗務員養成教育や新入社員教育をはじめ、各種教育・訓練における講師による説明を通じて、社員の安全意識のさらなる高揚を図っています。



デジタルサイネージを用いた教育



映像により経営トップや社員の安全への想いなどコメントを聞く



受講後に全員が自身の誓いを記入するカード



[小集団活動発表会]

毎年、各職場で取り組んでいる安全性向上や業務改善活動の発表会を開催し、社員の改善意欲を高揚させながら、業務の継続的改善を行っています。



職場の代表者による発表

[出張勉強会]

過去に発生した事故やインシデントを風化させないため、当社では月に1度「安全再確認の日」を制定しています。

2016年7月には、安全推進部の本社社員が現業職場に出向き、制定の経緯についての勉強会を実施いたしました。



[鉄道事業部門外の社員への応援体制]

当社では大規模な災害や事故が発生した場合に、鉄道事業部門以外の社員が駅などでお客様のご案内を行う体制を整備しています。2016年11月には、「応援者活動用ワッペン」、「応援者対応ツール」などを使用した応援方法のガイダンスを実施いたしました。



部門内で情報を共有するためのポスター

VOICE



工務部 施設管理所 土木担当 維持管理チーム 技術員

品田 真梨子

当社では、安全・安定輸送を確保するため、鉄道施設や周辺施設の適切な点検、維持管理に努めるとともに、業務改善活動を通じて安全に対する意識の向上を図っています。昨年度の小集団活動では、構造物点検にポールカメラや360°カメラを

新たに導入し、より確実な点検を実施することで安全性向上に寄与しました。これら小集団活動を通じ、日常業務とは異なる視点からも安全に対する意識を高めています。今後も、さらなる安全と安心の提供に日々努めてまいります。

危機に備えた訓練

〔大規模な訓練〕

鉄道運転事故や自然災害の発生に備え、さまざまな訓練を通じて、事故・災害への対処能力を高めています。

■ 総合事故復旧訓練

脱線などさまざまな鉄道事故を想定し、通報・連絡・お客様の避難誘導・現場の復旧などの訓練を毎年総合的に実施しています。

2016年11月、若葉台車両基地において、踏切で立ち往生した乗用車に列車が衝突・脱線したことを想定した訓練を実施しました。多摩中央警察署と稲城消防署の協力をいただいています。



線路の復旧



お客様の避難誘導



車椅子ご利用のお客様を代行バスへ誘導



脱線車両の復旧



踏切保安設備の復旧

■ 防災訓練

地震の発生を想定し、列車の緊急停止、また本社における対策本部の設置・運営などの訓練を定期的に行っています。2016年9月の防災週間期間中と、東日本大震災発生後6年を迎えた2017年3月に実施しました。



■ 帰宅困難者対策

大規模地震などの災害が発生した際、帰宅が困難になったお客様向けに飲料水や食料、防寒アルミシートの備蓄を全69駅で行っています。また、自治体と協力して帰宅困難者対策訓練なども実施しています。



[そのほかの訓練]

年間を通じて、さまざまな条件を設定した訓練に取り組み、係員の異常時対応力の向上を図っています。

■ トンネル内での避難誘導訓練

トンネル内で列車が長時間停車を余儀なくされた場合を想定した避難誘導訓練を、2016年9月に渋谷トンネルで実施しました。この訓練の課題から、新たな避難梯子を制作し、トンネル両端の渋谷駅および神泉駅に配備しました。



列車からの避難訓練



改良された避難梯子

■ 雪害対応訓練

車両のパンタグラフに付着した冰雪を、絶縁棒を用いて払い落とす訓練を2016年12月に実施しました。



■ 信号扱い訓練

列車運行管理システムの故障発生を想定し、全線の信号取扱所での一斉訓練を年に4回実施しています。



■ 工事作業車の脱線復旧訓練

マルチプルタイタンパーが脱線した際に、備え付けのジャッキを使用して復旧する訓練を2016年8月ほかに実施しました。



■ 電車線(架線)張り替え訓練

断線した電車線を張り替える訓練を2017年1月ほかに実施しました。



■ 脱線復旧機材の取り扱い習熟訓練

列車脱線事故からの復旧を円滑に行うための訓練を2017年2月ほかに実施しました。



施設・設備の取り組み

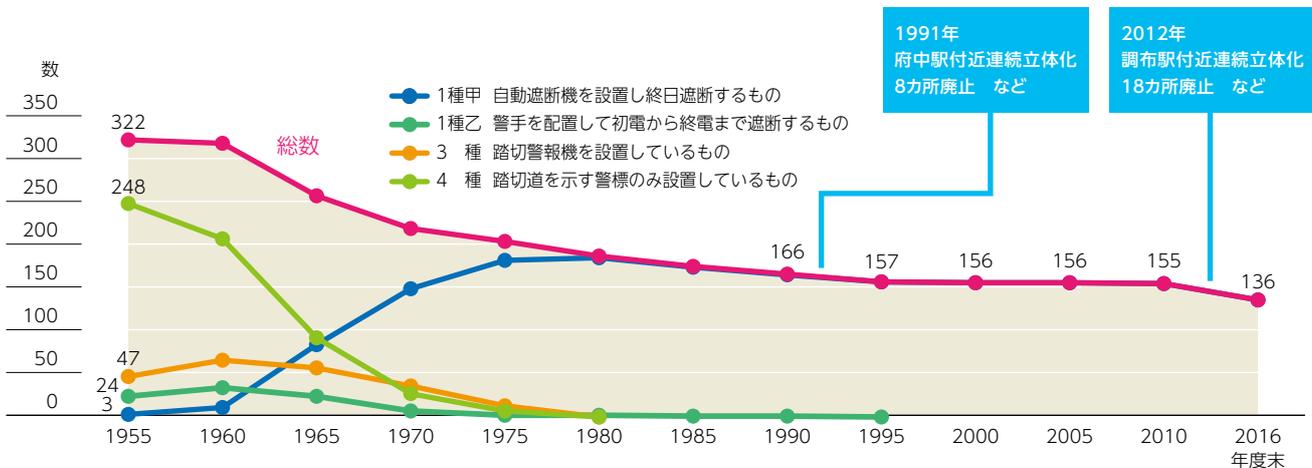
[立体交差化]

運転保安の向上のため、線路と道路の立体交差化や踏切の整理統合を行ってきました。特に連続立体交差化については1964年に京王線の新宿駅～初台駅間の地下化を皮切りに、複数の箇所です業を実施し、直近では2012年8月に調布駅付近を

地下化しました。この結果、踏切数は1955年度末の322カ所から2016年度末で136カ所に減少しています。

※連続立体交差事業:2カ所以上の幹線道路を含む多くの道路と鉄道を連続的に立体化するものであり、道路整備の一環として施行する都市計画事業です。

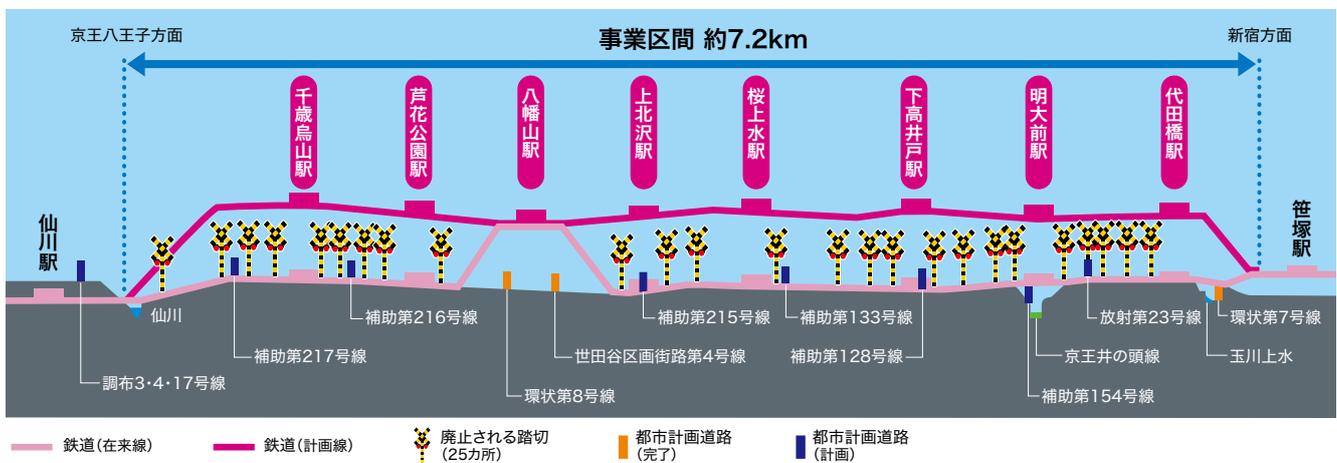
種類別踏切数の推移



京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業

事業主体である東京都と協力し、京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業を実施しています。2014年2月、国土交通省から都市計画事業の認可を取得し、現在、用地取得や設計業務などを進めています。

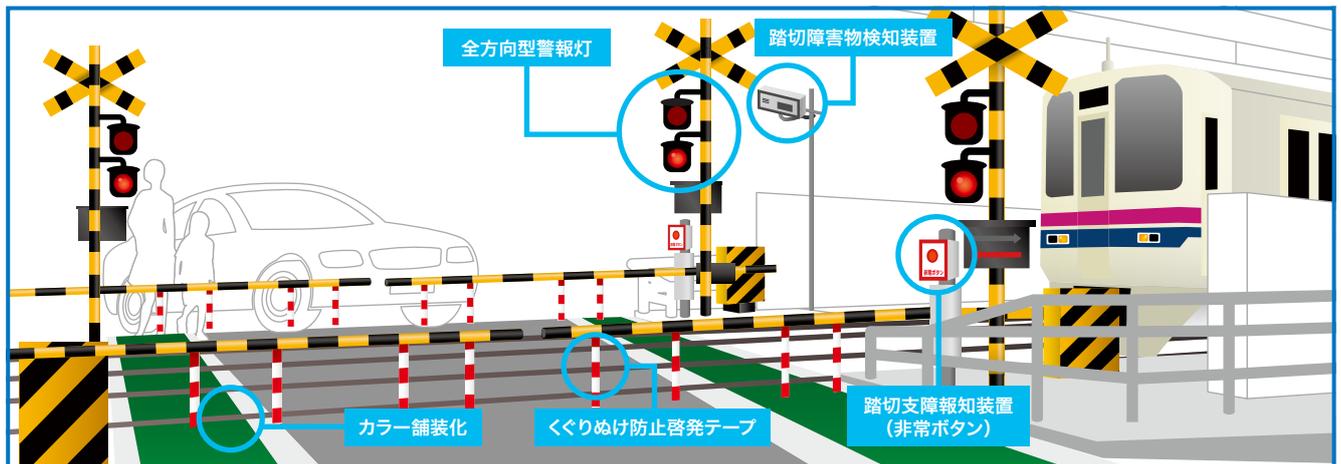
この事業の完成により、笹塚駅～仙川駅間の約7.2kmを高架化し、放射第23号線(井ノ頭通り)などとの立体交差化を図ることで、25カ所の踏切を廃止します。





[踏切の安全対策]

踏切での安全を確保するため、各種保安装置を設置しています。



■ 踏切支障報知装置 (非常ボタン)

踏切での列車と自動車などの接触事故を未然に防止するため、全ての踏切に設置しています。踏切内で閉じ込められるなどの緊急事態が生じた場合、ボタンを押すと、運転士に異常を知らせるとともに、付近の列車を自動的に停止させます。



また、踏切の全長が長く渡りきれずに踏切内に閉じ込められた場合に、通行者が操作できる非常ボタンを踏切内に設置しています。2016年度は、下高井戸5号踏切ほか2カ所に新設しました。



■ 全方向型警報灯

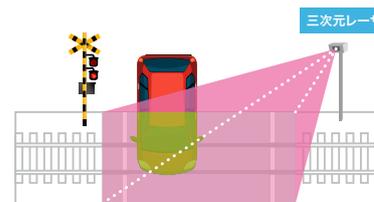
どの角度からも点滅が確認できる全方向型警報灯の導入を進めています。



■ 踏切障害物検知装置

踏切での列車と自動車などの接触事故を未然に防止するため、86カ所の踏切に設置しています。踏切内に何らかの障害物を検知すると、運転士に異常を知らせるとともに、付近の列車を自動的に停止させます。

従来の光線式から、より高い精度で検知できる3D式(面検知式)への更新を進めています。



三次元レーザー式



■ スリット型踏切遮断かんの導入

自動車などによる折損を防止するため、折れにくいスリット型踏切遮断かんを一部の踏切に導入しています。



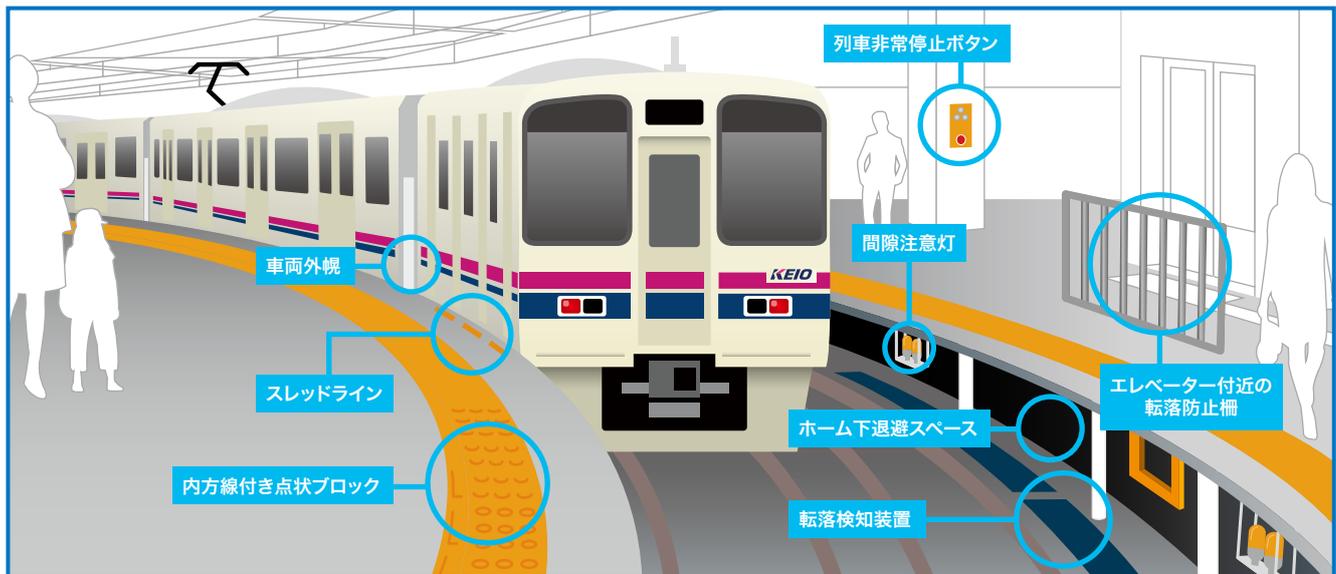
■ 外国人のお客様への注意喚起

踏切での外国人のお客様の立ち止まり対策として、英語表記の注意喚起看板を設置しています。また、注意喚起のチラシを制作し、近隣のホテルでの配布をお願いしています。なお、この取り組みは現業社員の発案で行っています。



[ホームの安全対策]

ホームでの安全を確保するため、さまざまな対策に取り組んでいます。



■ ホームドア

お客様のホームからの転落やホーム上での列車との接触事故を未然に防止するため、ホームドアを設置しています。2016年度までに新宿駅(1～3番線)、国領駅、布田駅、調布駅、吉祥寺駅での使用を開始しています。今後は、2018年度までに新線新宿駅、渋谷駅での使用を予定しているほか、大規模工事にあわせて明大前駅、下北沢駅においても整備を計画しています。



吉祥寺駅

■ 転落防止固定柵

お客様のホームからの転落防止を目的として、新宿駅降車ホームや渋谷駅ホーム終端部などに固定柵を設置しています。

2017年度は、千歳烏山駅などへ設置します。



渋谷駅

■ エレベーター付近の転落防止柵

エレベーター出入口が線路側を向いているホームの一部では、転落防止柵を設置しています。



■ 内方線付き点状ブロック

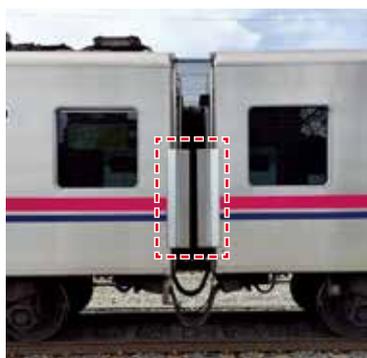
目の不自由なお客様のホームからの転落防止対策として、ホーム線端部にある警告ブロックにホームの内側を示す内方線の整備を進め、2013年度に整備を完了しました。





■ 車両外幌

ホームから車両連結部への転落事故を防止するため、車両の連結部に外幌を設置しています。



■ 間隙注意灯・スレッドライン

曲線ホームなど、車両とホームとの隙間が広く空いてしまう箇所がある12駅では、光の点滅で隙間をお知らせする間隙注意灯やスレッドラインを設置しています。



間隙注意灯



スレッドライン

■ ホームベンチの配置変更

ホームでの転落事故は、過度の飲酒をされたお客様によるものが多くなっています。酔ったお客様の行動特性として、ホームのベンチなどから線路に向かってまっすぐ歩き出し転落するケースが多いことが判明しています。対策として、2015年から一部の駅においてベンチを列車の進行方向に対して垂直に設置することにより、事故の未然防止に取り組んでいます。



従来の設置



新たな設置

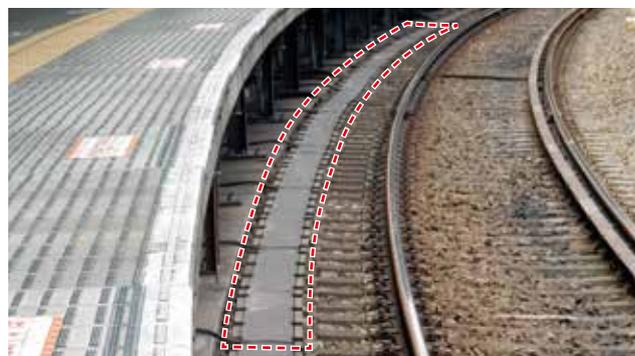
■ 列車非常停止ボタン

お客様がホームから転落された場合などに、このボタンを押すことで接近する列車の乗務員や駅係員などに非常を知らせるとともに、付近の列車を自動的に停止させます。全駅のホームに設置しています。



■ 転落検知装置

曲線ホームなど、車両とホームとの隙間が広く空いてしまう箇所がある14駅に設置しています。お客様がホームから転落された場合、この装置が転落を検知し、列車の乗務員や駅係員に知らせるとともに、付近の列車を自動的に停止させます。



■ ホーム下退避スペース・ステップ

お客様がホームから転落された場合の緊急避難場所として、ホーム下に退避スペースを整備しています。また、退避スペースのない箇所には、ホームに上がりやすくなるためのステップを設置しています。



ホーム下退避スペース



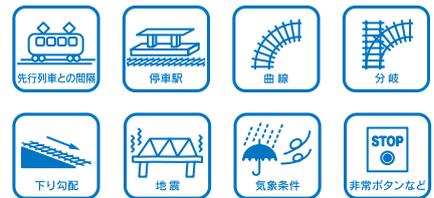
ホーム下ステップ

[ATC(自動列車制御装置)]

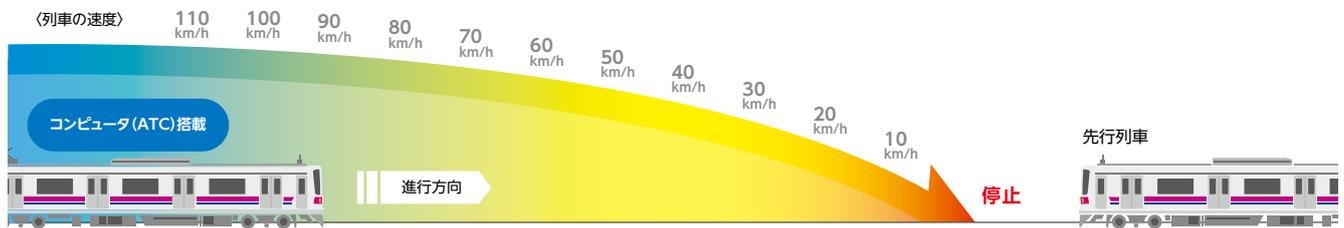
従来のATS(自動列車停止装置)に比べてさらに安全性の高いATC(自動列車制御装置)を、2010年3月に相模原線で使用開始した後、2011年10月からは京王線全線、2013年3月には井の頭線で使用開始し、現在、当社全線で使用しています。

車両に搭載しているコンピュータが、レールに流れている信号電流を受け取ることで、先行列車との間隔を連続的に把握し、常に適切な速度で走行できるよう、列車を制御します。

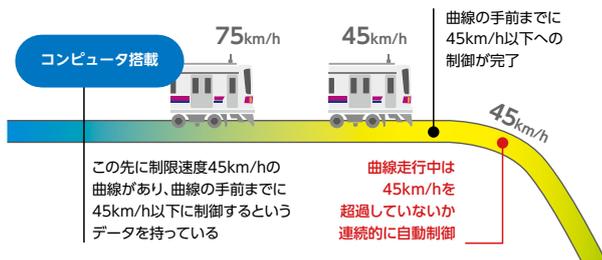
● ATCで列車を制御できる主なケース



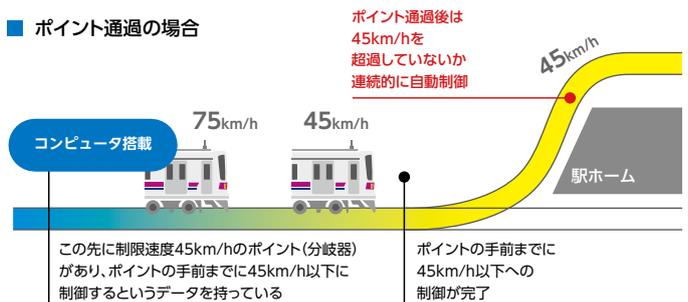
■ ATCによる列車制御のイメージ



■ 曲線通過の場合



■ ポイント通過の場合



[鉄道総合指令センター]

鉄道総合指令センターには、列車の運行などを管理する運輸指令所と、電力の供給を管理する電力指令所の機能が集約され、平常時だけでなく、事故や災害発生時の対応を迅速に行えるよう、連携を強化する体制を整えています。

■ 運輸指令所

列車の運行を円滑に行うため、TTC(列車運行管理システム)により、列車の進路設定、出発指示合図などを自動制御しています。事故発生時などには、列車の位置や遅れなどを総合的に判断し、運行ダイヤの整理・復旧を図るとともに、駅の「お客さま案内ディスプレイ」や「車内案内表示器」などを通じて、運輸指令所から一括してお客様に最新の情報をご案内しています。



■ 電力指令所

列車運転用電力と駅設備や信号保安設備などに用いる付帯用電力を供給する20カ所の変電所の運転状況や送電状況を、集中監視制御システムにより24時間体制で監視しています。

事故や停電が発生した場合は、直ちに予備の設備に切り替え、列車運転への影響を最小限にするなど、電力の安定供給に努めています。





[車両の安全装置]

■ 防護無線装置

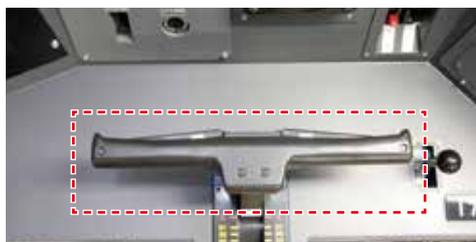
列車の脱線や踏切内の立ち往生などにより、他の列車の運行に支障を来す恐れがある場合、乗務員が乗務員室にあるボタンを押し、無線による信号を発報する装置です。この信号を受報した列車の運転士は直ちに列車を停止させ、事故を未然に防ぎます。



防護無線装置

■ 車両の緊急停止装置

運転士の体調が急変した場合などに備えて、ハンドルから手が離れると自動的に非常ブレーキが作動する運転士異常時列車停止装置や、車掌が強制的に非常ブレーキをかける装置を搭載しています。



運転士異常時列車停止装置

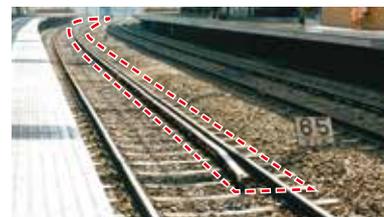


車掌非常スイッチ

[脱線防止対策]

■ 脱線防止ガード

半径300m以下の曲線に設置しています。また、ポイント(分岐器)や、踏切にも設置しています。



■ 輪重測定装置

車両の輪重比(左右の車輪にかかる荷重のばらつき)が10%以内となるよう、輪重測定装置を導入し、「重要部検査」、「全般検査」や車輪の交換の際に測定・調整をしています。



■ 脱線係数の測定

曲線を走行中に、車輪がレールを下方向に押す力と横方向に押す力を測定することで脱線の危険性(脱線係数)を常時監視することが可能な「PQモニタリング台車」を京王線の営業線車両に導入しています。

■ レールの研削

レールの傷などをなくし、安定した列車の走行と騒音・振動を軽減するため、レール削正車と呼ばれる作業車を使用して定期的にレールを研削しています。

VOICE



鉄道営業部 運輸指令所 指令主任

小野寺 正樹

運輸指令所では京王線・井の頭線、全列車の運行管理業務と他社線への振替輸送の依頼やお客様への情報提供(当社ホームページ・お客さま案内ディスプレイなどへの配信)を主にしています。万一、事故や異常気象などにより列車の運

行に支障があった場合は、いち早く正常ダイヤに復旧させることや、迅速かつ正確な情報提供を行うことが、お客様にとって最大のサービスであると考えています。今後も、お客様の視点に立ち、安全・安定運行に努めてまいります。

日々の保守管理

〔 総合高速検測車 〕

実際の列車と同じ速度で走行しながら、架線と軌道の状況を同時に検測することができる総合高速検測車を京王線に導入しています。検測で得られたデータを保守計画に反映し、安全性・乗り心地の向上を図ります。



総合高速検測車

〔 軌道 〕

京王線では日中に総合高速検測車を用い、軌道の高低・平面性や列車動揺などに異常がないか点検を行っているほか、井の頭線とあわせた全線で、目視や測定機器を用いたさまざまな点検を行っています。終電後には点検結果に基づき、軌道の修正や各種設備の交換などを行っており、京王線の道床つき固めはマルチプルタイタンパーという大型の作業車を使用しています。



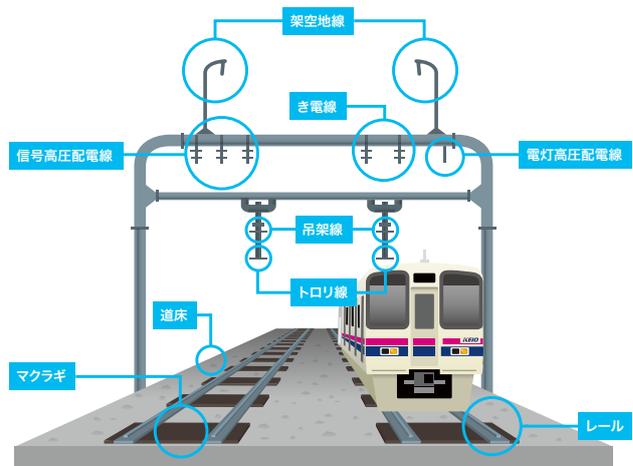
軌道工事



マルチプルタイタンパーによる道床つき固め

〔 架線（吊架線、トロリ線） 〕

京王線では日中に総合高速検測車を用い、列車に電気を供給する架線の摩耗、偏位、高さなどの測定を行っています。井の頭線とあわせた全線で、目視により外観に異常がないか点検をしているほか、終電後には、測定器などを用いた点検や架線の高さの調整、各種設備の交換などを行っています。



〔 構造物 〕

高架橋・トンネル・橋梁・擁壁などの構造物に対しては、定期的な目視検査や打音検査を実施するとともに、必要に応じて補修工事を実施しています。



トンネル天井部の点検



橋梁点検



高架橋の点検作業



剥離対策を施した高架橋

[車両]

列車を安全に運行するために定期検査を行っています。日常的な検査は検車区（京王線は若葉台・高幡不動、井の頭線は富士見ヶ丘）で実施し、大規模な検査と修理は若葉台工場で行っています。

■ 検車区

6日を超えない期間に行う「列車検査」や、3カ月を超えない期間に行う「月検査」のほか、臨時の小規模な修理や車両の清掃を行っています。また、若葉台検車区では床下型車輪旋盤装置による車輪の削正を実施し、静かで乗り心地の良い車両を維持しています。



検車区での検査

■ 若葉台工場

4年または走行距離が60万kmを超えない期間に行う「重要部検査」、8年を超えない期間に行う「全般検査」のほか、大規模な修理やリニューアル工事を行っています。



若葉台工場



リニューアルした1000系車両

VOICE



車両電気部 富士見ヶ丘検車区
技術掛 兼 限定運転士

吉川 翔

列車の安全運行を支えるため、車両の定期的な検査だけでなく営業列車への添乗による監視、事故・故障対応などの業務を行っています。安全の確保には、基本動作の励行と確認の徹底、また過去に発生した事故、車両障害を風化させない取り組みが重要であると考えています。

これからもお客様に安心してご利用いただけるよう、列車の安全・安定運行を確保するとともに、快適な車両の提供に努めてまいります。

災害などへの備え

[構造物などの耐震補強]

新たな耐震基準に見合う構造物とするため、橋梁、盛土区間や高架橋柱、トンネルを対象とした耐震補強を実施しています。また、架線柱をコンクリート柱から耐震性の高い鋼管柱に順次、更新しています。



高架橋柱の耐震補強



盛土区間の耐震補強



(補強前)
新宿トンネル中柱耐震補強



(補強後)



(更新前)コンクリート柱



(更新後)鋼管柱

[地下駅火災対策]

2003年に韓国で発生した地下鉄火災を受けて改正された基準に則り、新宿駅における排煙設備および防火区画の設置工事や幡ヶ谷駅における新たな避難通路の設置工事などの地下駅火災対策を完了しています。



水の幕で防火区画を形成するウォータースクリーン(新宿駅)

[鉄道テロ対策]

全駅のゴミ箱を撤去しているほか、防犯カメラの設置や係員・警備員の巡回により、不審者・不審物などの発見に向けた監視を行っています。また、車両基地などへの不審者の侵入を防ぐために、防犯センサーの設置や警備員による巡回を実施しています。

さらに、鉄道のシステム全般を標的としたサイバー攻撃の未然防止や影響軽減のため、リスクアセスメントによるリスク低減に取り組んでいます。

■ 2016年5月の伊勢志摩サミット対応

テロに対する警戒として、社員による鉄道施設の巡回強化や、駅の警備員増員など体制の強化を図りました。



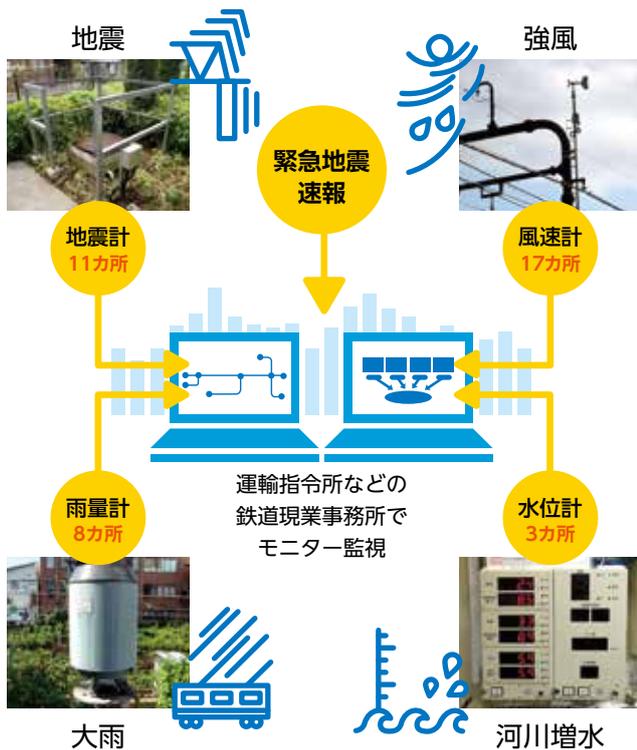
■ サイバーテロへの対応

列車運行管理システムや電力管理システムなど、鉄道の重要システムに対するサイバーテロに備え、対策を進めています。



[気象情報システム]

自然災害に早期に対応するため、沿線に地震計・風速計・雨量計・水位計を設置しています。それぞれの計器で観測されたデータは運輸指令所をはじめとする各鉄道現業事務所において、24時間体制で監視しています。



■ 地震

沿線11カ所に地震計を設置しています。地震計が一定以上の震度を感知すると、列車無線を通じて自動的に全列車に警報を送るとともに、列車を停止させます。さらに、気象庁の「緊急地震速報」を活用し、震度4以上の地震発生が想定される場合、列車無線を通じて自動的に全列車に警報を送り、乗務員が列車を安全な場所に停止させます。

■ 強風

沿線17カ所に風速計を設置しています。観測された瞬間風速に応じた速度規制、運転中止の基準を定めています。

■ 大雨

沿線8カ所に雨量計を設置しているほか、多摩川など3カ所に水位計を設置しています。加えて、気象情報会社から提供される解析雨量のデータを活用しています。観測された時間雨量、累積雨量に応じて、速度規制、運転中止の基準を定めています。

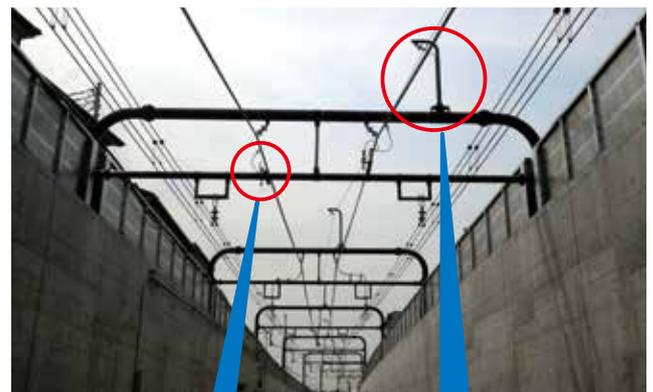
また、高尾線では土砂崩壊対策として、線路脇斜面の改修工事を継続的に進めています。



補強工事が完了した線路脇斜面

[落雷対策]

き電線より一段高いところに避雷針の役割を果たす「架空地線」と呼ばれる防護線を必要な箇所へ設置完了したほか、電子機器の耐雷性強化を図っています。



避雷器



架空地線

[雪への対策]

■ パンタグラフの改良

従来のひし形のものより着雪面が少ないシングルアームパンタグラフを採用しています。また、車両基地などの架線には着雪・着氷を防止するため、ヒーターを内蔵した電線を使用しています。



■ 融雪器の導入

地下駅を除く全てのポイント(分岐器)に電気融雪器を設置しています。

なお、2015年度からこれまでの電気融雪器に比べて融雪能力の高い温水循環式融雪器を導入しており、2016年度は北野駅・橋本駅へ設置しました。



■ 事業用車両への排雪板の装備

2015年秋に導入した事業用車両(牽引車両)に排雪板を装備し、除雪作業の強化に取り組んでいます。



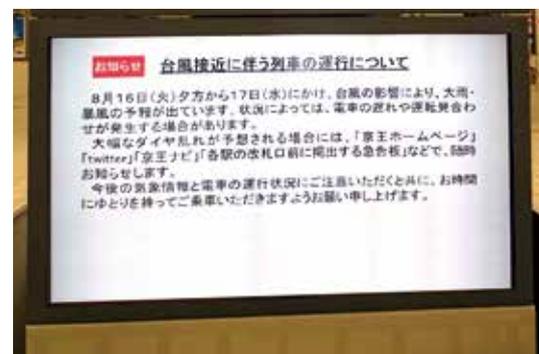
[お客様への告知]

2016年1月の大雪による輸送障害を踏まえ、大雪や台風などにより、輸送力の低下が見込まれる場合は、早めに運行に関する情報を提供しています。

また、「長時間お待ちいただく」、「ご乗車できない場合がある」など具体的な表現でお知らせするよう努めています。

■ 事前の情報提供

台風接近時には、改札口付近に設置している「お客さま案内ディスプレイ」などにより、事前に情報提供を実施しています。



2016年8月 台風接近時のご案内

また、降雪時の列車運行について、想定される影響とお客様へのお願いのポスターを制作し、2017年2月に駅構内・車内に掲出いたしました。



駅掲出用ポスター



その他の取り組み

2016年12月に国土交通省から公表された「駅ホームにおける安全性向上のための検討会 中間とりまとめ」に基づき、ホームでの転落事故やトラブルを未然に防止するため、さまざまな取り組みを行っています。

■ 声かけ・サポート運動の実施

お客様が安全に、かつ安心して鉄道施設をご利用いただけるよう、お困りになっているお客様を見かけた際は、社員が積極的にお声かけをするとともに、列車への乗降の誘導案内を実施しています。

なお、2016年11月から実施している「声かけ・サポート」運動では、社員がお声かけをするだけでなく、鉄道をご利用になるお客様にも、お困りの方に対して助け合いのご協力を呼びかけています。



鉄道事業者共通のポスター

■ ホーム監視の強化

沿線の盲学校最寄り駅において、学校の登下校時間帯に係員を配置し、お客様が安全にご乗車できるよう、見守りやご案内の強化に努めています。



久我山駅

■ 現業係員の研修

2016年度から、実際の駅や車両を使用して、盲導犬を帯同したお客様や白杖を使用するお客様へのご案内や接遇スキルを向上させるための講習会を実施しています。

協力：公益財団法人 日本盲導犬協会神奈川訓練センター



■ サービス介助士の資格取得の推進

障がいのあるお客様への接遇向上のため、当社ではサービス介助士の資格取得を推進しており、駅係員および乗務員の98.1%が取得しています。

なお、有資格者は胸章に表示し、お客様にもわかりやすくしています。

※数値は、2016年度末時点



■ お客様への協力依頼

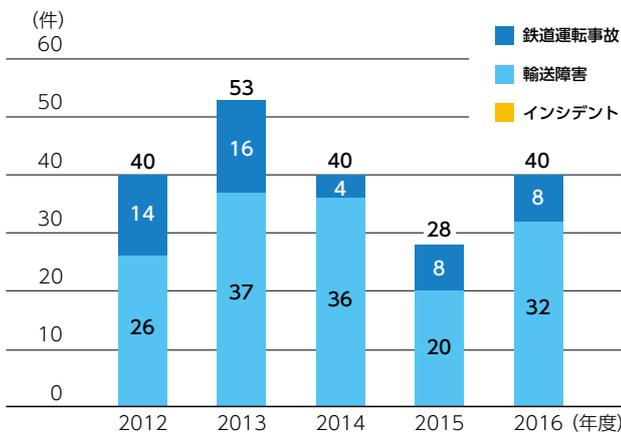
全てのお客様に駅を安全にご利用いただくため、点状ブロックの上に立ち止まったり、物を置いたりしないよう、駅構内にて定期的に放送を実施しています。



2016年度 輸送安全実績

鉄道運転事故などの発生件数の推移(2012年～2016年度)

2016年度は、鉄道運転事故が8件(対前年度同数)、輸送障害が32件(対前年度12件増)発生しました。インシデントは前年度に引き続き発生していません。



鉄道運転事故とは

「列車衝突事故」「列車脱線事故」「列車火災事故」「踏切障害事故」「鉄道人身障害事故」「鉄道物損事故」をいいます。

輸送障害とは

鉄道による輸送に障害を生じた事態で、鉄道運転事故以外の運休、また列車に30分以上の遅延が生じたものをいいます。

インシデントとは

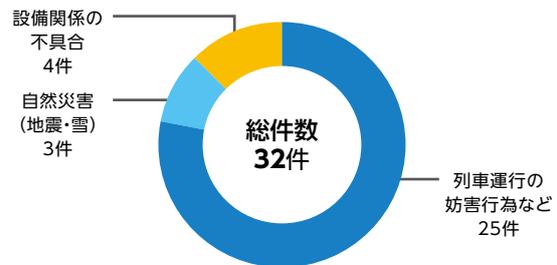
事故には至らなかったが、鉄道運転事故が発生するおそれがあると認められる事態をいいます。

鉄道運転事故

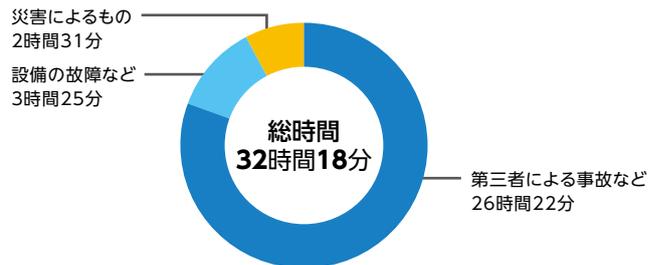
2016年度の8件のうち5件は鉄道人身障害事故で、その内訳は、飲酒されたお客様が列車に接触したものが2件、お客様が体調不良により列車に接触したものが1件、お客様が線路内に立ち入ったものが1件、お客様同士のトラブルにより列車に接触したものが1件です。

輸送障害

2016年度輸送障害の内訳



鉄道運転事故・輸送障害に伴う運転見合わせ時間



列車運行の妨害行為などへの対策

列車運行を妨害する行為については防犯カメラや赤外線センサーの設置のほか、最寄りの警察署とも連携して巡回を強化し、発生防止に努めています。

また、自殺行為については、駅係員、ガードマンが駅構内を巡回し、お客様にお声かけをする活動を行っています。そのほか、年に数回「人身事故防止強化月間」を設定し、巡回の強化に努めています。さらに、政府の「自殺対策強化月間」にあわせてポスターを掲出するなどの対策を行っています。

※列車運行の妨害行為とは故意による線路内への立ち入り、置き石および物の放置などを指します。



厚生労働省で制作したポスター



2017年度 安全目標・安全重点施策

[2017年度 安全目標]

社員一丸となり安全重点施策に取り組むことで達成していくことを目指します。

有責事故ゼロ と 運転事故・輸送障害発生件数の前年比削減

[2017年度 安全重点施策]

ソフト面	ハード面
<ol style="list-style-type: none"> 事故・トラブル対策 <ol style="list-style-type: none"> ホーム・踏切でのトラブル対策の推進 事故の芽、ヒヤリハットの原因分析と安全対策の実施 災害・危機管理 <ol style="list-style-type: none"> お客様への情報提供をよりスムーズに行うための行動計画の策定 鉄道施設を標的とするテロ行為、サイバーセキュリティ対策の強化 安全意識の高揚 <ol style="list-style-type: none"> 運輸安全マネジメント制度変更の対応 安全啓発室を活用した安全教育の充実 人材育成・活用 <ol style="list-style-type: none"> 管理職層への研修の充実 	<ol style="list-style-type: none"> 中長期施策の推進 <ol style="list-style-type: none"> 京王線(笹塚駅～仙川駅間)の連続立体交差事業の推進 下北沢駅改良工事の推進 減災対策 <ol style="list-style-type: none"> 高架橋や盛土区間、トンネルなどの耐震補強の実施 大雨対策、雷害対策の推進 火山の噴火による降灰対策に向けた準備 安全対策・老朽化対策 <ol style="list-style-type: none"> 新線新宿駅、渋谷駅へのホームドア設置の推進 防風壁の設置による安全対策の強化 高架橋老朽化対策の実施 新造車両への安全設備の搭載 京王線8000系車両、井の頭線1000系車両のリニューアル 駅構内などの監視カメラ更新や見直しによる対応強化

[2017年度 安全川柳]

社員より募集した安全川柳をポスター化し各職場に掲出することで、安全意識のさらなる高揚に努めています。

[安全川柳]

- 危険予知 空気を読まずに 指摘しよう
- 多分、だろう 見切り発車が 事故のもと
- いつもとは、違う時こそ 平常心
- 安全は ころのこもった おもてなし
- 一声で つくろう見えない ホームドア
- 安全と 言う名のレールに 終わりなし



ポスターの一例

お客様との連携

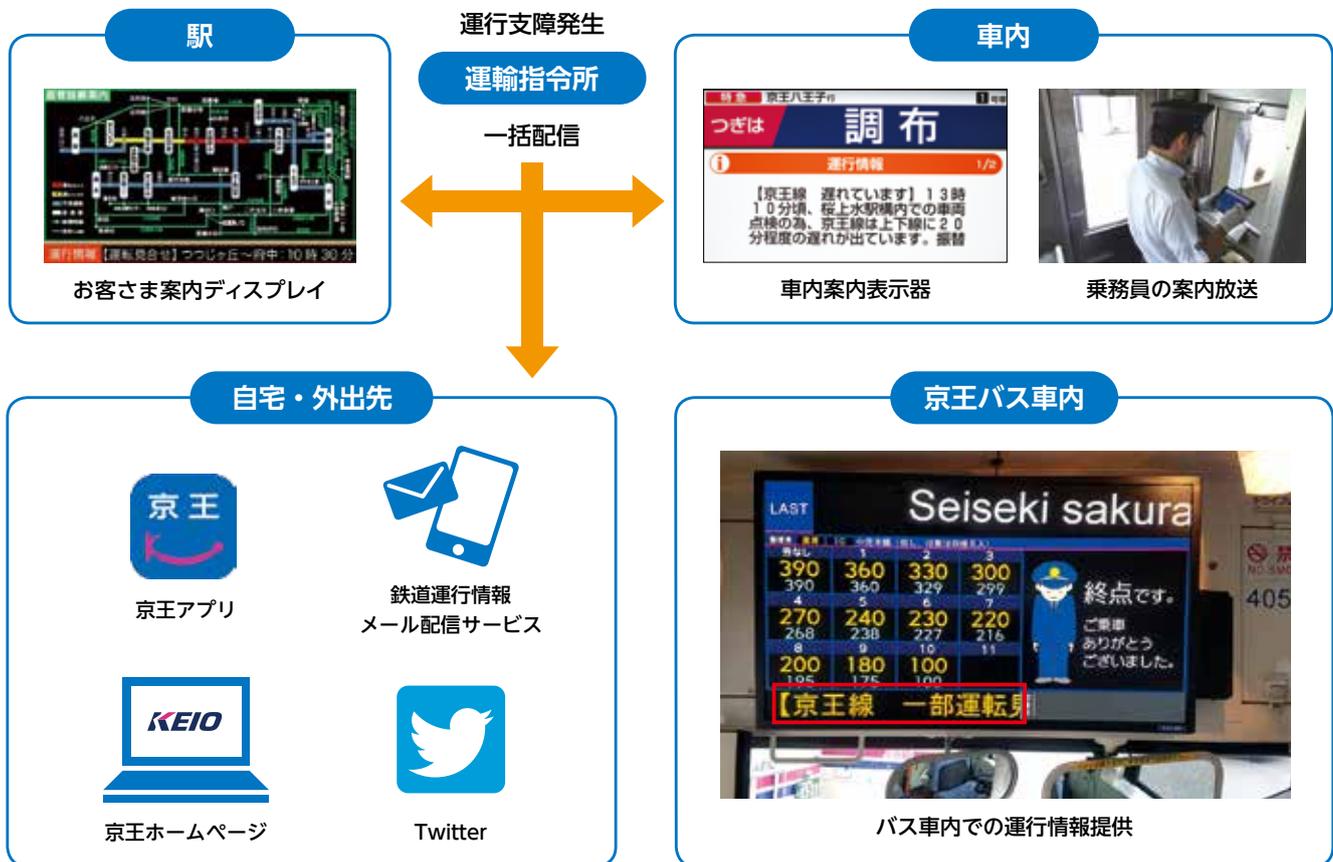
〔鉄道運行情報の提供〕

ダイヤ乱れなど、列車の運行に支障が生じた場合、文字情報・音声・路線図のいずれか、または組み合わせにより、お客様に分かりやすく鉄道運行情報をお届けしています。

文字情報については、ホームに設置の「行先案内板」、車内に設置の「案内表示器」のほか、ご登録いただいたお客様の携帯電話などへの「鉄道運行情報メール配信サービス」、「京王アプリ」、Twitterでの情報提供を行っています。

路線図については、文字情報とともに、改札口付近に設置の大型液晶モニター「お客さま案内ディスプレイ」および「京王ホームページ」にて提供しています。また、ディスプレイなどに表示される文字情報は、音声に変換され全駅で放送しています。

異常時などは、車掌が運輸指令所からの連絡やタブレット端末を活用して、お客様に必要な情報をよりスムーズにご案内できるよう努めています。また、多摩エリアの京王バス車内でも鉄道の運行情報を提供しています。



■京王アプリ

2016年12月に、公式スマートフォンアプリ「京王アプリ」にて、京王線・井の頭線の列車走行位置情報がリアルタイムでわかる「列車走行位置お知らせサービス」を開始しました。

京王線・井の頭線の列車の走行位置を、列車種別(特急・各駅停車など)ごとのアイコンで表示するほか、遅れが発生している列車については、1分ごとの遅延時分が表示されます。



走行位置画面イメージ



[安全啓発活動]

■ デモ機での操作体験

交通安全運動期間中に、駅構内にて安全設備の操作をご体験いただくことで、万一の際のご協力をお願いしています。



駅構内でのデモ機による操作体験

■ 踏切での呼びかけ

交通安全運動期間中に、踏切の無理な横断などをしないよう呼びかけを行い、事故の未然防止に努めています。



踏切での啓発活動

■ ホームでの事故未然防止の呼びかけ

お客様が安全に駅をご利用いただけるように、プラットホーム上での列車との接触や、ホームから線路への転落について注意喚起するとともに、危険を感じた時は、お客様に列車非常停止ボタンを押していただくことを目的に、鉄道25社局合同で「プラットホーム事故0(ゼロ)運動」を実施しました。



■ 高齢者施設や学校への訪問

交通安全運動期間中に、高齢者施設や学校などへの訪問により、安全な鉄道利用を呼びかけています。



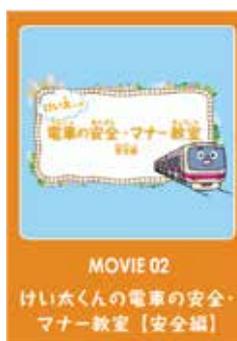
高齢者施設での安全教室

■ 安全啓発ビデオの放映

当社のキャラクターを用いた安全啓発用動画を活用し、駅構内での放映や、沿線の幼稚園・小学校などで安全啓発活動を行っています。



駅構内でのビデオ放映



動画については、当社のホームページでご覧いただくことができます。
www.keio.co.jp/keitakun/movie.html

グループ会社の安全対策

運輸安全マネジメントに基づく安全対策

京王沿線を主な事業エリアとする京王電鉄バスグループ、多摩西部を中心に事業を展開する西東京バス、タクシー・ハイヤー事業を行う京王自動車グループ、引越しなどの総合物流業務を行う京王運輸、ケーブルカーなどを営業する高尾登山電鉄・御岳登山鉄道の京王グループ運輸業各社では「運輸安全マネジメント」に取り組み、安全管理規程の制定、事故件数削減目標の設定、安全

意識の向上などを行うとともに、安全関連情報をホームページで公表しています。

また、社長以下役員が営業所を巡回し、安全管理体制の確認や、営業所員・乗務員と安全に関する意見交換を行うなど、積極的なコミュニケーションを通じて、輸送の安全確保を図っています。

【バス】

■ 安全装置の導入

京王電鉄バスグループ・西東京バスでは、安全運転技術の維持・向上を目的として、全車両にドライブレコーダー^{※1}を導入しています。そのほか、左折時や進路変更時の事故防止を目的として左折チャイムを導入し、路線バスに車内確認用の補助ミラーを設置しています。また、京王電鉄バスグループでは関東の各民営バス会社に先駆けて「運転訓練車」を導入しています。「運転訓練車」には、アイマークレコーダー^{※2}や安全確認装置^{※3}などにより、運転の様子を映像と音声で記録するとともに、運転状況をチェックできる車内モニターが備えられています。

高速バス事業では、2013年から、衝突被害軽減ブレーキを搭載した高速バス車両を導入しています。衝突被害軽減ブレーキは、走行中に高精度ミリ波レーダーで前車との車間距離を監視し、車間距離が近づき、衝突の恐れがある場合に警報音で注意を促すとともに、衝突の可能性が高いと判断した場合にはブレーキを作動させ、万一の衝突事故の被害を低減します。

そのほかにも事故防止対策機器を積極的に導入し、京王電鉄バスグループ・西東京バスでは、車間距離警報装置を128両、またバスジャック対策として、走行中に運転を妨害されないようにするための囲い(ドライバーズガード)を92両に導入しています。

※1 ドライブレコーダー：車内外に設置されたカメラとマイク(集音装置)により映像・音声情報を記録・再生する装置です。

※2 アイマークレコーダー：乗務員が装着したカメラで目の動きを映像化して記録する装置です。

※3 安全確認装置：乗務員が安全確認を必要とする箇所を点灯などで示す装置です。



ドライブレコーダー



運転訓練車



衝突被害軽減ブレーキ搭載車両



■ 乗務員の教育・健康管理強化

京王電鉄バスグループでは、安全運転中央研修所で、通常では体験できない運転上の危険などを体験する3泊4日または1泊2日の研修を行うことで、安全運転に対する意識の向上を図っています。

西東京バスでは、毎年、全営業担当員（運転者）を対象とした「営業担当員定期研修」を開催しています。この研修は、社長懇談会、事故防止・接遇向上の座学研修、運転実技訓練の3部から構成され、社長懇談会では、社長が会社方針の説明を行うほか質疑応答を通じ、全営業担当員と直接対話することで、現場の声を安全対策につなげています。

また、京王電鉄バスグループ・西東京バスでは、乗務員の健康リスクを管理するために、SASスクリーニング検査や脳ドック（MRI）検査を実施し、健康起因事故の未然防止に努めています。



運転実技訓練



座学研修



管理職から営業係への健康面談

【 タクシー 】

京王自動車グループでは、乗務員同士の「小集団活動」の中で、自社で定めた「運転の基本動作」を画像化し視聴させています。また、その徹底に向けて、実技を取り入れた教育を実施し、運転技術を向上させる取り組みを実施しています。



車庫内で一時停止の実技講習

【トラック】

京王運輸では、2008年に全日本トラック協会が認定する「安全性優良事業所」の取得率100%（全5事業所）を達成しました（業界全体の取得率は27.8%）。

2016年度には認定を10年間連続取得した多摩営業所が優良事業所として東京運輸支局長より表彰を受けました。

また、2016年度末までに全車両へのドライブレコーダー搭載を完了し、安全運転技術向上を図っています。



安全性優良事業所に交付される「Gマーク」が貼付されたトラック



優良事業者表彰

メッセージ



常務取締役
(経営統括本部長)

丸山 荘

沿線にお住まいの多世代の方の 幸せな暮らしの実現に取り組んでいます

京王グループは、生活関連サービス事業を通じて、つながりあうすべての人に誠実であり、信頼のトップブランドになることを目指しております。特に沿線にお住まいの多世代の方それぞれに、利便性が高くかつ快適と感じられる生活サービスをご提供していくことで、「住んでいて良かった。」と言っていただける街づくりを進めております。

具体的には、鉄道をご利用される方のため、駅設備、車両設備をさらに充実させることに加えて、最新の運行情報とコミュニケーション手段をご提供してまいります。

また、沿線の活性化策として、本年は、調布駅周辺において、大型商業施設「トリエ京王調布」を開業したほか、地域の高齢者を支える事業として、サービス付き高齢者住宅「スマイラス聖蹟桜ヶ丘」を開業いたしました。さらに、空き家対策の一環として、地域の方々と連携した合法民泊事業への参入も進めているところであります。

文化・教育・子育て・スポーツ振興等の支援策としては、「京王音楽祭」「京王駅伝フェスティバル」などのイベントを継続実施しているほか、お子様から大人までの幅広い世代の学びの機会として、「京王アカデミープログラム」を、沿線の大学・団体との連携により適宜ご提供しております。

一方、当グループで働く社員についても、多様な人材に活躍してもらおうべく、ダイバーシティ・マネジメントを推進しております。なお、京王電鉄では、長時間労働を抑制し、働きやすい職場作りに取り組んだこと等により、経済産業省から「健康経営優良法人」(ホワイト500)の認定を受けました。

今後も、お客様、お取引先、行政・自治体等ステークホルダーの皆さまの声に耳を傾け、一つひとつ課題を解決していくことで、地域社会へ貢献し続けてまいります。

[京王グループとステークホルダーのつながり]



京王グループ行動規範に基づき、ステークホルダーの皆様に対して以下のような取り組みを進めます。

- お客様の利便性、快適性の向上
- お客様との対話
- 多世代が生活しやすい沿線づくり
- 地域社会への貢献
- 地域社会・行政との連携
- 人材の活用と働きやすい職場づくり
- 株主・投資家・取引先等への取り組み



沿線のさらなる活性化を目指して

■ 調布駅周辺開発の推進

2017年9月に調布駅周辺に商業施設「トリエ京王調布」を開業しました。「調布らしいちょっとステキな生活」をコンセプトに、「京王百貨店」のサテライト店舗や関東最大級の「成城石井」、オーナーが調布市出身・在住の珈琲焙煎工場併設大型カフェ「猿田彦珈琲」など調布ゆかりの店舗を含む全72店舗が出店しています。



トリエ京王調布A館



トリエ京王調布B館



トリエ京王調布C館

■ KEIO BRIDGE Shimokitazawa

井の頭線下北沢駅の高架下空間に2019年夏までの期間限定で、飲食店舗、イベントパーク、時間貸し駐車場から構成される「KEIO BRIDGE Shimokitazawa」をオープンしました。さまざまなイベントを展開し、地元下北沢の地域住民の方をはじめ、たくさんの方々を下北沢を楽しむ場として利用してもらえる施設を目指していきます。



KEIO BRIDGE Shimokitazawa イベントイメージ

■ 民泊事業への取り組み

2015年12月に投資した株式会社百戦錬磨と連携して推進する合法の民泊事業への取り組みとして、2017年2月に大田区蒲田において、大田区から特定認定を受けて行う鉄道業界では初となる一棟まるごと民泊マンション「KARIO KAMATA」がオープンしました。

増加する空き家と訪日外国人の増加による宿泊施設不足が深刻な課題となる中で、「不動産の活性化と旺盛な宿泊ニーズ」を繋ぐ民泊事業について、今後も法整備の状況を踏まえ、地域の方々とも連携しながらエリア展開を進め、京王沿線における空き家対策やまちづくりにも活用し、沿線のさらなる活性化を図っていきます。



KARIO KAMATA 外観・内観

住んでももらえる、 選んでももらえる沿線づくり

● お客様の利便性・快適性の向上 P.46

- 駅設備の充実
- 車内設備の充実
- 駅・車内での情報提供
- グループの取り組み(バス・ホテル・タクシー)



● お客様との対話 P.50

- 積極的な広聴活動
- ホームページや冊子における多言語案内
- その他のコミュニケーション



● 多世代が生活しやすい沿線づくり P.52

- 子育て支援の取り組み
- 暮らしのお手伝い・健康促進
- 地域高齢者を支える事業



● 株主・投資家・取引先等への取り組み P.63

- 株主・投資家の皆様との対話
- 取引先等との関係

● 人材の活用と働きやすい職場づくり P.59

- 多様な人材雇用
- 働きやすい職場環境づくり
- 社員のキャリア支援
- ダイバーシティ・マネジメントの推進
- 人権・労働安全衛生

● 地域社会・行政との連携 P.57

- 沿線自治体との連携
- 中部地方の自治体との連携



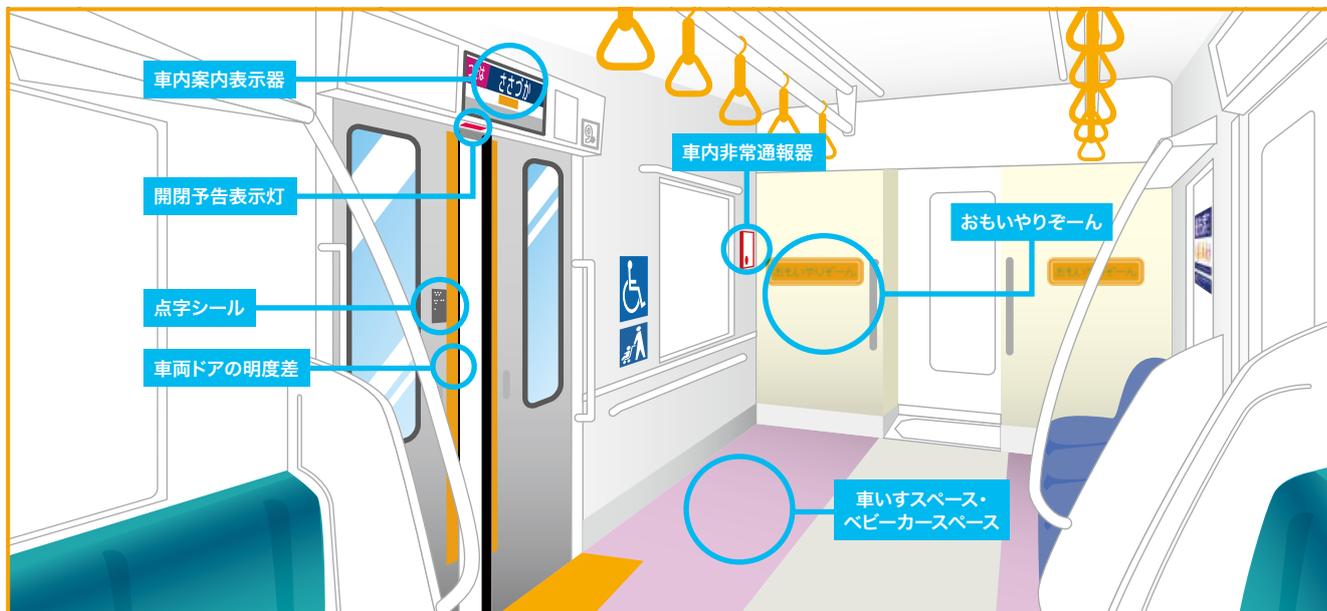
● 地域社会への貢献 P.54

- 文化・教育・子育て支援イベント
京王アカデミープログラム
- スポーツ振興・チャリティ・産学連携





[車内設備の充実]



■ おもいやりゾーン

車内の優先席を明確にするため、優先席付近のつり革や座席の色を変えた「おもいやりゾーン」を設置しています。「おもいやりゾーン」付近では、混雑時には携帯電話の電源をお切りいただくようご案内するなど、人に優しい車内環境の整備に努めています。

■ 車いすスペース・ベビーカースペース

車いすスペース・ベビーカースペースを全編成に設置しています。また、既存車両のリニューアルに合わせ、順次増設を進めています。

■ ユニバーサルデザイン

新造車両の導入や既存車両のリニューアルでは、ユニバーサルデザインの考え方を採り入れ、つり革や荷棚の高さを低くし、手すりやつり革は握りやすい形状にしています。さらに座席端部に仕切り板を設置するなど、車内環境の整備を進めています。



ユニバーサルデザインによる車内の一例

■ 車内案内表示器・ドアチャイム

停車駅などを文字でお知らせする車内案内表示器 (LEDまたは液晶画面) と、ドアの開閉を音でお知らせするドアチャイムを全車両に設置しています。

■ 車内非常通報器

電車内で緊急事態が発生した際に、ボタンを押すことで乗務員に通報できる車内非常通報器を全車両に設置しています。

■ 女性専用車

2001年から平日23時以降に新宿駅を出発する急行系列車の最後部1両を女性専用車として運転を開始し、2005年から平日朝間・夕間の通勤時間帯にも拡大しました。

なお、女性専用車には女性のお客様のほか、小学生以下のお客様、身体の不自由なお客様とその介助者もご乗車いただけます。

■ 点字シール

目の不自由なお客様が、ご乗車になっている車両の号車・ドア位置が分かるよう、車両のドアに点字シールを貼付しています。



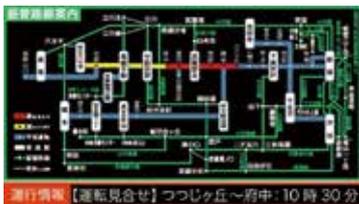
[駅・車内での情報提供]

■ お客さま案内ディスプレイ

通常時は電車の発車案内などを表示するほか、事故や災害などで列車の運行に支障が発生したときには、支障区間や振替輸送経路などを、視覚的に分かりやすく表示する「お客さま案内ディスプレイ」を全駅の改札口付近に設置しています。



【通常時】



【異常時】

■ 行先案内板

列車の発車時刻や種別・行先・停車駅などを文字でお知らせする行先案内板を全駅に設置しています。



■ 駅ナンバリング

沿線外からお越しのお客様にも当社線を分かりやすくご利用いただけるよう、アルファベットと色で路線を示し、番号で駅名を表示した駅ナンバリングをホーム駅名看板や路線図に導入しています。



ホーム駅名看板



ナンバリング表示
(井の頭線・渋谷駅)

■ サービススタッフ

電車のご利用に不慣れなお客様や海外からお越しのお客様にも安心してご利用いただけるよう、運賃や所要時間、乗り場や駅周辺の施設などの案内を専門に行う「サービススタッフ」を新宿駅、新線新宿駅、渋谷駅、吉祥寺駅に配置しています。

■ 外国語による情報提供

外国人のお客様へのご案内の拡充を図るため、駅構内の案内看板や行先案内板、お客さま案内ディスプレイ、車内・車外の案内表示器などで2カ国語表記(日・英)または4カ国語表記(日・英・中・韓)によるご案内を行っています。また、一部の車両には、自動放送装置を導入し、2カ国語(日・英)による停車駅や乗り換えなどのご案内を行っています。



番線案内サイン



車内案内表示器(液晶画面)

■ 駅・電車内での公衆無線LANサービス

ホームやコンコースで、各通信事業者の公衆無線LANサービス(Wi-Fi)がご利用いただけます。電車内でもご利用いただけるように順次整備を進めており、井の頭線では全車両に整備が完了しました。また、訪日外国人のお客様向けの無料公衆無線LANサービス『KEIO FREE Wi-Fi』が京王線・井の頭線の9駅でご利用いただけます。

■ 列車運行情報サービス

事故や災害などで列車の運行におおむね15分以上の遅延などの支障が発生した際、お客さま案内ディスプレイや車内案内表示器、京王ホームページ、京王アプリ、携帯電話サイト「京王ナビ」などで運行情報をお知らせしています。また、「KEIO MOBILE NEWS」から事前にご登録いただいたお客様の携帯電話へ、最新の列車の遅延情報などをメールでお知らせする他、Twitterの公式アカウントでもお知らせしています。



京王アプリ通知イメージ



Twitter公式アカウント



[グループの取り組み]

■ バス

京王電鉄バスグループおよび西東京バスは、2012年から路線バス(高速・貸切を除く)の全車両がどなたも乗り降りしやすいバリアフリー対応となっています。

車体が傾斜し床面が下がり乗降しやすくなるニーリング機能のあるノンステップバス970両をはじめ、リフト付きバス14両、スロープ付きワンステップバス11両を導入しています。



ノンステップバス(ニーリングタイプ)

■ バス車内での公衆無線LANサービス

京王電鉄バスグループでは路線バスの全車両で、西東京バスでは山間部を除く路線バス全車両で、公衆無線LANサービス(Wi-Fi)がご利用いただけます。

※公衆無線LANサービスの提供会社はエリアによって異なります。

■ ホテル

京王プラザホテルでは、聴覚障がいのあるお客様とより円滑にコミュニケーションを図るために、タブレット端末を用いた音声の文字変換システムと、遠隔手話サービスを2016年5月に導入しました。これによりフロントと客室間のお問い合わせなどに、文字や手話でスムーズに対応できるようになりました。また、従来から行っていた筆談でのコミュニケーションも、タブレット端末の導入で、より迅速に行えるようになりました。



遠隔手話サービス

■ サポートタクシーサービスの充実

「はぴママサポートタクシー」は、東京防災救急協会のマタニティサポート講習を受講した乗務員による、妊娠中のお出かけ、病院への送迎、乳児健診の外出時などにご利用いただける送迎サービスです。「はぴチルサポートタクシー」は、小学生の学習塾や習い事、学童保育への送迎時にご利用いただけます。

topics

■ 京王自動車町田営業所の乗務員に東京消防庁が感謝状を授与

2016年7月、「はぴママサポートタクシー」登録のお客様が病院に向かうタクシー車両内で出産された際、担当乗務員が救急車の到着までお客様本人や出産直後の赤ちゃんを介抱したことで、東京消防庁から消防総監感謝状を贈られました。



京王自動車 町田営業所

山下 成佳

妊娠中のお客様をご自宅から病院までお送りさせていただき「はぴママサポートタクシー」の運転手として、東京防災救急協会のマタニティサポート講習を受講しております。車内での出産時は、講習を思い出し、赤ちゃんの体を拭いてくるみ、お母様にお声掛けをしながら救急隊の到着を待ちました。生まれた赤ちゃんを見た時は頭が一瞬真っ白になりましたが、赤ちゃんが泣き声をあげ、体を動かしたときはとても安心しました。

今後も、妊娠中の方の検診や陣痛時にも安心してご利用いただけるよう、一生懸命務めてまいります。

お客様との対話

[積極的な広聴活動]

■ 京王お客さまセンター

当社では「京王お客さまセンター」を設け、電話やメール、手紙などによりお客様からのご意見・ご要望をいただいています。

2016年度はご指摘、お褒めの言葉などあわせて28,975件の声を頂戴し、うち24,445件は鉄道に関するものでした。いただいた声に対しては、速やかに回答しているほか、担当部署においてサービス向上や従業員教育に活用しています。

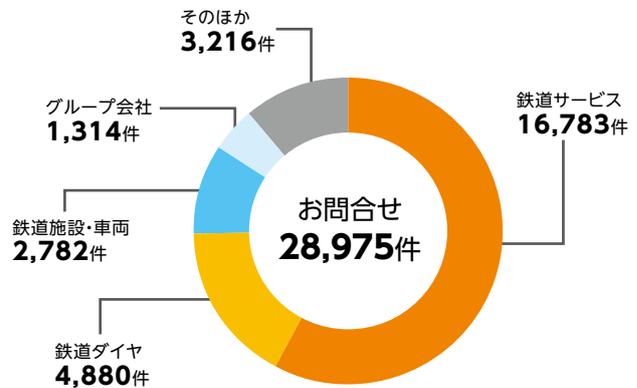
電話 042-357-6161

受付時間 9:00～19:00年中無休（年末年始を除く）

■ 車内温度に関するご意見・ご要望

京王お客さまセンターに寄せられるご意見・ご要望の中で多いものの一つに、列車内の温度に関するものがあります。ホームページからの専用投稿フォームをご用意し、ご乗車時の詳細な状況を伺うことで、適切な温度管理に活用しています。

■ お客様の声(2016年度)



■ お客様満足度調査

当社では、電車の運行・ダイヤや、係員・駅施設のサービスレベルなどについて、お客様満足度調査を定期的に行っています。京王お客さまセンターには寄せられない、潜在的なご意見を伺うことで、遅延時の運行情報の適切な提供、より便利なダイヤの設定やトイレの快適性向上など、問題点の把握と改善に努めています。

改善活動事例のご紹介

当社では京王ニュース内で、「お客様の声」のコーナーを設け、お客様の声を反映した事例などの紹介を行っています。

お客様の声

「端の席に座っていると、もたれてくる人の荷物が当たり快適に過ごせないことがあります。」

改善しました

端の座席には仕切り板を設置しています。

順次実施している車両のリニューアル工事にあわせて、端の座席に仕切り板の設置を進めています。また、手すりやつり革を握りやすい形状に変更しているほか、車いす・ベビーカースペースを増設するなど、お客様の利便性向上に努めています。(2016年12月号掲載)



お客様の声

「夕方に都営新宿線方面から桜上水に帰宅する際、混雑していて窮屈です。」

改善しました

2016年9月のダイヤ改正で、17:30以降に新線新宿発の急行系列車(京王線方面)が全て10両編成になり、混雑が緩和されました。(2016年10月号掲載)



お客様の声

「待ち合わせまでの地図を家に忘れてしまいました。目的地までの道のりを教えてください。」

改善しました

主要施設までの地図をつくりました。

お客様からのお問い合わせが多い、京王線沿線の主要施設を記載した「駅周辺案内地図」をつくりました。目的地への円滑なアクセスをお手伝いしますので、お困りの際は、駅の有人窓口までお越しください。(2016年11月号掲載)





「ホームページや冊子における 多言語案内」

■ ホームページ

京王ホームページでは、英語、中国語（簡体字）、中国語（繁体字）、韓国語、フランス語での情報案内をしています。電車のご案内をはじめ、IR・企業情報、沿線情報などを掲載しています。



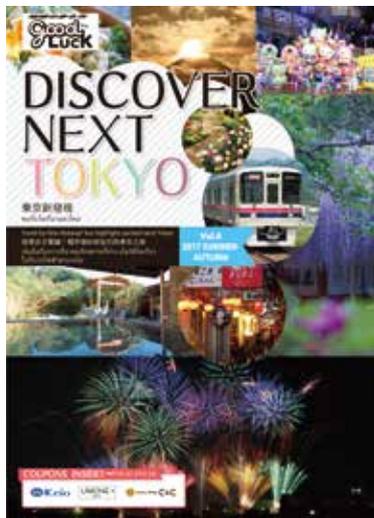
英語版ホームページ

■ 各種案内パンフレット・チラシ

外国人のお客様に人気の高い高尾山へのお得なきっぷの案内・買い方を説明した冊子や、高尾山の登山コースの紹介などの楽しみ方を解説する冊子、また京王沿線の観光スポットを紹介する冊子などを制作・配布しています。



高尾山ガイドブック
(日本語・英語)



沿線情報誌(英語・中国語・タイ語)

「その他のコミュニケーション」

■ 街はぴ

各駅の周辺ショップ・イベントや、ライターがオススメするクチコミ情報などをお届けする沿線情報サイト「街はぴ」は、地域の皆様がコミュニケーションを取りあえるサイトです。



街はぴ

■ facebook(けい太くん、プラットガール)

当社キャラクター「けい太くん」や「プラットガール」による事業情報、沿線情報の発信をしています。



プラットガールfacebook

■ 交通教室

当社、京王電鉄バスグループ、西東京バスでは、地域の学校施設に伺い、交通教室を開催しています。安全な電車・バスの利用の仕方や利用マナーについて、社員が動画などを利用して分かりやすく授業を行っています。動画は京王ホームページやYouTubeなどで公開しています。



授業の様子

けい太くん安全・マナー教室ビデオ

多世代が生活しやすい沿線づくり

京王グループでは、「住んでもらえる、選んでもらえる沿線」を目指し、幅広い世代の方々が生活しやすくなるよう、ライフスタイルに応じたサービスをお届けしてまいります。

〔子育て支援の取り組み〕

妊娠・出産から子育て、働きたいお母さんへのサポートまで幅広いサービスを提供して、子供たちを健やかに育みながら子育てしやすい環境づくりをしています。

■京王キッズプラッツ

東京都認証保育所・認可保育所「京王キッズプラッツ」は、家庭的な雰囲気の中、お子様一人ひとりの発達や気持ちに寄り添い、豊かな成長をサポートします。



京王キッズプラッツ

■事業所内保育所「サクラさーくる」

2016年10月から多摩市の認可基準に基づく地域型事業所内保育所として、地域のお子様の受け入れを行っています。



事業所内保育所「サクラさーくる」

〔暮らしのお手伝い・健康促進〕

子育て世代からシニア世代まで家族みんなの生活にゆとりを届ける生活サポートサービスの提供を行っています。

■京王ほっとネットワーク

●家事のお手伝い

水まわりのお掃除やお洗濯などの家事全般を、経験豊かなスタッフがお手伝いします。

ひどい汚れや手の届かない場所は、ハウスクリーニング専門の協力会社をご紹介します。



「家事のお手伝い」の様子

●暮らしのいろいろレンタルDEAR STYLE

必要な期間、使う分だけベビー用品やトラベル用品、新生活家電セットをお手軽にレンタルすることができ、「買う前にちょっと試してみたい」というニーズにこたえます。

●お買いものサポート

お買い上げの商品をその日のうちにご自宅までお届けする当日宅配を一部の京王ストア・キッチンコートで提供するほか、多摩ニュータウン地域や日野市平山地域を巡回する移動販売を行っています。



「移動販売」の様子



● 住まいのリフォーム

網戸張り替えなどの小修繕、給湯器交換や外壁塗装のほか、ライフスタイルにあわせたリフォームまで、住まいのことなら何でもご相談いただけます。



住まいのリフォーム+高幡店



住まいのリフォーム(外壁塗装)の施工例

● 空き家巡回

居住していない住居を定期巡回し、郵便物や施錠の確認、通水・換気や簡易清掃などを行い、写真付きでご報告します。

少子高齢化が進む中、安心して暮らせる街並みを維持します。

● セルフ健康チェックサービス

沿線の方が、駅やショッピングセンターなどで手軽に健康チェックができる「京王・ケアプロ ヘルスケアキャラバン」を行い、日頃健康チェックをする機会が少ない方の健康管理を支援しています。

[地域高齢者を支える事業]

多様化するライフスタイルにあわせシニア向け住居の充実を図っています。シニア世代の不安・不便の解消とアクティブライフのサポートを行うことで、安心・安全・快適な住まいを提供します。

■ 介護付有料老人ホーム「アリストージュ経堂」

バリアフリーの居室と魅力的な共用空間を有するシニアレジデンスで、ご入居者の身体の状況に応じて、生活サポートサービスや介護サービスなどさまざまなサービスを提供しています。



アリストージュ経堂

■ サービス付き高齢者向け住宅「スマイラス聖蹟桜ヶ丘」

快適な住み心地にこだわったバリアフリー仕様の居室と24時間365日の有人管理により、自立した生活が送れるシニアの自由で安心な暮らしをサポートします。また、周辺地域の方もご利用いただける在宅介護・看護サービスの拠点や、医療・介護の総合相談窓口も設置しています。ご希望があった際には至近の介護付有料老人ホームに優先入居することができます。



スマイラス聖蹟桜ヶ丘



スマイラス聖蹟桜ヶ丘内ライブラリーの様子

地域社会への貢献

〔文化・教育・子育て支援イベント 京王アカデミープログラム〕



京王沿線には、今も息づく自然と、それらに育まれてきた歴史や、人々の営みによる独自の文化がかたちづくられています。

沿線地域にある多様で豊かな文化資産を沿線の大学・団体などとの連携により、皆様とともに見つめ直し、ともに楽しむことを京王沿線のくらしへひろげる、学びプログラム。それが、「京王アカデミープログラム」です。

京王アカデミープログラムでは、沿線で過ごすお子様から大人まで幅広い世代に向けて、「文化」（歴史・文学・音楽・美術・自然・科学など）・「教育」・「子育て」に関する学びの機会を提案してまいります。

ともに学び、ともに創り、ともに育つ。京王アカデミープログラムは、豊かな京王沿線のくらしに向かう、新しい「学び」のかたちです。

■ 京王キッズおしごと隊

京王グループでの職業体験を通して、自分の将来の職業について考え、社会の仕組みを知るとともに、京王グループへの理解を深めていただくことを目的とするプログラムで、2009年から実施しています。



京王レールランドで乗務員のおしごとを体験しよう！（京王電鉄）



電車の整備のおしごとを知ろう！（京王電鉄）



京王バスのおしごとを体験しよう！（京王電鉄バスグループ）



スーパーのおしごとを体験しよう！（京王ストア）



カメラマンになってスタジオで撮影しよう！（京王エージェンシー）



百貨店でプレゼント包装をしよう！（京王百貨店）

「電車の整備のおしごとを知ろう！」参加者の声

普段聞けないことが聞けてうれしかったです。電車を切ると言っていてびっくりしました。体験できて楽しかったです。車輪もよく見ると大きくて少し数字が書いてありました。電車が持ち上げられた時、電車の裏が見られてうれしかったです。



小学校3年生



保護者様

普段入ることのできない施設で電車整備の仕組みを勉強することができ、子どもにとっても私にとっても良い体験になりました。京王線はよく利用しますが、より親しみを覚えることができました。良い機会を得ることができました。ありがとうございました。



■ 親子で楽しむ能・狂言体験教室

都内で唯一現存する屋敷内能舞台である初台の「代々木能舞台」を会場に、日本の伝統文化である「能・狂言」を親子で楽しみながら体験するプログラムを実施しました。



親子で楽しむ
能・狂言体験教室

■ 高尾山峰中修行体験合宿

子供たちが座禅、法話、写経、水行など、高尾山薬王院の修行体験を通して、「新しい友達をつくる」「自然に触れて自然を大切にする」「心に残る思い出をつくる」ことを目的としています。1970年から2016年までに44回実施しています。



座禅

VOICE

精神修養の体験が
心を豊かに育みます



高尾山峰中修行体験合宿 町田市レクリエーション連盟 専門指導員
露崎 謙治 様

高尾山峰中修行体験合宿の歴史は約半世紀にわたり、初期から参画しております。参加する小学生は、高尾山の豊かな自然で行うレクリエーション活動や護摩・座禅・写経・滝修行を通して、自分自身や周りの友だちと向き合います。その中で、普段の生活では得ることができない多くの気づきを得て、心を豊かに育むことができます。大変貴重な精神修養を体験することができるこの合宿が、是非今後も継続され多くの子供たちの学びの場となり続けることを願っております。

■ 子育てサロン ～感性を育む砂絵アート～

親子で気軽に楽しむアート体験を通じて、手を使ったいろいろな感触や、鉛筆やクレヨンのお絵かきとは異なる体験をすることでお子様の感覚を刺激し、繊細な感性を養うプログラムを実施しました。



子育てサロン

■ 沿線めぐり「歴史と文化をはぐぐむ吉祥寺・井の頭公園～開園100周年を迎える井の頭恩賜公園の昔と今を学ぶ～」

2017年5月に開園100周年を迎えた井の頭恩賜公園にちなみ、地域の歴史や文化に触れ、同公園や吉祥寺の魅力を再発見するプログラムを行いました。



沿線めぐり

■ 講演会「世界に誇る日本の伝統文化～花火～」

府中市の日本を代表する花火製造会社 丸玉屋小勝煙火店社長・小勝一弘氏と、江戸文化に造詣の深い落語家・林家正蔵氏による対談形式の講演会を実施し、日本の伝統文化である「花火」について学ぶプログラムを実施しました。



講演会

〔スポーツ振興・チャリティ・産学連携〕

■ スポーツ振興

テニス、サッカー、バスケットボール、軟式野球など、沿線地域で開催されるスポーツイベントに協賛しています。地域の皆様の健康な暮らしづくりを応援し、次世代を担う子供たちが心身ともに健やかに成長するよう支援しています。



京王少年少女サッカーフェスティバル



第33回京王電鉄杯10大学バスケットボール・チャリティマッチ

■ 京王駅伝フェスティバル

2013年から味の素スタジアムで開催しています。駅伝だけでなく、沿線で人気のキャラクターによる運動会や、沿線の学生・団体によるパフォーマンス、鉄道イベントなども行っています。

参加料の一部は、東日本大震災により被災した子供たちのために、「東日本大震災みやぎこども育英募金」「いわての学び希望基金」「東日本大震災ふくしまこども寄附金」へ引き続き寄付したほか、熊本地震の被災地の復旧・復興等のために寄付しました。



京王駅伝フェスティバル

■ 京王音楽祭

1994年から開始し、2016年で23回を数えました。京王駅伝フェスティバルと同様に、入場料の一部を東日本大震災により被災した子供たちや、熊本地震の被災地の復旧・復興等のために寄付しました。



京王音楽祭

■ 多摩未来奨学金

「学術・文化・産業ネットワーク多摩」が実施している「多摩未来奨学金」プログラムに参加し、寄付金の提供、企業と学生の勉強会開催などを通じ、地域の学生・将来の多摩を支える学生の支援を行っています。



「多摩未来奨学金」プログラム

■ 東洋大学と連携した「三つ星日本アルプスライン旅行プランづくりプロジェクト」

新宿から信州・飛騨を対象とした広域観光ルート「三つ星日本アルプスライン」(58ページ参照)をめぐる旅行プランのアイデアについて東洋大学国際観光学部にも所属する学生独自の視点で企画・提案してもらうプロジェクトを行い、2017年7月に成果発表会を開催しました。



成果発表会の様子



地域社会・行政との連携

[沿線自治体との連携]

■ コミュニティバス

東京都内では、地方自治体を中心となって、コミュニティバス路線を開設しています。京王電鉄バスグループと西東京バスは、利便性の高い街づくりに貢献するため、以下のバス路線を受託・運行しています。



■ コミュニティバスの運行受託状況

名称	行政	運行	開始年月	名称	行政	運行	開始年月
① 日野市ミニバス	日野市	京王電鉄バス	1986年 8月	⑧ はちバス	八王子市	西東京バス	2003年 3月
② 多摩市ミニバス	多摩市	京王バス南	1997年 11月	⑨ ちゅうバス	府中市	京王バス中央	2003年 12月
③ 調布市ミニバス	調布市	京王バス東	2000年 3月	⑩ ハチ公バス	渋谷区	京王バス東	2004年 9月
④ るのバス	あきる野市	西東京バス	2000年 10月	⑪ はむらん	羽村市	西東京バス	2005年 5月
⑤ すぎ丸	杉並区	京王バス東	2000年 11月	⑫ 新宿WEバス	新宿区	京王バス東	2009年 9月
⑥ CoCoバス	小金井市	京王バス中央	2003年 3月	⑬ みたかシティバス	三鷹市	京王バス東	2012年 3月
⑦ ぶんバス	国分寺市	京王バス中央	2003年 3月				

■ PFI事業

PFIとは公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金やノウハウを活用することにより、公共サービスの提供を行う事業手法です。

東京都のPFI事業として多摩地域ユース・プラザ整備等事業を

京王ユース・プラザが受託し、都立高校を改修、2005年に高尾の森わくわくビレッジを開館しました。その後2015年には、多摩地域ユース・プラザ運営等事業を受託し、引き続き施設の運営および維持管理業務を実施しています。



高尾の森わくわくビレッジ

物件名	開業年月	主な業務活動
高尾の森わくわくビレッジ	2005年 4月	運営全般・施設維持管理など
杉並公会堂	2006年 6月	施設維持管理・イベントなどの企画運営
ルミエール府中	2007年 12月	施設維持管理・窓口運営
東京地方・家庭裁判所立川支部	2009年 3月	施設維持管理
稲城市立iプラザ	2009年 10月	施設維持管理

【中部地方の自治体との連携】

中央道の高速バスエリアの関係自治体や事業者と連携して、新たな広域観光ルートづくりや高速バスのフリーきっぷ(企画乗車券)の販売、新宿の観光案内所を活用した観光情報の提供等を行うことで、地域の魅力を高め、地域活性化に貢献しています。

■ 中部地方インフォメーションプラザin京王新宿

2016年7月、多くの訪日外国人が来訪する新宿駅の「京王モール」内に中部地方の自治体等が集結した観光案内所を開業しました。

この観光案内所を「中央道を主体とした広域観光ルート(三つ星日本アルプスライン)」の拠点として、岐阜県・長野県・山梨県の自治体等と連携し観光情報を発信するとともに、お得に中部・北陸地方へ旅行ができる高速バス乗車券や旅行商品の販売などを行っています。

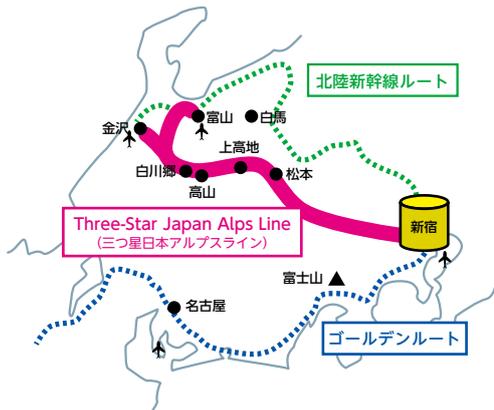


中部地方インフォメーションプラザin京王新宿

■ 三つ星日本アルプスライン

(英語名: Three-Star Japan Alps Line)

中央道を主体に高速バスや地域の路線バスを使って新宿と中部地方を旅行することができる広域の観光ルートを「三つ星日本アルプスライン」と名付け、地域の観光産業の活性化に貢献しています。



三つ星日本アルプスライン

■ ホームページ、Facebook

中部地方インフォメーションプラザin京王新宿のホームページでは、日本語、英語、中国語(簡体字)、中国語(繁体字)で、Facebookでは、日本語、英語、中国語(繁体字)での情報案内をしています。中部地方のおすすめエリアの観光スポット情報やイベント情報、高速バスのお得なきっぷの情報などを発信しています。

■ 里地里山

京王沿線の里地里山の風景や自然の素晴らしさを知っていただく目的で発行している冊子「里地里山を歩こう」について、2016年度は飛騨地方の散策マップを加えて紹介しています。高山市丹生川支所、飛騨市役所、下呂市役所にコースの選定などについてご協力いただき、それぞれの環境保全活動についても紹介しています。



里地里山を歩こう冊子

VOICE

協力して
飛騨地方の魅力を
伝えていきます



高山市 商工観光部長
高原 恵理 様

広域観光ルートにより交通の利便性が向上しただけでなく、「中部地方インフォメーションプラザin京王新宿」の開設により飛騨地方の旬で魅力満載な最新情報をご紹介いただくことができ、中部地方と首都圏を結ぶ繋がりが強くなったと感じています。

また、「里地里山を歩こう」の冊子では、住民も気づいていなかった飛騨の原風景を散策するコースを再発見いただき、自慢の風景を守る活動への励みになりました。

今後も、海外からのお客様がストレスを感じることなく日本の観光を楽しんでいただけるよう、より多くの情報のご案内をお願いします。



人材の活用と働きやすい職場づくり

[多様な人材雇用]

■ 公正な採用方針

京王グループは、公正採用選考人権啓発推進員制度(厚生労働省)、採用選考に関する企業の倫理憲章(日本経団連)に基づいた採用活動を行っています。

■ 人材・雇用に関するデータ

■ 従業員数、平均年齢

	従業員数(人)	平均年齢(歳)
2012年度	2,370	40.0
2013年度	2,385	40.2
2014年度	2,416	40.3
2015年度	2,447	40.2
2016年度	2,497	40.3

■ 平均勤続年数

男性	18年1カ月
女性	10年11カ月

[働きやすい職場環境づくり]

■ 働きやすい職場環境づくりに向けた調査の実施

当社では2011年から社員一人ひとりが主体的に働きやすい職場環境づくりをするために、紙およびWEBを使用した無記名式アンケートによる「従業員意識調査」を実施しています。

2016年に実施した調査では、対象2,779名のうち96.4%から回答があり、従業員の満足度は概ね良好な結果が得られました。調査結果は、社内報を通じて公表し、課題の共有を図っています。

■ 月ごとの平均所定外労働時間(正社員対象)

	男性	女性
2012年度(2012/8~2013/7)	32.3	20.6
2013年度(2013/8~2014/7)	31.5	20.6
2014年度(2014/8~2015/7)	29.5	17.9
2015年度(2015/8~2016/7)	30.0	19.8
2016年度(2016/8~2017/7)	27.4	17.3



適正な労働時間管理や当社諸制度に関する説明を行う様子

■ 年休の取得率向上に向けて

「計画的な年次有給休暇の取得推奨」「年次有給休暇の半日単位付与」などにより休暇の取得を推進しており、2016年度の年次有給休暇の取得率は80.8%となっています。

■ 柔軟な働き方の実現

本社勤務者等を対象として、「フレックスタイム制度」を導入しています。

また、新宿と調布に「サテライトオフィス」を整備しています。これにより、外出先と本社間の移動に要していた時間を短縮でき、業務の効率化による生産性の向上、育児・介護に携わる社員の勤務時間確保などにつながります。



新宿サテライトオフィス

[社員のキャリア支援]

■ さまざまなキャリア支援制度の整備

自らのキャリアを自身で変革する機会を提供することを目的として、人材公募制度である「キャリアチャレンジ制度」を導入しています。

また、当社では得られない経験・スキルの習得や、自社とは異なる環境に身を置くことによる自律心や忍耐力の体得を目的とし、グループ外の企業に一定期間社員を派遣する「武者修行制度」を導入しています。

その他、非正規社員から正社員への登用制度、有期雇用の非正規社員を無期雇用へと変更する制度を整備しています。

[ダイバーシティ・マネジメントの推進]

■ 女性の活躍

2017年3月末における、グループ会社への出向を含む当社女性社員は207名、管理職は36名となっています。

鉄道事業の現場から海外まで多種多様な事業領域でのジョブローテーションを経験する中で、自ら新たな道を切り拓ける人材が活躍しています。

また、従来男性中心だった職場においても女性が活躍しており、グループ会社社長や、2014年6月からは北村敬子氏が社外監査役として選任され就任しているほか、2016年7月には初の女性現業長が誕生しました。

■ 女性社員の活躍推進に向けた目標設定

2016年4月1日から施行された「女性活躍推進法」に関する取り組みとして、当社は行動計画において、女性の課長級以上の管理職人数を2021年3月までに2016年4月と比較して5割増とする数値目標を設定しました。

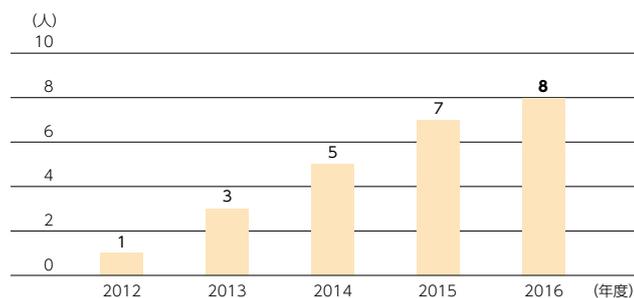
目標達成のために

- ①「ダイバーシティ推進担当」の新設
- ②女性総合職の新卒採用人数を総合職新卒採用人数全体の30%以上とする
- ③仕事と家庭の両立をさらに充実すべく、より働きやすい職場を目指し、諸制度の見直しおよび新設を検討・実施する

■ グループ会社への出向を含む当社女性正社員と女性管理職の推移(休職者を除く)



■ 女性役員数の推移(京王グループ)



■ 管理職における女性人数と比率(当社)

	管理職総数(人)	うち女性(人)	女性比率(%)
2012年度	297	15	5.1
2013年度	295	16	5.4
2014年度	300	12	4.0
2015年度	314	16	5.1
2016年度	328	23	7.0

■ 採用した社員(新卒・総合職)のうち女性の占める割合

2013年度入社	23.5% (17人中4人)
2014年度入社	26.3% (19人中5人)
2015年度入社	15.8% (19人中3人)
2016年度入社	23.8% (21人中5人)
2017年度入社	42.1% (19人中8人)

■ 外国籍の方の採用

京王グループの事業領域拡大を目指し、成長市場である新興国への進出を検討・推進しており、中国・上海におけるカレーレストランの開業、訪日外国人向けの観光案内所の運営などの事業を行っています。海外関連事業の拡大に伴い、外国人の総合職社員を採用しており、現在3名が活躍しています。

VOICE

日本の魅力を世界に
発信していきます



海外戦略部 総括担当

蔡 静

東京の大学院に通っていた際に、大学のキャリア支援センターで京王電鉄の外国人総合職社員募集の情報を知りました。京王グループが海外へ事業領域拡大を推進していく姿勢に興味を持ち入社しました。

現在は、観光案内所の運営や海外旅行博出展、メディア発信等を通して、京王グループのサービスを海外のお客様に紹介する仕事に携わっています。風通しの良い職場で、積極的にアイデアを出し合い新しい企画を立ち上げることができ、日々やりがいを感じています。

今後も、海外のお客様の視点に立ち、京王グループのサービスや日本の魅力を世界に発信していきたいです。



■ 仕事・育児・介護の両立支援

子供を養育し、引き続き勤務する意思のある社員が育児に専念するために、子どもが満1歳に達して以降最初の4月15日まで休職できる制度を設けています。また、育児をしながら勤務する社員に対して、超過勤務を命じないことや、終業時間の短縮などに関する措置(最長で小学校4年まで)についても定めています。

その他、育児・介護が理由で退職した社員を対象とした再入社制度を整備するなど、育児期・介護期について多様な働き方を選ぶことができる環境を用意しています。

鉄道事業の現業職場は、職場によっては泊まり勤務であるという特性を抱えていますが、育児との両立を実現するため、駅係員と乗務員の勤務ダイヤに日勤ダイヤを設定し、出産前と同じ仕事を続けることを可能にしています。

■ 育児休業取得者数・育児休業復帰率

	取得者数(人)	うち男性(人)	復帰率(%)
2012年度	25	0	90.9
2013年度	30	1	100.0
2014年度	33	1	91.7
2015年度	28	4	95.7
2016年度	29	4	100.0

■ 両立支援セミナー

	テーマ	対象者
2015年度	上司によるワークライフバランス実現セミナー ～育児社員の上司としての役割編～	当社管理職 グループ会社 管理職
2016年度	仕事と介護の両立をするために ～介護への備え、介護のポイント～	当社管理職 グループ会社 管理職など

■ 障がい者雇用

2004年に特例子会社「京王シンシアスタッフ」を設立しました。2006年からは、関係会社特例認定を取得し、京王グループ全体の障がい者雇用も拡大しています。2016年度では、当社および関係会社特例認定を取得した京王グループ9社を含めた障がい者雇用率は2.6%(181名)となり、社内施設の清掃業務、名刺作成、事務補助作業などに従事しています。当社では、2016年度から「障害者相談窓口」を設置しています。

■ 障がい者雇用と雇用割合

	障がい者数(人) [※]	実雇用率(%) [※]
2012年度	137	2.1
2013年度	159	2.4
2014年度	163	2.4
2015年度	170	2.5
2016年度	181	2.6

※障がい者雇用促進法に定める計算方法に基づく

■ 高齢者再雇用

高齢者などの雇用の安定などに関する法律の2度の改正に対応して、当社は定年退職した社員を再雇用する「継続雇用制度」を2006年に創設し、2013年に再構築しました。2017年3月現在、継続雇用社員は221名となっています。

■ 継続雇用者総数と再雇用割合

	継続雇用者総数(人)	再雇用割合(%) [※]
2012年度	179	56.1
2013年度	180	60.0
2014年度	191	92.3
2015年度	202	72.6
2016年度	221	86.4

※該当年度における継続雇用者数/定年退職者数

topics

■ ダイバーシティ・マネジメントと推進体制

社員一人ひとりが最大限能力を発揮できるよう、ワークライフバランスを意識した職場環境の整備等の取り組みを推進すべく、2017年6月に「ダイバーシティ推進担当」を人事部に新設し、ダイバーシティ・マネジメントを推進しています。



人事部 ダイバーシティ推進担当

河本 美菜子

私自身、育児をしながら働いていますが、出産前とは働き方が大きく変わりました。しかし、事業所内保育所やフレックスタイム制度を活用し、上司・同僚の理解と協力を得て両立する中で、育児中も働きやすい職場だと実感しています。また、社内には育児と両立している社員も多く、女性が活躍していける会社だと感じています。

ダイバーシティ推進担当では、多様な人材の能力を最大限引き出し、全従業員が生き生きと働くことのできる職場環境の実現を目指しています。自身の経験を活かすとともに、多くの社員の声を取り入れながら、社員一人ひとりにとってより働きやすい環境となるよう取り組んでいきたいです。

〔人権・労働安全衛生〕

■ 人権・労働に対する基本的な考え方

京王グループは、京王グループ行動規範に基づき、人権研修を実施するなど働きやすい職場づくりを目指しています。



人権研修

■ ハラスメント防止

京王グループ各社では、ハラスメント防止のために研修を実施するとともに、相談窓口も設置しています。



セクハラ防止ポスター

■ 労働安全衛生委員会

当社では、「安全・衛生のひろば」を定期的で開催しているほか、安全衛生概況や安全衛生委員会の活動状況などについて社内掲示板を活用し、周知しています。



安全・衛生のひろば

■ 衛生講演会を開催

当社では、定期的に衛生講演会を開催し、診療所の産業医および医療スタッフが、健康に関する講演を行っています。

■ メンタルヘルスケア

当社では1997年から社員のメンタルヘルス調査を実施していますが、2016年からは法令に基づきストレスチェック制度を導入しました。

社員本人へは自分のストレス状態を通知し、職場長には組織についての現状分析を報告しています。また、高ストレスと判断された社員に対しては産業医との面談を促し、専門医による相談窓口も設置しています。このほかにも産業医によるセミナーの開催など、自分自身による気づきと対処、職場における支援に役立つよう、保健師や精神科医とともにメンタルヘルスケアを進めます。



医師による面談

topics

■ 「健康経営優良法人2017」に認定

長時間労働抑制や職場環境向上のための諸施策を実施したことなどにより、当社は経済産業省から「健康経営優良法人」(ホワイト500)の認定を受けました。





株主・投資家・取引先等への取り組み

[株主・投資家の皆様との対話]

■ ディスクロージャー・ポリシーに基づいた 適時適切な情報開示

株主・投資家の皆様への情報開示を行うにあたっての基本的な考え方として、2006年4月に「ディスクロージャー・ポリシー」を制定し、本ポリシーに掲げる内容の実現を図るため、ディスクロージャー委員会を設置しました。ディスクロージャー委員会は、四半期ごとの業績開示にあわせて開催し、決算資料の内容確認を行っています。

情報開示の具体例としては四半期ごとの業績開示をはじめ、年2回の決算説明会の開催、インベスターズガイド「けいおう」などの発行を通じて、財務や株式、営業の概況に関する情報を積極的に開示しています。これらの開示資料やニュースリリースなどについては、ホームページ上でも公表するなど、個人投資家の皆様にも分かりやすい情報開示に努めています。

京王グループ・ディスクロージャー・ポリシー
www.keio.co.jp/company/stockholder/disclosure/

■ 施設見学会

当社および京王グループへの理解を深めていただくため、施設見学会を開催しています。

● 個人株主向け

2016年8月に、「高尾山口駅と周辺施設」および「鉄道教習所・京王資料館」の見学会を開催しました。



高尾山口駅の見学



鉄道教習所
(車掌体験)

● 証券アナリスト向け

実際の物件を見学することで事業内容の理解を深めていただくことを目的に、2017年8月、商業施設「トリエ京王調布」の見学会を開催しました。

[取引先等との関係]

京王電鉄行動基準において、一般的なビジネス慣習に則り、公正な取引関係を築くことに努め、相互に利益を享受できる関係をつくるよう定めています。

今後の取り組み ～多摩動物公園エリアの魅力向上～

京王の電車・バス開業100周年を記念して2013年に開業した京王れーランドに続き、2018年春に新たなお子様向けの全天候型の遊戯施設を開業します。この施設は、木のおもちゃなどに触れ合うことで木材や環境への理解を深める「木育」、体を使って楽しむ「体育」、自分で考えてさまざまなものを作り出し学ぶ「知育」の三要素が楽しめる、国内では大型の施設です。「体育」

エリアには大型ネット遊具、2階には、テラス席を併設したレストランや、屋内の常設としては珍しいミニ機関車を設置するなど、親子でお楽しみいただけます。そのほか、地域に根差した取り組みとして、内装材の一部には多摩産の木材を使用します。このエリアが子育てファミリーを中心にさらにお楽しみいただけるエリアとなるよう、魅力向上・活性化を図ります。



木育イメージ



体育イメージ



知育イメージ

メッセージ



常務取締役
(環境管理責任者)

伊藤 俊司

環境にやさしい企業集団を目指し、 多角的に環境活動に取り組んでいきます

京王グループは、「京王グループ環境基本方針」「生物多様性行動指針」に基づき、環境にやさしい企業集団を目指しています。環境マネジメントシステムも運用を開始して13年目を迎え、設定した環境目標を全ての職場で達成するためのPDCAサイクルを着実に回しています。

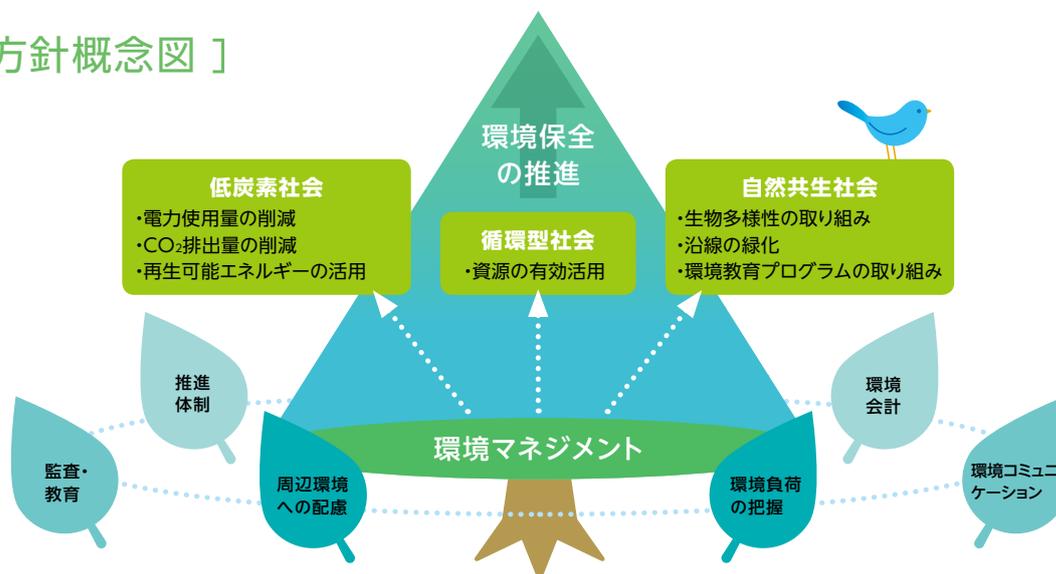
鉄道事業部門において、車両走行時の電力使用量を大幅に削減するVVVFインバータ制御装置を大手私鉄で初めて全営業車両に導入していますが、2015年からはより省エネルギー性能の高い新型VVVFインバータ制御装置への切り替えを進めています。また、2017年9月から運行を開始した新型車両5000系においては、新型VVVFインバータ制御装置やLED照明に加え、当社初となる車上蓄電池システムを導入し、車両の省エネルギー化を推進しています。

また、開発事業部門においては、東京都が定める基準値を上回るCO₂排出量の削減を図ったほか、高尾山や多摩川をはじめとする沿線自然環境の保全に努めてきました。

こうした取り組みが評価され、日本経済新聞社が毎年実施している「環境経営度調査」において、運輸業で昨年より順位をひとつあげ2位、鉄道業界では昨年に続き1位を獲得しました。

今後については、法令等の社会的変化を注視しながら、中期環境目標で掲げた運転原単位(1車両が1km進む際に使用する電力量)の削減や保有する大規模物件における東京都のCO₂排出量削減義務について、引き続き達成を目指すとともに、環境保全・教育活動を継続実施することなどにより、グループ環境経営を推進し、低炭素社会、循環型社会、自然共生社会の実現を目指していきます。

[環境方針概念図]





環境方針

[基本的な考え方]

当社では、2000年11月に環境基本方針を制定し、環境法令遵守をはじめ、各事業の特性に応じた省エネルギー化や廃棄物削減、資源リサイクル、環境教育の実施などを積極的に推進してきました。その後、環境保全是京王グループ共通の課題であると

の認識から、2004年12月に「京王グループ環境基本方針」を制定しました。グループ社員一人ひとりが環境方針の内容、なかでも自分の業務に関わりがある項目について十分理解し、仕事に生かしていけるよう、環境マネジメントシステム (EMS) の継続的運用を通じて浸透を図っています。

京王グループ環境基本方針	生物多様性行動指針
<p>私たちは、「環境にやさしく」というグループ理念に基づき、環境問題を地球規模で考え、持続的発展が可能な社会の実現を目指して、環境保身に配慮した事業活動を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球温暖化防止のため、エネルギーの効率利用に努めます。 2. 循環型社会実現のため、廃棄物の削減、リサイクルおよび適正処理を図るとともに汚染の予防に努めます。 3. 環境に関する法令、条例、協定などを遵守します。 4. 地域社会との調和を目指し、騒音、振動の抑制ならびに緑化活動の推進に努めます。 5. より良い環境の実現に向けて、地域や社会の環境保全活動に積極的に参加します。 6. 従業員一人ひとりの環境意識向上を図るため、啓蒙・教育活動を実施します。 7. これらの環境保全活動を推進するため、鉄道をはじめとするすべてのグループ会社の事業活動において環境マネジメントシステムを構築し、継続的改善に取り組みます。 <p style="text-align: right;">2004年12月9日制定</p>	<p>私たちは、生活に身近な事業を展開していくなかで、自然の恩恵を継続的に享受していることを認識し、持続可能な利用や自然と共生する社会の実現に向け、生物多様性に配慮した事業活動を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事業活動がおよぼす環境への影響把握 事業活動と生物多様性とのかかわり(恵みと影響)を把握するように努め、取り組みの必要性に対する認識を高めます。 2. 自然環境の確保と保全 事業活動における自然環境への影響の回避または低減に取り組むとともに、緑化を推進し、地域の豊かな自然環境の確保と保全に努めます。 3. 資源循環の推進 資源の利用が生物多様性におよぼす影響を低減するために、グリーン購入など環境に配慮した調達や3R活動(リデュース・リユース・リサイクル)を推進し、環境負荷低減に努めます。 4. ステークホルダーと連携した生物多様性の保全 従業員をはじめ、取引先企業、お客様など多くのステークホルダーと連携し、情報の発信と収集を行いながら生物多様性の保全に努めます。 <p style="text-align: right;">2010年9月8日制定</p>

[中期環境目標]

鉄道事業部門	開発事業部門
<p>電車の運転用電力を2020年度に10%削減(2012年度比)</p> <p>省エネルギー化を図るため、新型VVVFインバータ制御装置の導入を進めていくほか、車内照明のLED化を順次実施していきます。</p> <p>これらの環境施策に継続して取り組むことで、2020年度における運転原単位(1車両が1km進む際に使用する電力量)を2012年度比で10%削減することを目指します。</p>	<p>東京都のCO₂排出量削減義務(17%)の達成</p> <p>第1計画期間に引き続き、第2計画期間(2015年度～2019年度の5カ年)では、照明のLED化等の省エネルギー施策の推進を図るだけでなく、各種クレジット制度の活用や運用方法の改善を図り、部門一体となって目標達成を目指します。</p>

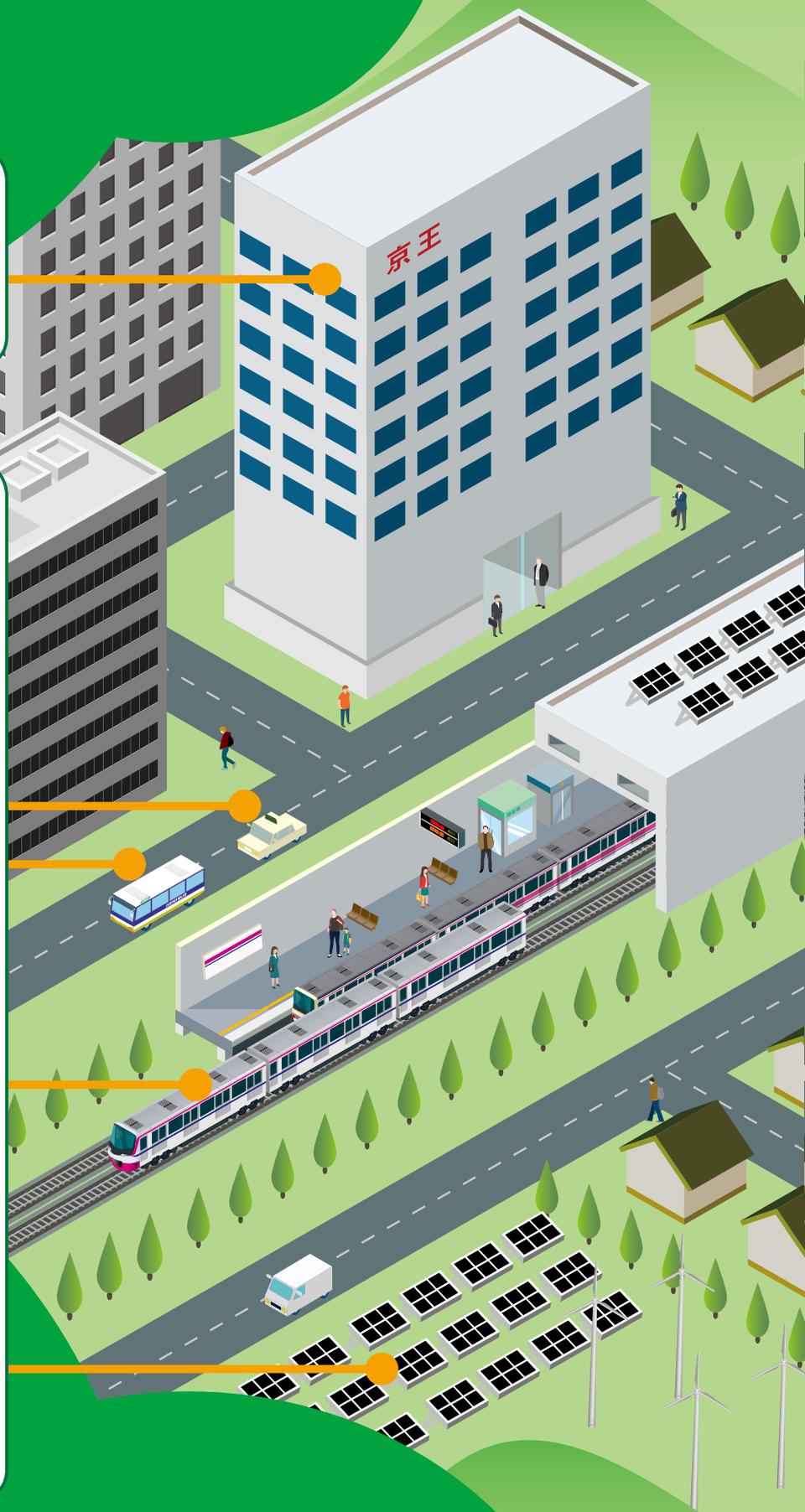
環境保全の推進

● 環境マネジメント P.68

- 推進体制
- 監査・教育・コミュニケーション
- 中期目標の進捗状況

● 低炭素社会を目指して P.70

- 鉄道における電力・CO₂排出量削減の取り組み
- グループによる電力・CO₂排出量削減の取り組み
- 再生可能エネルギーの活用



● 環境関連データ P.78

- 環境負荷の把握
- 環境会計

● 自然共生社会を目指して P.76

- 生物多様性の取り組み



● 循環型社会を目指して P.74

- 資源の有効活用



環境マネジメント

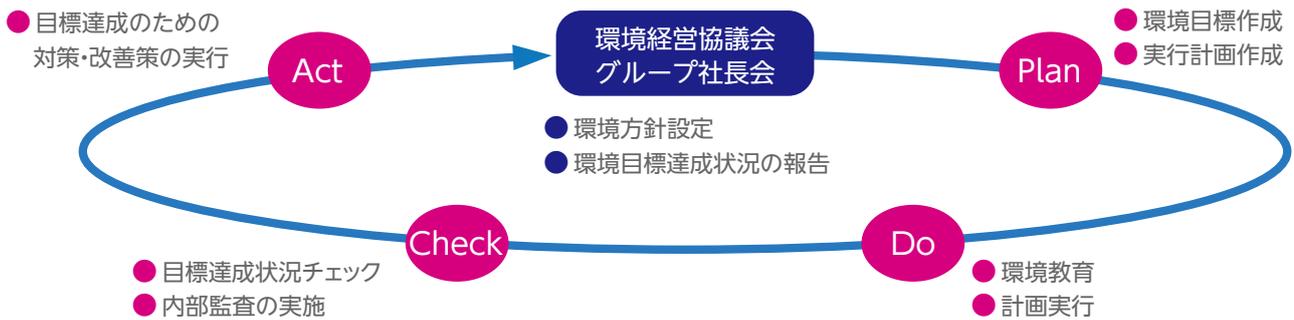
[推進体制]

当社では、本社をはじめ鉄道現業を含めたすべての職場において、国際標準規格ISO14001を参考に独自のEMSを構築・推進し、その活動は環境経営協議会にて経営層へ報告・承認を受けています。また、京王グループ社長会を通じてグループ各社に環

境マネジメントを徹底しています。

2017年度も引き続き、低炭素社会・循環型社会・自然共生社会の実現に向けたレベルアップに努めています。グループ会社では、ISO14001を3社、グリーン経営認証を6社、エコアクション21を1社で取得しています。そのほかの各社は、ISO14001またはエコアクション21を参考にEMSに取り組んでいます。

■ 京王グループEMS推進体制



■ 京王グループ各社の第三者認証取得状況

分類	会社名
ISO14001	認証取得(3社) ● 京王設備サービス ● 京王建設 ● 京王エージェンシー
グリーン経営認証	認証取得(6社) ● 京王電鉄バス ● 京王バス東 ● 京王バス中央 ● 京王バス南 ● 京王バス小金井 ● 京王運輸
エコアクション21	認証取得(1社) ● 東京特殊車体



[監査・教育・コミュニケーション]

■ EMS内部監査

当社はEMSの有効性と社員の自覚を確認するため、毎年各部管理職1名以上のEMS監査員を選出し、新任監査員は有限責任監査法人トーマツによる専門教育を受けた後、部署間相互による内部監査を実施しています。

■ 環境教育

環境意識やEMS理解度の向上など必要性を明確にした上で、体験を重視した環境教育を実施しています。

■ 主な教育実績(2016年度)

名称	時期	対象	人数
京王グリーンキャンペーン	5月	グループ社員、一般	895名
EMS監査員養成研修	12月	新任監査員	3名
環境eラーニング	1月	京王電鉄社員	1,453名
親子でたのしく学ぶ電車のしくみ教室	3月	一般	83名

■ CSR・環境コミュニケーション

京王グループの活動に関する情報は、以下の媒体で公表しています。



ポスター



京王ニュース



IR誌



京王HP

[中期目標の進捗状況]

■ 電車の運転用電力を2020年度に10%削減(2012年度比)

省エネルギー化を図るため、新型VVVFインバータ制御装置の導入を進めていくほか、車内照明のLED化を順次実施していきます。これらの環境施策に継続して取り組むことで、2020年度における運転原単位(1車両が1km進む際に使用する電力量)を2012年度比で10%削減することを目指します。2016年度は2012年度比約4%削減という結果になりました。

■ 電車の運転用電力削減推移

(2012年度の運転原単位を100とした場合)

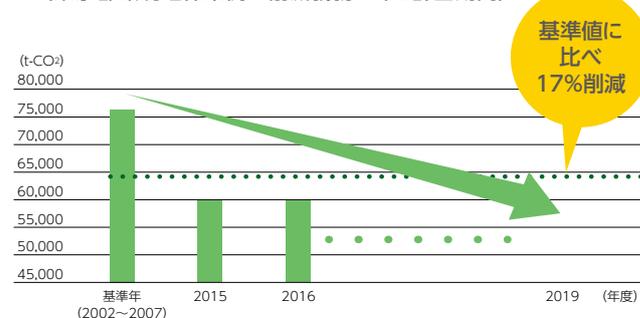


※車両の走行に関する性能(理論値)に限定して原単位を算出しています。

■ 東京都のCO₂排出量削減義務(17%)の達成

第1計画期間に引き続き、第2計画期間(2015年度~2019年度の5カ年)では、照明のLED化等の省エネルギー施策の推進を図るだけでなく、削減余地の少ないキラリナ京王吉祥寺も含めて各種クレジット制度の活用や運用方法の改善を図り、部門一体となって目標達成を目指します。2016年度のCO₂排出量は59,825t-CO₂となり、排出基準量の約22%の削減となりました。

■ 大規模ビル9物件のCO₂排出量削減実績と目標(東京都環境確保条例の削減義務 第2計画期間)



※京王プラザホテル(新宿)、京王プラザホテル八王子、京王プラザホテル多摩、京王品川ビル、京王八王子明神町ビル、京王百貨店新宿ビル、京王聖蹟桜ヶ丘ショッピングセンター、京王八王子ショッピングセンター、2017年度からキラリナ京王吉祥寺を追加

※「基準値」とは、2002年度~2007年度のうち任意の連続した3カ年におけるCO₂排出量の平均値をいいます。

低炭素社会を目指して

鉄道における電力・CO₂排出量削減の取り組み

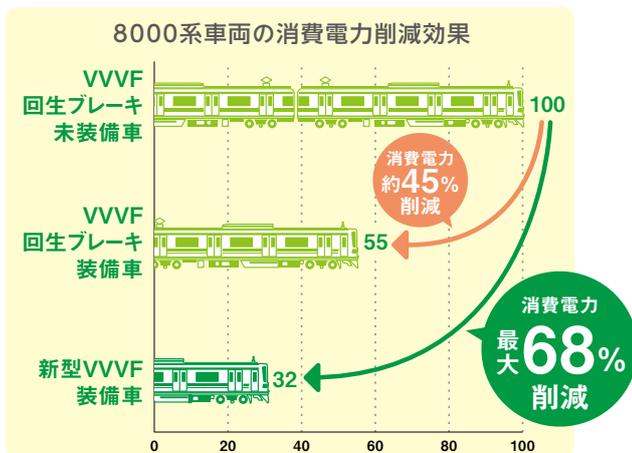
当社グループの中核事業である鉄道事業では、1年を通じて多くの電力を消費することから、少ないエネルギーで効率的に動くことができる「環境にやさしい鉄道」を目指しています。

走行用電力の削減

● VVVFインバータ制御装置

VVVFインバータ制御装置とは、電車の加速力や速度などに応じて電圧や周波数を変化させながらモーターを効率良く動かす装置です。1992年以降に導入を開始し、2012年に大手民鉄で初めて全営業車両への装備を完了しました。

2015年からさらに消費電力削減効果に優れた新型VVVFインバータ制御装置の本格導入を開始しています。2016年度には、8000系3編成、1000系3編成に導入しました。



(注) 横軸は未装備車の使用電力量を100とした場合の数値

topics

第三者からの評価

2015年には、車両の省エネルギー化や回生電力の有効活用など、環境保全に関する活動に積極的に取り組んだ点が評価され、国土交通大臣表彰「平成27年交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰」を受賞しました。



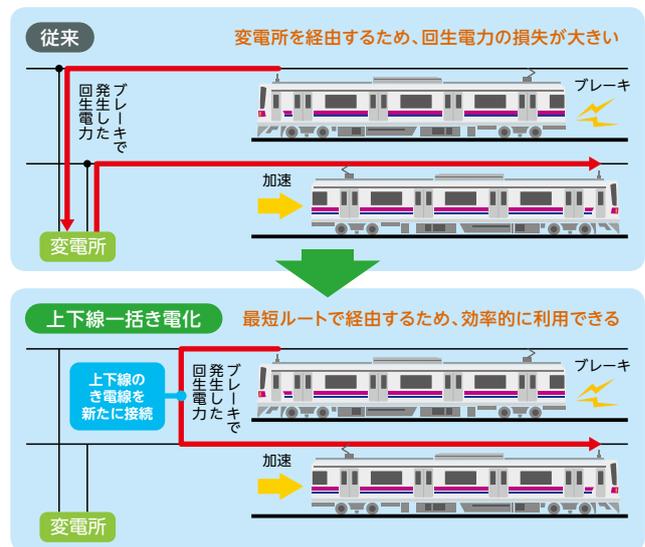
走行用電力を再利用する

● 回生ブレーキ

回生ブレーキとは、電車がブレーキをかけた際にモーターを発電機として作動させ、発生した電力（回生電力）を架線に戻すことで他の電車が使えるようにする装置です。1999年に全車両への装備が完了しています。

● 上下線一括き電化

電車に電気を供給する、上り線と下り線のき電線を接続することで、他の電車に回生電力を最短ルートで送り、送電の損失低減を図る設備です。2012年に井の頭線で整備しました。



再利用した電力を蓄える

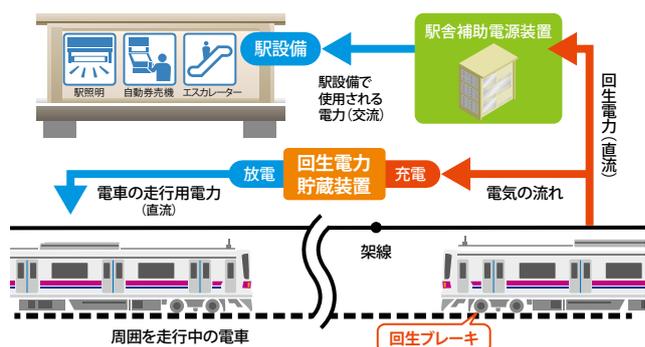
● 回生電力貯蔵装置

回生電力を蓄え、電車が走行する際の電力として供給する装置です。2015年に京王堀之内変電所に導入しました。

再利用した電力を駅で活用

● 駅舎補助電源装置

回生電力を駅設備で使用される電力に変換して、駅の照明や空調、エスカレーターなどに供給する装置です。2015年に東府中駅、2016年に高幡不動駅、2017年に北野駅に導入しました。





topics

■ 車両の省エネルギー化の推進

2018年春に運行開始を予定している座席指定列車にあわせて導入する新型車両「5000系」では、さらなる省エネルギー化を図るため、新型VVVFインバータ制御装置やLED照明のほか、車上蓄電池システムを導入しています。

→P. 8～P. 9 特集 座席指定列車の導入
新型車両「5000系」デビュー参照



新型車両「5000系」

■ LED照明導入

● 駅などのLED化

駅舎・ホームや車両基地に、従来の照明設備に比べて大幅に消費電力を削減できるLED照明の導入を進めています。

また、柴崎駅～西調布駅間と調布駅～京王多摩川駅間の地下化にあわせて、トンネル内の照明設備にもLEDを用いています。



駅構内のLED照明

● 車両のLED化

車両の客室内照明を蛍光灯からLEDに順次置き換えを進めています。これにより、明るさは変わらず消費電力が従来に比べ約2分の1になる他、長寿命のため交換サイクルが長くなることから廃棄物の削減にもつながります。



車両のLED照明

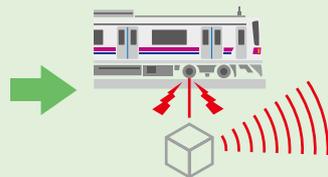
topics

■ 電車の走行音の低減

車輪の振動を自動的に検出するセンサーを京王線・井の頭線に各1カ所設置し、騒音・振動を早期に発見・改善しています。



雨天時などのブレーキ中に車輪がロックしてレール上を滑ると平らな部分(フラット)ができ、騒音・振動のもとになります。



自動検知センサー

車両基地でデータ処理



フラットによって生じる車輪の振動を自動的にセンサーで検知し、すぐに車両基地へデータが転送されます。



車輪の削正

車両基地で車輪の削正や交換を行いフラットをなくし、騒音・振動・乗り心地を改善します。

グループによる電力・CO₂排出量削減の取り組み

■ 電気バス・ハイブリッドバス

西東京バスでは、羽村市から運行を受託しているコミュニティバス「はむらん」において、定期路線バスでは日本初となる小型電気バスによる運行を2012年3月から開始しています。

また、京王電鉄バスグループ・西東京バスでは、2012年から最も負荷のかかる発進時はモーター動力のみで駆動して燃費を抑え、減速時は高性能リチウムイオンバッテリーがエネルギーを効率よく回収するシステムを採用したハイブリッドバスを16両導入しています。



ハイブリッドバス

■ ハイブリッドタクシー・アイドリングストップ車

京王自動車グループでは、タクシーにハイブリッド車やアイドリングストップ車を導入し、エネルギーの効率利用に取り組んでいます。



ハイブリッドタクシー

■ キラリナ京王吉祥寺

建物の壁面と屋上を緑化しており、屋上は憩いの場としてもご利用いただけます。また、壁面の緑化への灌水(かんすい)については、井戸水を使用することで、貴重な水資源を守っています。

そのほか、館内の照明にLEDを採用することで、年間を通した使用電力削減に取り組んでいるほか、氷蓄熱システムを導入し、電力需要の下がる夜間電力を利用して氷を作り、日中の冷房に利用することで、夏場のピーク時における省エネルギー化を図っています。



キラリナ京王吉祥寺

■ メルクマール京王笹塚

京王重機整備が2015年3月に笹塚駅隣接地に建設した「メルクマール京王笹塚」は、敷地内に地域交流の場として活用できる広場を設けているほか、屋上・テラスの緑化など笹塚のシンボルである玉川上水から敷地内へと続く緑のネットワークを作っています。

緑化のほかにも、水平庇と高遮熱断熱ガラスなどを取り入れ、ヒートアイランド現象軽減などを図っています。



メルクマール京王笹塚



LED照明導入

当社およびグループ各社では、ショッピングセンター・オフィス・ホテルなどの施設において、LED照明を積極的に導入しています。



京王プレッソイン東京駅八重洲客室



京王プラザホテル本館宴会玄関庇

[再生可能エネルギーの活用]

京王グループでは、再生可能エネルギーの活用積極的に取り組んでいます。

太陽光発電

- | | |
|-------------------------|-----------------------------|
| 1 メルクマール京王笹塚 | 9 高幡不動産現業事務所
(乗務区・施設管理所) |
| 2 明大前駅 | 10 高幡不動産車両基地 |
| 3 永福町駅 | 11 京王れーるランド |
| 4 桜上水総合事業所 | 12 高尾の森
わくわくビレッジ |
| 5 芦花公園駅 | 13 相模原市(緑区三井、緑区中野) |
| 6 若葉台駅 | |
| 7 京王聖蹟桜ヶ丘
ショッピングセンター | |
| 8 京王電鉄バス
桜ヶ丘営業所 | |

■ 太陽光発電の合計発電能力の推移



風力発電

- F1 メルクマール京王笹塚
- F2 高尾の森わくわくビレッジ



循環型社会を目指して

【資源の有効活用】

■車両洗車時の節水

若葉台工場では、車両や部品の洗浄などに用いる水の使用量を削減するため、「処理水再利用装置」を導入しています。

この装置で、使用済みの水の汚れを取り除くほか、工場内の湧水を活用し、洗浄水などに再利用しています。現在、洗浄に用いる水の半分以上はこの装置により処理されたものです。

また、若葉台車両基地と高幡不動産車両基地では、車両洗浄に使用する水を従来と比べて約50%削減できる車両洗浄装置を導入しています。



節水型車両洗浄装置

■リサイクル

●きっぷ

1999年から、各駅で回収された使用済みきっぷをリサイクルし、全駅のトイレ用ペーパーとして使用しています。

●ペットボトル

2002年から、駅売店などで回収された飲料用ペットボトルをリサイクルし、駅の案内板として使用しています。

■間伐材を使用したベンチ

2016年から、一部の駅に木の温かみを感じられる木製ベンチを設置しています。素材には、多摩地域で発生した間伐材を使用しています。



■廃食油のリサイクル(京王グループ6社)

京王グループ6社*は、レストランの調理場などから排出した廃食油を、石けんにリサイクルしています。2016年度は75事業場から約216tの廃食油を回収、有効利用しました。

※ 京王電鉄、京王百貨店、京王プラザホテル、京王レクリエーション、レストラン京王、京王食品



■緑化廃棄物処理

京王レクリエーションでは外部会社と協力し、桜ヶ丘カントリークラブのコースで発生した緑化廃棄物(折れ枝・落葉など)を、パルプチップやバイオマスチップにリサイクルすることで堆肥や燃料として有効利用する取り組みを行っています。



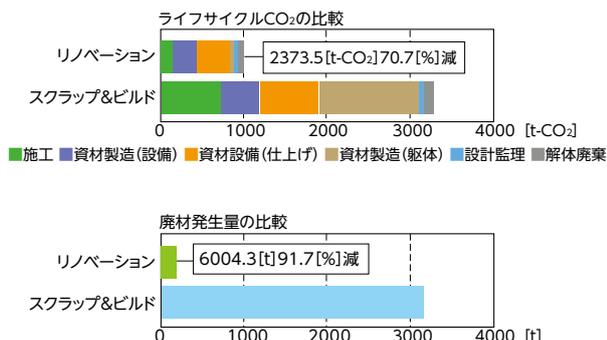


■ エコバッグ・レジ袋削減

京王百貨店では、エコバッグを販売してお客様にマイバッグご持参の呼びかけを行っています。なお、収益は日本山岳会「高尾の森づくりの会」に寄付しています。また、京王ストアでは、レジ袋をご辞退いただくと、2円引きのサービスを行っています。（一部店舗およびコンビニ・売店は除く）

■ 環境負荷を低減した「リノベーション事業」を展開

既存の建築物をリニューアル・再生し、魅力ある住宅を供給するリノベーション事業は、限られた資源を有効に使いCO₂排出量を削減する、地球環境にやさしい手法です。リビタが手がけた「リノア多摩川CORTE」では、省エネルギー改修を行うことで、ライフサイクルCO₂*1を約70%削減したほか、廃材発生量*2を約91%削減することができました。



※1 ライフサイクルCO₂とは、建物の建設から運用、解体までのライフサイクルを通じて排出される二酸化炭素(CO₂)の量を指します。

※2 廃材発生量とは、建物を解体した場合に発生する材料を指します。建物が与える地球温暖化への影響を評価する指標です。

VOICE

リノベーション事業で
新しい住まいの選択肢
を提供します



株式会社リビタ 一棟事業本部長

三浦 隆博

一棟まるごとリノベーションとは、企業の社宅や賃貸マンションなど既存の共同住宅を一棟まるごと買い取り、その共用部、専有部ともにまるごとリノベーションし、価値を高めエンドユーザーに区分分譲する事業です。まだまだ使えるものを壊して新築するのではなく、一部屋だけをリノベーションするのでもなく、価値ある建物を一棟まるごと生まれ変わらせお客様に届けるため、建物を入念に調査・診断し、大規模修繕に加え建物全体のバリューアップを図っています。新築でも中古でもない、新しい住まいの選択肢として多くのお客様から評価いただいています。“価値ある住まいを100年先へ”という事業コンセプトのもとに、お客様のライフスタイルにあわせた豊かな暮らしの実現を提案し続けていきます。

■ ECOステイ

京王プレッソインでは、環境保護の一環として「ECOステイ」を推奨しています。「ECOステイ」は連泊のお客様を対象に、申し出いただくと、シャツやパジャマを交換せずに清掃を行い、クリーニングの回数を減らして水資源保護・CO₂排出削減を図るものです。また、ご協力いただいたお客様には、ミネラルウォーターなどをプレゼントしています。



京王プレッソイン東京駅八重洲



topics

■ リビタの一棟まるごとリノベーション分譲マンションがグッドデザイン賞受賞

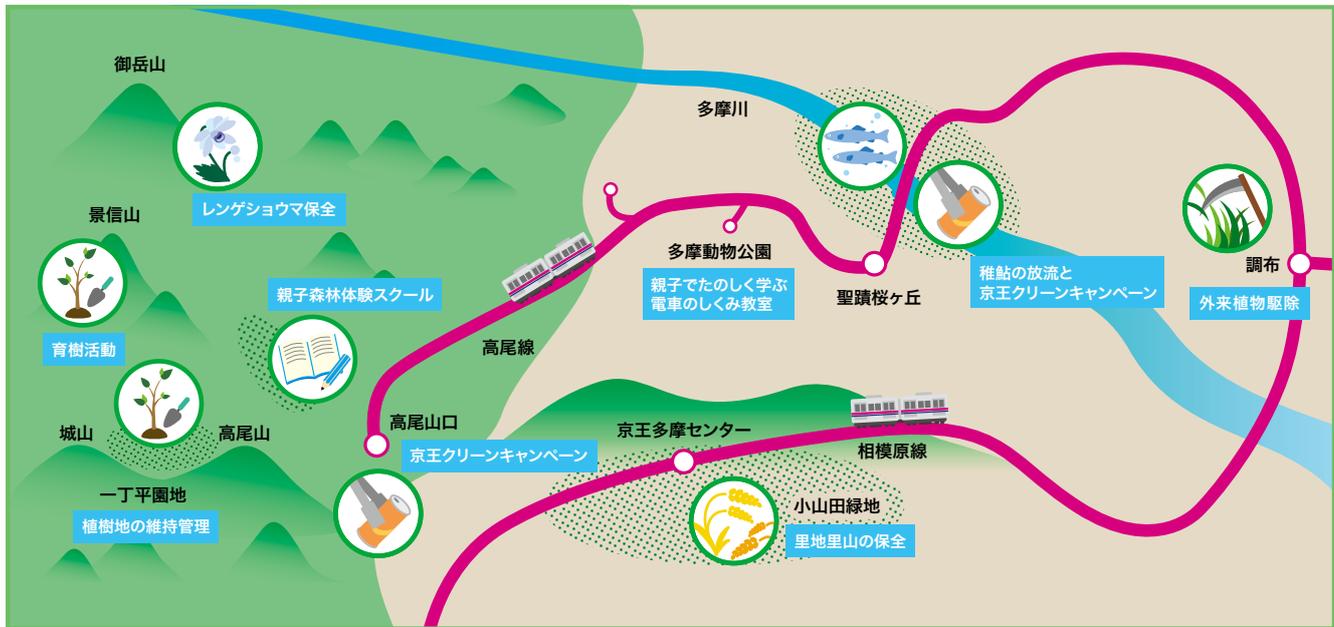
リビタは、一棟まるごとリノベーション分譲マンション「リノア三鷹」にて、「2016年度グッドデザイン賞」を受賞いたしました。リビタの受賞は7年連続となります。



リノア三鷹

自然共生社会を目指して

〔生物多様性の取り組み〕



■ 京王クリーンキャンペーン

1991年から沿線地域の環境保全を目的に、毎年高尾山や多摩川の清掃活動を行っています。2017年5月には、高尾山で清掃活動とゴミ持ち帰りの啓発活動を行い、一般のお客様と京王グループ社員合わせて1,003名が参加しました。



高尾山口駅でのゴミ持ち帰りの啓発活動

■ 森林再生への取り組み

2002年から、日本山岳会「高尾の森づくりの会」が裏高尾(小下沢国有林)で行う森林再生活動を支援しています。2015年までに累計約17,000本の苗木の提供を行うとともに、下草刈りをはじめとした育樹活動を行っています。2014年度からは、高尾山への愛着、環境意識の醸成を目的として、新入社員研修にも組み込まれています。



育樹祭

■ 外来植物駆除

多摩川にはさまざまな外来植物が生育しており、在来植物の生育を抑圧するなどの悪影響を及ぼすとされています。そこで、2016年から、生物多様性保全協会主催・調布市共催で実施されている「多摩川の外来植物駆除」に参加し、河川敷で駆除活動を行っています。



河川敷での外来植物駆除活動

■ 高尾の森 親子森林体験スクール

日本山岳会「高尾の森づくりの会」と協力し「高尾の森 親子森林体験スクール」を開催しています。小学校4年生から高校生のお子様と保護者の方に、植樹や下草刈り作業の体験、植物や水生生物の観察など自然との触れ合いを通じて、森の大切さを学んでいただいています。



水生生物の観察



■ 線路脇の緑化

1991年から、線路脇の雑草には除草剤を使わず、人の手による草刈りを行っています。また、降雨による法面の崩壊を防ぐとともに、お客様に沿線風景を楽しんでいただくことを目的として、線路脇へアジサイ・ツツジ・サザンカなどを植栽し、緑化を行っています。



線路脇の緑化

多摩動物公園駅にある動物の植栽



■ ツバメのフン受け板の設置

2014年から、認定特定非営利活動法人バードリサーチ協力のもと、ツバメが巣作りをする春から初夏にかけて、駅の設置可能な箇所に、ツバメのフン受け板を設置しています。ツバメのフンがお客様や施設の床に落下し、ご迷惑をおかけしないこと、またツバメの生息環境にも配慮した生物多様性施策の一環です。



ツバメのフン受け板

VOICE

ツバメを見られる
地域の保身を
願っています



認定特定非営利活動法人バードリサーチ 研究員

神山 和夫 様

ツバメは天敵のカラスなどが近づかないよう人通りが多い建物に巣を作る習性があるため、駅でヒナを育てる姿は昔からなじみの光景でした。しかし近年は都市の自然が少なくなったために、ツバメの数も減ってきています。駅をツバメの巣場所として使わせてあげること、餌場になる緑地の保身は、ツバメを守ることの両輪です。京王沿線がいつまでもツバメの見られる地域であるよう願っています。

■ 屋上庭園「ふくにわ」

2011年3月に開業した「京王リトナード永福町」に併設する屋上庭園「ふくにわ」は、屋上緑化によるエネルギー使用量削減を目指すとともに、地域の方の憩いの場としてご利用いただける「みどりあふれるコミュニティー庭園」です。地域の公園機能を代替する場所であること、地域のコミュニティー庭園として利用されていること、線路脇を含めた井の頭線というエリアで緑化を展開していることなどが評価され、都市緑化機構主催の2015年度SEGES（社会・環境貢献緑地評価システム）認定緑地に選ばれました。



屋上庭園「ふくにわ」

■ レンゲショウマ保全

御岳登山鉄道は、御岳山に群生し絶滅危惧種に指定されている山野草「レンゲショウマ」の保全活動として、みたけ山観光協会などと協力し、群生地での下草刈りや希少植物保護柵の管理を行っています。



下草刈り作業



レンゲショウマ

■ 京王アカデミープログラム

「親子でたのしく学ぶ電車のしくみ」教室

電車の仕組みについて、環境に配慮した取り組みも織り交ぜながら、実験やクイズ等を用いて楽しく学んでもらうことで、電車や京王の環境対策について理解を深めてもらうプログラムを実施しました。



白熱電球とLEDの消費電力の差を体験できる発電実験

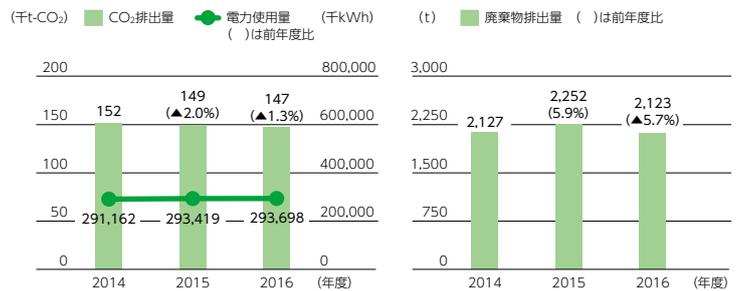
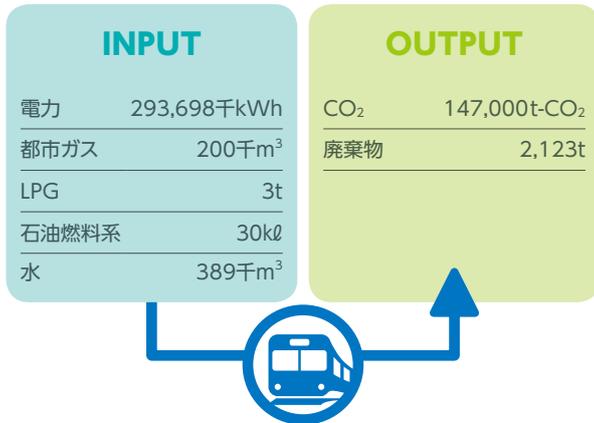
環境関連データ

[環境負荷の把握]

当社には「鉄道事業部門」、土地・建物の賃貸・販売を行う「開発事業部門」、会社全般の管理業務を行う「一般管理部門」があります。それぞれの事業特性に応じて、資源の使用(インプット)とCO₂・廃棄物の排出(アウトプット)を定量的に把握し、企業活動に役立てています。

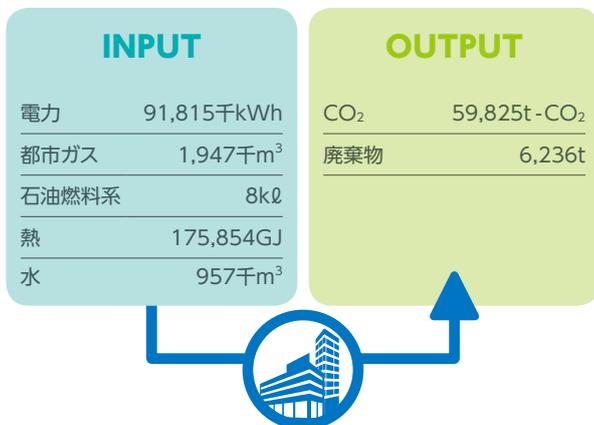
■ 2016年度の環境負荷レビュー

鉄道事業部門



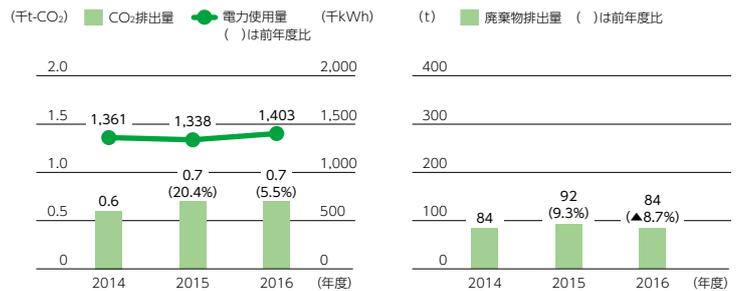
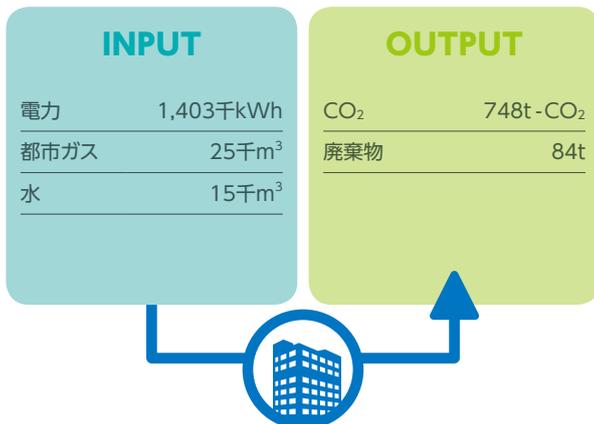
集計対象は、電車の運行、駅および現業事務所です。前年度に比べ、電力使用量は微増だったものの、電力用係数や他のエネルギー使用量の減少により、CO₂排出量は1.3%減少しました。廃棄物排出量は5.7%の減少となりました。

開発事業部門



集計対象は、東京都環境確保条例に基づく大規模8事業所です。前年度に比べ、電力使用量は減少しましたが、他のエネルギー使用量の増加により、CO₂排出量は前年度と同量でした。廃棄物排出量は2.6%の減少となりました。

一般管理部門



集計対象は、本社ビルおよび福利厚生施設です。前年度に比べ、電力使用量の増加により、CO₂排出量は5.5%増加しました。廃棄物排出量は8.7%の減少となりました。



[環境会計]

環境保全に向けて、2016年度は約62億円の環境投資・費用を行使しました。

当社は、環境負荷の低減に向けて、列車の騒音振動防止や、駅施設やオフィスビル・店舗などへの高効率照明をはじめとした環境配慮設備の導入による省エネルギー化、廃棄物の分別・リサイクルなどのレベルアップに向けて、環境投資を継続しています。

2016年度は、京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業の進捗により投資額が増加したほか、新型VVVFインバータ制御装置の継続的な導入などにより、全体で前年度比12.0%の増加となりました。

■ 2016年度の環境保全コスト(投資・費用額)

(単位:百万円)

内容	主な取り組み	具体的な内容	投資	費用
(1) 事業エリア内コスト			3,888	2,199
① 公害防止コスト	●騒音振動防止 ●大気汚染防止 ●水質汚濁防止	◎連続立体交差化 ◎道床更換 ◎草刈り ◎低VOC塗料 ◎浄化槽点検・清掃	2,608	792
② 地球環境保全コスト	●省エネルギー化 ●モーダルシフト ●オゾン層破壊防止	◎新型VVVFインバータ制御装置導入 ◎照明LED化 ◎エレベーター新設 ◎ノンフロン空調機更新	939	212
③ 資源循環コスト	●廃棄物減量 ●廃棄物処理・処分 ●廃棄物リサイクル	◎PASMO*関連費用 ◎駅清掃費 ◎車両清掃費 ◎車両座席シート交換 ◎間伐材を使用したベンチ導入	341	1,195
(2) 管理活動コスト	●景観保持 ●自然保護・緑化 ●教育・啓発	◎植栽管理 ◎環境報告書制作 ◎環境啓発ポスター制作	0	121
(3) 社会活動コスト	●自然保護・緑化 ●環境保全の寄付 ●社会的取り組み	◎京王クリーンキャンペーン ◎植樹地保全 ◎親子森林体験スクール ◎環境を学ぶ親子向けプログラム	0	4
合計			3,888	2,324
コスト総計			6,212	

[対象期間]

2016年4月1日～2017年3月31日

[対象範囲]

当社の鉄道事業部門、開発事業部門、一般管理部門で発生した環境保全コストを対象としています。

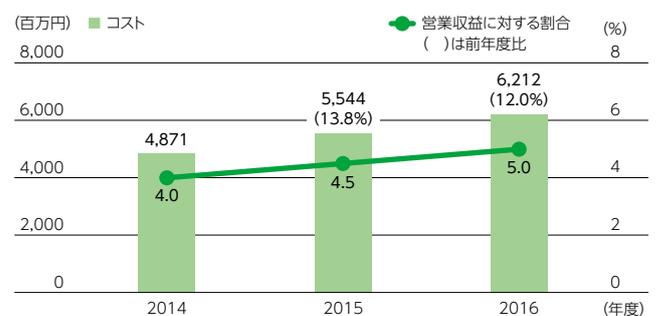
(京王グループ各社で発生したコストは含んでいません)

[算定基準]

- 「環境省環境会計ガイドライン(2005年版)」および「民鉄事業環境会計ガイドライン(2008年版)」を参考に集計しています。
- 環境保全コストとして確実に把握したもののみ計上しています。
- 減価償却費は計上していません。

*PASMOは、株式会社パスモの登録商標です。

■ 環境保全コストの推移



京王グループでは、CSR活動をより深化させていくために、「企業統治」「安全」「社会」「環境」における重要テーマに取り組んでいます。それぞれ中期目標とアクションプランを立てて推進しています。

CSR項目	重要テーマ	中期目標
企業統治	コーポレート・ガバナンス	コーポレート・ガバナンス、内部統制システムの充実・強化の推進
	コンプライアンス	コンプライアンス意識浸透策の実施、法改正等への対応
	リスクマネジメント・情報セキュリティ	グループ共通リスク対策重点項目等への対策や啓発活動の推進 事業継続計画(BCP)の展開 セキュリティリスク対策などのIT統制を着実に実施
安全	事故や輸送障害の未然防止	[安全に関する基本方針]の徹底 現場の声や他社の先進的な取り組みを幅広く収集
	人材育成・活用	自ら知識・技能の習得に努め、安全・安心・快適な鉄道であるための使命を果たせる人材の育成
	中長期施策の推進	京王線(笹塚駅～仙川駅間)連続立体交差事業の推進 下北沢駅改良工事の推進
	減災対策	鉄道施設のさらなる耐震化 異常気象への対応
	安全対策・老朽化対策	ホーム安全対策の推進 踏切安全対策の推進
社会	お客様の利便性・快適性の向上	駅改良工事の実施
		車両のリニューアル
		行先案内板のマルチカラー化
		液晶画面を用いた車内案内表示器の2画面化
	お客様の対話	沿線活性化への取り組み
	多世代が生活しやすい沿線づくり	さまざまなお客様にとって分かりやすい情報の発信
		高齢者事業の展開 生活支援事業の拡大 子育て支援事業の展開
	地域社会への貢献	京王アカデミープログラム(文化・教育・子育て支援イベント)の実施 チャリティイベント・スポーツ振興・産学連携
	地域社会・行政との連携	行政と連携し、地域の活性化を支援
人材の活用と働きやすい職場づくり	ワーク・ライフ・バランスの推進	
	管理職における女性比率を2021年3月までに2016年4月比で5割増	
	障がい者が能力を発揮できる職場環境の整備と障がい者雇用の推進	
株主・投資家・取引先等への取り組み	株主・投資家の皆様に分かりやすい情報開示の推進	
環境	低炭素社会を目指して	車両の省エネルギー化 駅やビルなどの省エネルギー化
	自然共生社会を目指して	高尾山エリアにおける森林再生活動、多摩川における外来植物駆除活動の推進 環境イベントの実施



2016年度実績	2017年度のアクションプラン
取締役会の実効性を向上させるため「審議充実のための運営上の工夫」を実施	コーポレート・ガバナンス、内部統制システムの充実・強化を継続推進
階層別研修・eラーニング等による従業員教育を実施／コンプライアンス・トピックス等による各種啓発活動を実施／法令改正情報の周知・適切な対応策を実施	コンプライアンス意識浸透策、法令改正への対応等を継続実施
グループ共通リスク対策重点項目の策定および対応策の検討・実施／不正行為防止に向けた情報共有を実施 反社会的勢力の排除に関する周知や講習会を実施／新規取引先に対する反社チェックを継続実施	グループ共通リスク対策重点項目等への対応を継続実施
グループ防災情報連絡会を2回実施し、BCP策定状況や安否確認方法などについて情報を共有	グループ全体での防災体制整備を継続実施
情報管理基本方針に基づく管理体制を整備、下位規程を改定 グループ内インシデント収束対応の実施と、恒久対策の検討実施 リスクアセスメント、サイバーテロ対応演習を実施	マニュアル、ガイドライン等の整備、改定PDCAサイクルの確立 セキュリティ対応のグループ内標準対応化検討 リスクアセスメント実施に基づく、課題点の解消
有責事故0件、輸送障害発生件数32件(対前年度12件増)／職場巡視や意見交換会の場での安全に関するメッセージの発信／「安全啓発室」を新設し、映像による経営トップからのメッセージ発信、過去の事故を振り返る教育を実施／「安全ポスター」の展開、「安全講演会」 京王失敗学会 「小集団活動発表会」等の開催	有責事故ゼロと運転事故・輸送障害発生件数の前年比削減 左記施策の継続実施およびトラブル等の原因分析と対策の実施 「安全啓発室」の教育プログラム拡充により、さらなる安全意識の高揚
踏切への英語表記看板の設置、京王アプリによる列車の走行位置表示 「ほめ方・叱り方研修」、「管理職マネジメント研修」、「鉄道部門外の社員への安全教育」などを実施	社員からの「安全に対する気づき」、他社の先進的な取り組みの収集と活用 階層別・テーマ別研修・教育を継続実施、管理職層のマネジメント能力強化
用地取得や設計業務を実施	用地取得や設計業務を実施
駅部の本設躯体の構築や仮通路の切り替えを実施	小田急線交差点における本設橋梁の架設工を実施
新線新宿トンネルの耐震補強工を実施／高架橋、盛土区間の耐震補強工を実施 コンクリート製の電力柱をより耐震性の高い鋼管柱に更新	新宿トンネルの耐震補強工を継続実施 高架橋、盛土区間の耐震補強工を継続実施 コンクリート製の電力柱をより耐震性の高い鋼管柱に更新する工を実施
大雨による土砂災害の防止対策として、高尾線の線路脇斜面を防護する工を実施 雷害対策として、防雷設備の増強や電気機器の耐雷性向上工を実施	大雨による土砂災害の防止対策として、高尾線の線路脇斜面を防護する工を実施 雷害対策として、防雷設備の増強や電気機器の耐雷性向上工を実施 火山の噴火による降灰対策として、線路に積もった灰を除去する装置を導入
新線新宿駅、渋谷駅へのホームドア整備に向けた設計業務を実施 お客様が安全にかつ安心して鉄道の施設をご利用いただくため、「声かけ・サポート運動」を実施	新線新宿駅、渋谷駅へのホームドア設置に向けたホーム補強工を実施 千歳烏山駅などにホーム固定柵を設置 「声かけ・サポート運動」を継続して実施
踏切障害物検知装置の高精度化を実施／踏切内での渡り遅れ対策として、下高井戸5号・浜田山1号踏切内に「踏切支障報知装置(非常ボタン)」を新設	踏切障害物検知装置の高精度化、より視認性の高い踏切警報灯への更新を継続推進
初台駅中央口改札内へのエレベーター設置工の完了	府中駅や京王よみうりランド駅のリニューアル工を実施 初台駅東口や渋谷駅西口のトイレリニューアル工を実施
京王線8000系3編成、井の頭線1000系3編成のリニューアル工を実施	京王線8000系3編成、井の頭線1000系3編成のリニューアル工を実施
飛田給駅・高幡不動駅・吉祥寺駅の行先案内板を従来の4色表示からマルチカラー化	新線新宿駅・京王永山駅・井の頭線明大前駅の行先案内板を従来の4色表示からマルチカラー化
京王線9000系7編成、井の頭線1000系3編成に導入	京王線7000系5編成、9000系8編成、井の頭線1000系3編成に導入
下北沢駅高架下に「KEIO BRIDGE Shimokitazawa」を開業	商業施設「トリエ京王調布」を開業 多摩動物公園エリアに新たなお子様向けの全天候型遊戯施設を開業
訪日外国人向けに中部地方インフォメーションプラザin京王新宿を開業	京王ホームページにおいてタイ語での情報公開を開始
チャームスイート京王聖蹟桜ヶ丘、スマイラス聖蹟桜ヶ丘を開業	高齢者事業の展開を継続実施
暮らしのいろいろレンタルDEAR STYLEサービスを開始	生活支援事業の拡大を継続実施
京王キッズプラッツ国領開設・一時預かり保育開始／事業所内保育所(サクラさーくる)にて地域のお子様の預かりを開始	子育て支援事業の展開を継続実施
京王キッズおしごと隊、高尾山峠中修行体験合宿、子育てサロン、沿線めぐり、講演会等のプログラムを開催	京王アカデミープログラムを継続実施
京王駅伝フェスティバル・京王音楽祭等のチャリティイベントを開催 京王少年少女サッカー・京王ウインターテニス等のスポーツイベントへの協賛	主催イベントや文化イベント協賛を継続実施
コミュニティバスの運行受託や、PFI事業の受託によって、利便性の高い街づくりに貢献 新たな広域観光ルートづくりや高速バスのフリーきっぷの販売、新宿の観光案内所を活用した観光情報の提供等によって、中央道の高速バスエリアの関係自治体や事業者と連携した地域活性化への貢献	コミュニティバスの運行受託や、PFI事業の受託を継続実施 高速バスのフリーきっぷの販売、新宿の観光案内所を活用した観光情報の提供を継続実施
育休取得者数29名／介護との両立に関するセミナーを実施／新宿にサテライトオフィスを拡充／子の看護休暇および介護休暇を半日単位での取得可能に変更／育児や介護と両立する乗務員が働きやすい日勤ダイヤを拡充	働きやすい職場環境・制度の検討を継続実施／調布にサテライトオフィスを新設／ダイバーシティ推進担当を新設
公正な管理職登用の実施／2017年度総合職新卒採用人数のうち女性の占める割合42.1%	公正な管理職登用を継続実施／女性総合職の新卒採用人数を総合職新卒採用人数全体の30%以上にする
障がい者雇用率2.6%	障がい者雇用を継続推進
アナリスト向け決算説明会(年2回)の開催等適切な情報開示の実施や対話機会の設定	継続して適切な情報開示を実施、対話機회를設定
京王線8000系と井の頭線1000系に3編成ずつ新型VVVFインバータ制御装置を導入	新造する京王線5000系車両に車上蓄電池システムを導入／京王線8000系3編成、井の頭線1000系3編成に新型VVVFインバータ制御装置導入
車両や駅構内・ホテル・ショッピングセンター等の照明LED化を推進／駅舎補助電源装置を北野駅に導入	照明のLED化を継続実施
高尾山エリアにて育樹活動を実施／多摩川河川敷にて外来植物駆除活動を実施	高尾山エリアにて育樹活動を継続実施／多摩川河川敷にて外来植物駆除活動を継続実施
京王グリーンキャンペーン、高尾の森 親子森林体験スクール、京王アカデミープログラム等環境教育プログラムを実施	環境教育プログラムを継続実施

ISO26000対照表

中核主題	課題	CSRレポート2017掲載ページ
組織統治	組織統治	P.2-P.3 トップメッセージ P.4-P.5 中期経営計画 P.10-P.11 コーポレート・ガバナンス
	デューデリジエンス	
人権	人権に関する危機的状況	
	加担の回避	
	苦情解決	
	差別及び社会的弱者	P.59-P.62 人材の活用と働きやすい職場づくり
	市民的及び政治的権利	
	経済的、社会的及び文化的権利	
	労働における基本的原則及び権利	
労働慣行	雇用及び雇用関係	
	労働条件及び社会的保護	
	社会対話	P.18-P.19 人材の育成 P.59-P.62 人材の活用と働きやすい職場づくり
	労働における安全衛生	
	職場における人材育成及び訓練	
環境	汚染の予防	P.68-P.69 環境マネジメント
	持続可能な資源の利用	P.70-P.73 低炭素社会を目指して P.74-P.75 循環型社会を目指して
	気候変動緩和及び適応	P.76-P.77 自然共生社会を目指して
	環境保護、生物多様性及び自然生息地の回復	P.78-P.79 環境関連データ
公正な事業慣行	汚職防止	
	責任ある政治的関与	
	公正な競争	P.10-P.11 コーポレート・ガバナンス P.63 株主・投資家・取引先等への取り組み
	バリューチェーンにおける社会的責任の推進	
	財産権の尊重	
消費者課題	公正なマーケティング、情報及び契約慣行	P.8-P.9 特集 座席指定列車の導入 P.10-P.11 コーポレート・ガバナンス
	消費者の安全衛生の保護	P.13 安全方針・安全管理体制 P.16 安全管理方法 P.17 2016年度 安全目標・安全重点施策 P.20-P.21 安全文化の構築 P.22-P.23 危機に備えた訓練 P.24-P.29 施設・設備の取り組み
	持続可能な消費	P.30-P.31 日々の保守管理 P.32-P.34 災害などへの備え P.35 その他の取り組み P.36 2016年度 輸送安全実績 P.37 2017年度 安全目標・安全重点施策
	消費者に対するサービス、支援、並びに苦情及び紛争の解決	P.38-P.39 お客様との連携 P.40-P.41 グループ会社の安全対策 P.46-P.49 お客様の利便性・快適性の向上 P.50-P.51 お客様との対話 P.52-P.53 多世代が生活しやすい沿線づくり P.63 株主・投資家・取引先等への取り組み
	消費者データ保護及びプライバシー	
	必要不可欠なサービスへのアクセス	
	教育及び意識向上	
	コミュニティへの参画	
	教育及び文化	
	雇用創出及び技能開発	P.46-P.49 お客様の利便性・快適性の向上 P.52-P.53 多世代が生活しやすい沿線づくり
技術の開発及び技術へのアクセス	P.54-P.56 地域社会への貢献 P.57-P.58 地域社会・行政との連携	
富及び所得の創出		
健康		
社会的投資		

※GRI対照表については京王HPで公開します。



会社概要 (2017年3月31日時点)

社名	京王電鉄株式会社
会社設立	1948年6月1日
本社所在地	〒206-8502 東京都多摩市関戸一丁目9番地1 (登記上の本店所在地 〒160-0022 東京都新宿区新宿三丁目1番24号)
資本金	590億23百万円
従業員数	2,497名
【鉄道事業】	
路線	京王線、高尾線、相模原線、 競馬場線、動物園線、井の頭線
駅数	69駅
営業キロ	84.7km
輸送人員	年間6億6,032万人(2016年度実績)
営業内容	車両数 847両
【開発事業(土地、建物の賃貸業・販売業など)】	
	新規賃貸資産の開発 賃貸資産の管理・営業 ショッピングセンターの管理・運営 住宅地などの販売
グループ会社数	全55社

役員一覧 (2017年6月29日時点)

	代表取締役会長 永田 正		代表取締役社長 紅村 康
	専務取締役 (鉄道事業本部長)		高橋 泰三
	常務取締役 (経営統括本部長、財務・情報開示担当)		丸山 荘
	常務取締役 (開発事業本部長)		仲岡 一紀
	常務取締役 (総務法務部・広報部・人事部分担、コンプライアンス担当)		伊藤 俊司
取締役 (経営統括本部グループ事業本部長)	越水 陽太郎	取締役	山本 護
取締役 (開発事業本部ホテル戦略部長)	中島 一成	取締役	駒田 一郎
取締役 (戦略推進本部長、事業創造部長)	南 佳孝	取締役	川瀬 明伸
取締役 (戦略推進本部副本部長、沿線価値創造部長)	櫻井 俊樹	取締役	保木 久仁彦
取締役 (鉄道事業本部副本部長)	寺田 雄一郎	常勤監査役	黒岩 法夫
取締役	高橋 温	常勤監査役	水野 諭
取締役	古市 健	監査役	北村 敬子
取締役	川杉 範秋	監査役	金子 正志

京王グループ会社一覧 (2017年7月31日時点)



京王電鉄路線図



株主の状況

当社の2017年3月31日現在の株主数は33,524名です。全体の約7割が、当社沿線に在住されている個人株主です。

● 株式の状況*

発行可能株式総数	1,580,230,000株
発行済株式総数	642,754,152株
株主数	33,524名

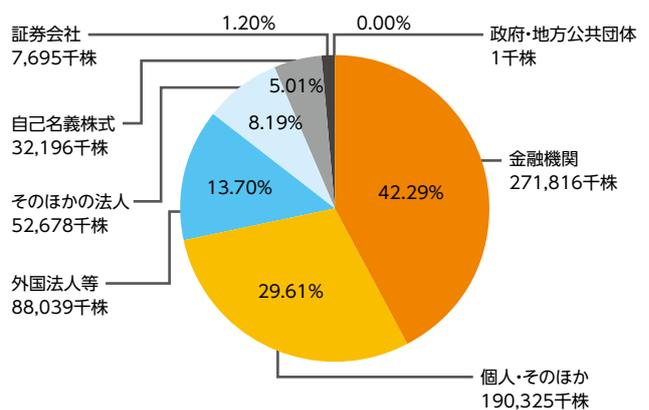
*2017年10月1日を効力発生日として、単元株式数の変更および株式併合をいたします。

● 株主総会

2017年6月29日に京王プラザホテル八王子にて第96期定時株主総会を開催し、821人の株主様に出席いただきました。

当日は、2016年度の事業の経過や業績および「京王グループ中期3カ年経営計画」の取り組み状況について分かりやすくお伝えするよう努めました。

● 株式分布状況(2017年3月31日現在)



当社は、以下のサステナビリティ/ESG指数の構成銘柄に選定されています。



SNAMサステナビリティ・インデックス



MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数



第三者意見

全体を通して、「つながりあうすべての人に誠実であり、環境にやさしく、『信頼のトップブランド』になることを目指します」という京王グループの理念が反映された良いレポートだと思います。お客様、社員、行政担当者、NGOなど各ステークホルダーの生の声や写真が数多く掲載されており、顔の見えるレポートとなっている点も特徴です。

今回のレポートで最も評価したいのは、2017年度の経営計画において、「鉄道事業の安全性・収益力の向上」「沿線の活性化」「成長に向けた取り組み」と並んで、「企業の社会的責任に対する取り組み」が位置づけられている点です(P. 5)。トップメッセージにあるように、2017年度は「京王グループ中期3カ年経営計画」の最終年度にあたります。2015年度～2016年度にかけて連結当期純利益も順調に推移し、2017年度も当初計画を上回る収益予想を立てておりそれ自体評価に値しますが、なにより経営計画にCSRの観点を組み込んだ「CSR経営」の推進体制が整いつつあることを高く評価したいと思います。また、昨年に引き続き、本レポートには、CSRアクションプランも掲載されています(P. 80～P. 81)。次の3カ年経営計画についても持続的成長を支える要素としてCSR経営を位置づけ、今以上に事業戦略とCSRとを連動させた経営を実践していただくことを期待します。

安全報告のパートでは、「『安全』は最大の使命であり、最高のサービスである」という京王グループの方針にもとづき、安全管理方法、人材の育成、安全文化の構築、危機に備えた訓練など、「安全」・「安心」を提供するためのさまざまな取り組みが報告されています。ハード面では、引き続き、笹塚駅～仙川駅間の連続立体交差事業を推進するとともに、耐震補強工事を実施しました。注目したいのは、「事故展示室」を「安全啓発室」へとリニューアルして社員の安全意識の向上に努めると同時に(P. 20)、ホームでの転落事故やトラブルを未然に防止するためにお客様への「声かけ・サポート」運動を2016年度からスタート(P. 35)するなど、ソフト面の安全施策がさらに充実したことです。「鉄道運転事故・輸送障害による運転見合わせ時間」を新たに掲載するなど情報公開も進んでいます。運輸事業者が果たすべき最も大切な社会的責任として、ハード面・ソフト面の両面において着実に「輸送の安全性」を高めている点に、同グループの安全意識の高さを見てとることができます。

社会性報告のパートでは、お客様の利便性・快適性の向上のための施策、多世代が生活しやすい沿線づくり、地域社会への

立教大学経営学部
教授／経済学博士

高岡 美佳



貢献活動などがまとめられています。これらの報告を読むと、京王グループがお客様や沿線住民、そして地域社会と誠実に向き合っていることがわかります。また、2016年度はグループ内の人材活用と働きやすい職場づくりが進展したことを高く評価します。前回CSRアクションプランで掲げた「女性総合職の新卒採用人数を30%以上にする」という目標は今回42.1%と大幅に上回り、「管理職における女性比率」も上昇しました(P. 60)。さらに、「月ごとの平均所定外労働時間」が減少し(P. 59)、「ダイバーシティ推進担当」を新設する(P. 61)など、多様な人材の能力を最大限に引き出し、社員が生き生きと働くことのできる職場環境が整ったと言えるでしょう。

環境報告のパートでは、まず、環境負荷の高い鉄道事業部門と開発事業部門において、CO₂排出量・廃棄物排出量ともに、総量ベースで前年度と比較して横ばいから減少の数値となったことを評価したいと思います(P. 78)。また、新たに今年度より「外来植物駆除」活動に参加するなど、「生物多様性の保持」にも意欲的に取り組んでいます。今回のレポートでは、特集記事(P. 8～P. 9)として新型車両「5000系」が紹介されていますが、この車両は新型VVVFインバータ制御装置やLED照明だけでなく、さらなる省エネルギー化を図るため車上蓄電池システムを採用しているとのこと。京王グループは、大手私鉄の中で初めてVVVFインバータ制御装置を全営業車両に導入し、環境意識の高い企業グループとして定評がありますが、今後も省エネルギー、循環型社会の形成、自然との共生に積極的に取り組んでいただきたいと思います。



この安全・社会・環境報告書の用紙は、環境や地域社会に配慮して管理された森林から生産されたFSC®認証紙を使用しています。

また、日本印刷産業連合会が認定する工場のもと、インキに含まれる有害な石油系の溶剤(VOC)の一部を植物性油で代用したインキを使用しているほか、揮発性有機溶剤を含む湿し水を使用しない、地球環境に配慮した水なし印刷方式で作成されています。

なお、本レポートの原材料調達からリサイクルされるまでのライフサイクル全体で発生する温室効果ガスをCO₂の量に換算した数値は、1冊あたり1,400gになります。



京王電鉄キャラクター
けい太くん

京王電鉄株式会社

〒206-8502

東京都多摩市関戸一丁目9番地1

安全・社会・環境報告書に関するお問い合わせ

広報部 企画・環境担当

Tel. 042-337-3106

Fax. 042-337-5536

www.keio.co.jp

2017年9月発行